

子どもの「体験格差」実態調査 最終報告書

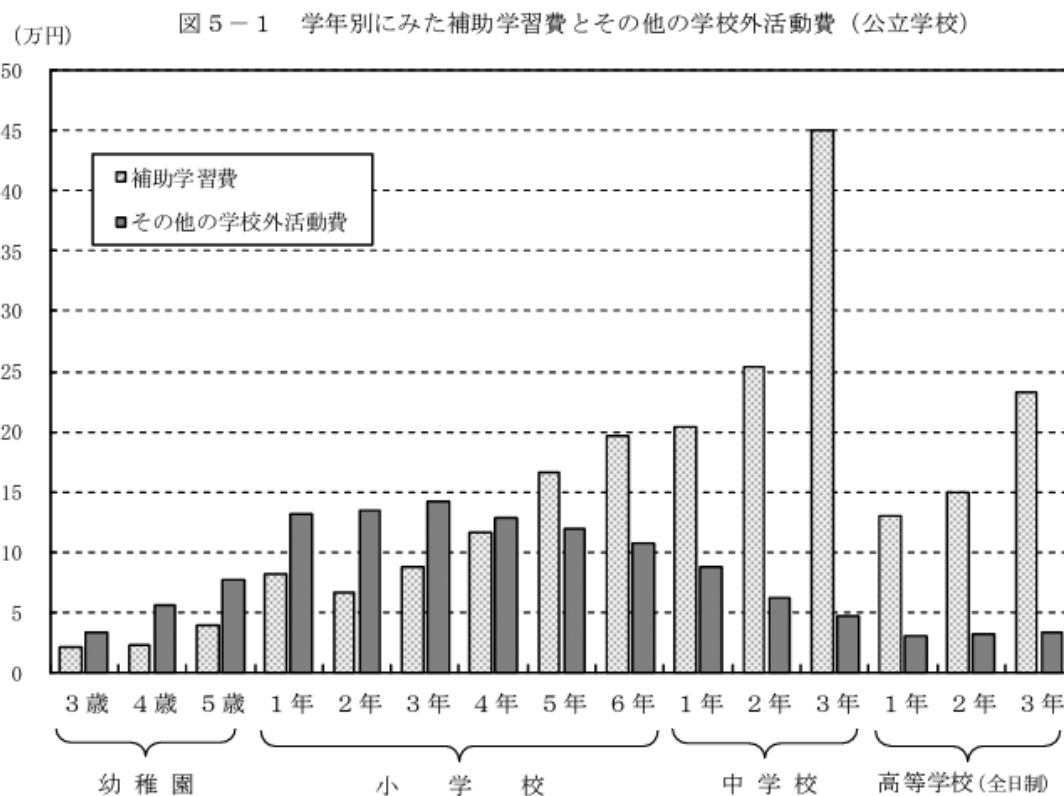
～全国の小学生保護者2,097人へのアンケート調査～

目次	P2
1. はじめに	P3
1-1. 調査の背景と目的	P4
1-2. 先行研究・調査	P6
2. 調査概要	P9
2-1. データ収集	P10
2-2. 本調査における「体験」の範囲	P13
2-3. アンケート回答者の属性	P15
3. 調査結果	P16
※調査結果の詳細な目次はP17参照	
4. まとめ	P111

1. はじめに

1. 当法人は、10年以上にわたり「多様な学びをすべての子どもに」というミッションのもと、生活困窮家庭の子どもたちへ学びや体験の機会を保障する活動を行ってきた。当法人の前身となっているのは、1995年の阪神・淡路大震災を契機に発足し、子どもたちの学校外での学習や野外体験、レクリエーション活動、国際交流活動などを続けてきたNPO法人である。前身団体を含め、これまでの活動の中で、子どもの頃の体験が、子どもの育ちにとって重要であることを実感してきた。また、「体験活動」がもたらす効果については、国内外の研究でも示されている（P6参照）。
2. 特に、日本では小学校低学年～中学年において、学校外教育費に占める体験活動への支出割合が学習活動への支出割合より高く、子どもたちにとって体験活動が学習活動以上に大きな存在となっている側面もある（P5参照）。
3. 一方で、生活困窮家庭の子どもたちが体験機会にアクセスしにくいという、「格差」の問題も目の当たりにしてきた。しかしながら、体験機会の格差（以下、体験格差という）については、これまで様々な調査や研究で、部分的に触れられてきた（P7参照）ものの、「体験格差」自体に焦点を当てて設計された全国規模の調査は行われておらず、必ずしもその全貌が明らかになっていないことが課題だと認識している。
4. さらに、2020年以降、新型コロナの感染拡大や物価高騰の影響で、私たちの社会や子どもたちの生活環境には大きな変化が生じている。子どもの体験についても、それらの社会変化の影響を受けているという調査結果も報告されている（P8参照）。
5. これらの問題意識のもと、今回は子どもたちの「体験格差」に焦点を当てた全国規模の調査を行い、その実態を明らかにすることを目的とした。今回の調査によって、「体験格差」の問題に、これまで以上に光を当て、よりよい支援制度や社会の在り方について検討するための土台を作ることを目指す。

- ✓ 文部科学省による「令和3年度子供の学習費調査」によると、小学4年生までは「その他の学校外活動費」（学校外の体験活動への支出額）が「補助学習費」（学校外の学習活動への支出額）より多い。
- ✓ なお「平成30年度子供の学習費調査」では、小学5年生までは「その他の学校外活動費」が「補助学習費」より多い状況となっていた。コロナ禍により学校での学習量が減少する中、学校外での学習量を増やす家庭が増え、令和3年度は一時的に時期が早まった可能性がある。



出典：文部科学省「令和3年度子供の学習費調査」

(1) 体験活動の効果

- 池迫,宮本(2015)は、子どもの社会情動的スキル(※)の育成に関する国際的エビデンスをまとめ、「課外活動」が子どもの社会情動的スキルの強化に役立つとしている*1。例えば、Durlak,Weissberg & Pachan(2010)が行った、子どもの放課後プログラムに関するメタ分析によると、参加者は統制群に比べ、自己認識(例:自尊心、自己概念、自己効力感)、学校との結びつき、肯定的な社会的行動、学習達成度を有意に上昇させていた*2。また、Covay and Carbonaro(2010)による研究では、音楽のレッスン、ダンスのレッスン、舞台芸術活動、芸術のレッスン、スポーツ、放課後のクラブに参加する小学生は、こうした活動に参加していない者に比べ、より高い注意力、秩序、柔軟性、課題に対する粘り強さ、学習における自主性、学習に対する意欲を見せることを示した*3。これらの活動以外にも、国際的研究では、地域でのボランティア活動が、若者の社会情動的スキルに肯定的な影響を与えることが示唆されている(Gutman and Schoon, 2013)*4。この他にも、「野外冒険プログラム」が社会情動的スキルを伸ばすのに有益である可能性を国内外の研究をもとに示している。これらの研究では、「体験活動」という言葉を使用していないが、放課後に行うスポーツや文化芸術活動、自然体験や社会体験などの活動が、子どもの育ちにとって重要な意味を持つ可能性を示している。
- 国内の調査も確認すると、文部科学省(2021)「青少年の体験活動の推進に関する調査研究」では、21世紀出生児縦断調査(平成13年出生児)の結果を用いて、自然体験(キャンプなど)や社会体験(職業体験やボランティアなど)、文化的体験(動植物園・博物館体験、音楽鑑賞など)などの「体験活動」の影響を検証する試みを行っている。因果関係を示すデータではないが、小学生時代に自然体験の機会が多かった子どもは、17歳時点での自尊感情が高いという結果が示されている*5。

※同報告書によると、社会情動的スキルは、「健康、市民参加、ウェル・ビーイングといった社会的成果を推進するために重要な役割を果たしうる」とされ、その定義は、「一貫した思考・感情・行動のパターンに発現し、フォーマル又はインフォーマルな学習体験によって発達させることができ、個人の一生を通じて社会・経済的成果に重要な影響を与えるような個人の能力」とされている。特に、目標の達成(忍耐力、自己抑制、目標への情熱)、他者との協働(社交性、敬意、思いやり)、情動の制御(自尊心、楽観性、自信)に関わるようなスキルであるとされている。

(2) 「体験格差」の状況

- 前述の文部科学省(2021)「青少年の体験活動の推進に関する調査研究」では、世帯年収が低い家庭の子どもや親の学歴が低い家庭の子ども、あるいはひとり親世帯の子どもは、自然体験や文化的体験の機会が少ないことを示している。しかし、定期的に行う文化芸術活動やスポーツなどの習い事やクラブ活動などは、調査の対象となっていない。
- 文部科学省(2019)「平成30年度子供の学習費調査」では、学校外活動の支出について調査している。それによると、世帯年収が低い家庭ほど、体験活動や芸術文化活動、スポーツ、国際交流体験活動、教養その他に関する支出が少ないことが明らかになっている^{*6}。一方で、これらの調査結果では、世帯年収区分として、最も低いグループが「世帯年収400万円未満」となっているため、相対的貧困世帯をはじめとした生活困窮家庭の子どもの状況を把握するうえでは課題が残る。ベネッセ教育総合研究所(2017)は、学校外教育活動に関する調査を行っている。ここでも、世帯年収が低い家庭ほど、スポーツや芸術活動への支出が低いことがわかっている^{*7}。しかし、この調査結果も前述の調査と同様、世帯年収区分が最も低いグループを「世帯年収400万円未満」としていることに加え、自然体験や社会体験、文化的体験などの活動は、支出に含まれていない。
- 各自治体も、子どもを持つ保護者への調査の一部で、体験機会について触れている。例えば、東京都(2017)「子供の生活実態調査」では、経済的理由で習い事(音楽、スポーツ、習字など)に通わせることができない割合や家族旅行にいけない割合が、特に困窮層で多いことが示されている。また、海水浴や博物館、キャンプやスポーツ観戦などを、経済的理由で体験できない割合も、特に困窮層で多いことがわかっている^{*8}。また、大阪府(2017)「子どもの生活に関する実態調査」では、経済的な理由で、「子どもを習い事に通わすことができなかった」、「子ども会、地域の行事(祭りなど)の活動に参加することができなかった」、「家族旅行ができなかった」と回答した者が、特に困窮度の高い世帯で多いことが明らかになっている^{*9}。沖縄県(2019)「平成30年度沖縄県小中学生調査」でも、大阪府と同様の結果が出ている^{*10}。これらの自治体の調査を通じて、困窮家庭の子どもが体験機会にアクセスしづらい実態が明らかになっている一方で、これらの自治体調査は、地域や体験の範囲が限定的であることが課題である。

(3) コロナ禍の体験機会への影響

- 公益財団法人日本財団,三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社(2021)は、コロナ禍における臨時休校や学校行事の中止・縮小が子どもたちに与える影響について分析している。特に、小学生で、学校行事の縮小や中止は、非認知能力や生活習慣等に悪影響を与えていると指摘している^{*11}。
- 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所(2022)は、小学生から高校生において、2019年と2021年に旅行やスポーツ観戦、地域の行事などの実施状況を調査しているが、旅行やスポーツ観戦、地域の行事など、体験に関する多くの項目で機会が減少していることが明らかになっている^{*12}。

参考文献

- ^{*1} 池迫浩子, 宮本晃司(2015)ベネッセ教育総合研究所訳「家庭、学校、地域社会における社会情動的スキルの育成 国際的エビデンスのまとめと日本の教育実践・研究に対する示唆」OECD Education Working Papers, No. 121, OECD Publishing.
- ^{*2} Durlak, J.A., R.P. Weissberg & M. Pachan(2010) “A meta-analysis of after-school programs that seek to promote personal and social skills in children and adolescents”, *American Journal of Community Psychology*, Vol.45,pp.294-309.
- ^{*3} Covay and Carbonaro(2010) “After the Bell: Participation in Extracurricular Activities, Classroom Behavior, and Academic Achievement”, *Sociology of Education*, Vol. 83/1, pp.20-45.
- ^{*4} Gutman, L.M. and I. Schoon(2013), The impact of non-cognitive skills on outcomes for young people. A literature review, Institute of Education, University of London, London.
- ^{*5} 株式会社浜銀総合研究所(2021)「青少年の体験活動の推進に関する調査研究報告書」(2022年12月8日アクセス)
- ^{*6} 文部科学省(2019)「平成30年度子供の学習費調査」(2022年12月8日アクセス)
- ^{*7} ベネッセ教育総合研究所(2017)「学校外教育活動に関する調査2017」(2022年12月8日アクセス)
- ^{*8} 首都大学東京子ども・若者貧困研究センター(2017)「東京都子供の生活実態調査報告書」(2022年12月8日アクセス)
- ^{*9} 公立大学法人大阪府立大学(2017)「大阪府子供の生活に関する実態調査」(2022年12月8日アクセス)
- ^{*10} 沖縄県(2019)「平成30年度沖縄県小中学生調査報告書」(2022年12月8日アクセス)
- ^{*11} 公益財団法人日本財団,三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社(2021)「コロナ禍が教育格差にもたらす影響調査」(2022年12月8日アクセス)
- ^{*12} 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所(2022)「子どもの生活と学びに関する親子調査2021 ダイジェスト版」(2022年12月8日アクセス)

2. 調查概要

2-1. データ収集

対象者	小学1年生～6年生の子どもがいる世帯の保護者
調査期間	2022年10月12日～10月14日
調査方法	インターネットアンケート調査会社のモニターを利用したWEB調査（全国調査）
有効回答数	2,097件
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none">・世帯年収、家族構成、保護者学歴、保護者職業・学校外の体験活動や学習活動への参加状況及び年間支出・子どもがやってみたくと思う体験をさせてあげられなかった経験・理由・物価高騰が子どもの学校外の体験や学習に与えた影響・保護者の小学生の頃の経験（体験活動への参加状況） など
調査体制	実施主体：公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン 協力：小林 庸平（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 主任研究員） 喜多下悠貴（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 主任研究員） 助成：みてね基金

※本調査は、小林庸平氏、喜多下悠貴氏による調査設計や分析についての助言、協力のもと実施した。調査費については、みてね基金からの助成を受けた。ただし、調査内容や結果に関する一切の責任は、調査実施主体であるチャンス・フォー・チルドレンにあるものとする。

本調査の設計及び分析については、専門家（プロボノ）による
助言・協力を得て実施した。



小林 庸平 氏

三菱UFJリサーチ & コンサル
ティング株式会社
政策研究事業本部 経済政策部
主任研究員

プロフィール

一橋大学大学院経済学研究科博士課程修了、博士（経済学）。経済産業省産業構造課課長補佐などを経て、現職。専門は、公共経済学、計量経済分析、子どもの貧困、エビデンスに基づく政策形成（EBPM）。主著に『徹底調査 子供の貧困が日本を滅ぼす 社会的損失40兆円の衝撃』文春新書（共著）等。



喜多下 悠貴 氏

三菱UFJリサーチ & コンサル
ティング株式会社
政策研究事業本部 公共経営・
地域政策部 主任研究員

プロフィール

東京大学大学院教育学研究科修士課程修了、修士（教育学）。専門は教育政策、地域における子ども支援など。主著に『地域協働による高校魅力化ガイド』岩波書店（共著）等。

1. 本調査では、低所得世帯を世帯年収300万円未満と定義した。給与収入299万円の場合の所得金額（給与所得控除後の金額）は、概算で約201万円となる。2019年国民生活基礎調査によると、日本における2018年の子どもがいる世帯の貧困線（等価可処分所得の中央値の半分）は、127万円であった。これは、2人世帯で換算すると約179万円、3人世帯で約219万円、4人世帯で約254万円となる。これらを勘案して、今回は「世帯年収300万円未満」を低所得世帯とした。
2. 本調査では、家庭間の「格差」に焦点を当てた分析を行う目的のもと、「世帯年収300万円未満」の保護者と「世帯年収300万円以上」の保護者の割合が5：5となるように回収・割付を行った。また、「世帯年収300万円以上」の保護者については、2019年国民生活基礎調査の年収分布を参考に割り付けた。地域分布に関しては、国勢調査の人口構成比をもとに回収・割付を行った。ただし、「世帯年収300万円未満」の保護者については、同様の基準（国勢調査の人口構成比）で調査を開始したが、サンプル数確保のために全エリアで該当モニターのほぼ全数に追加回収を行った。よって、回収された「世帯年収300万円未満」の保護者の構成比は、「世帯年収300万円以上」の保護者と比較して、都市部の割合がやや少なく、地方が多い結果となっている。
3. 小学生の子どもが複数いる場合には、最年長の子どもの学年を回答することとし、以降の各設問についても最年長の小学生の子どもについて回答するものとした。よって、今回の調査設計上、回答の対象となる子どもの学年区分が高学年に偏りが発生している。
4. 有効回答数2,097件は、次の①～③の手順で異常値（32件）の除外を行った後の数値である。
 - ①各回答者の教育費総額÷世帯年収を算出
 - ②①の平均値と標準偏差を算出
 - ③②の平均値±3標準偏差以内に入らない回答者を異常値として除外

子どもの育ちにとって重要な体験は幅広く存在するが、
本調査では、特に「**学校以外の時間（放課後）**に行う体験」に焦点を当てた。
そのうえで、以下の通り「**体験活動**」を分類し、調査の対象範囲として設定した。

学校外の体験活動

定期的な体験活動（主に習い事、クラブ活動など）

スポーツ・運動

球技／水泳／武道・格闘技
／ダンス・バレエ・舞踏／
体操／陸上競技／ボーイス
カウト・ガールスカウト／
その他

文化芸術活動

音楽／アート・造形・工作
／演劇・ミュージカル／外国文化（語学・英会話を除く）／習字・書道／将棋・
囲碁／茶道・華道／料理／
科学・プログラミング／そ
の他

単発で行う体験活動

自然体験

キャンプ・登
山・川遊び・釣
り／海水浴・マ
リンスポーツ／
ウィンタース
ポーツ（ス
キー・スノ
ボー）／その他

社会体験

農業体験／職業
体験／ボラン
ティア／その他

文化的体験

動物園・水族
館・博物館・美
術館見学／音
楽・演劇・古典
芸能鑑賞又は体
験／スポーツ観
戦又は体験／留
学・ホームステ
イ・外国文化体
験／旅行・観光
／地域の行事・
お祭り・イベン
ト／その他

※「定期的な体験活動」は、企業・NPO・個人、地域や保護者のボランティア等が運営する団体・教室、学校の放課後活動等を含む。

※「単発で行う体験活動」は、企業・NPO・個人、地域や保護者のボランティア等が主催する活動、自治体・公的機関等が主催する活動の他、団体以外（保護者等が引率、個人・友人同士での活動）の活動も含む。

※「ボーイスカウト・ガールスカウト」の活動内容は、自然体験や文化的体験等の要素が大きいが、「定期的な活動」という性質を考慮し、上記の分類とした。

※本調査では、語学や英会話、そろばん等は、教科学習の要素が強いことを踏まえ、「学習活動」として位置付けるものとし、上記の「体験活動」の分類からは除外した（本調査における「学習活動」の種類：学習塾、家庭教師、オンライン・通信教育、語学・英会話、そろばん）。

本調査では、体験活動の選択肢として、「定期的に参加していた学校外の体験活動（習い事等）」と「単発で体験した学校外の活動」に分けて質問した。設問及び選択肢・分類は以下の通り。

定期的に参加していた学校外の体験活動（習い事等）

設問：この1年間で、お子様が定期的に参加していた学校外の体験活動（習い事等）はありますか。当てはまるものがあれば、すべてお選びください。

<回答の選択肢>

スポーツ・運動

- 球技
- 水泳
- 武道・格闘技
- ダンス・バレエ・舞踏
- 体操
- 陸上競技
- ボーイスカウト・ガールスカウト
- その他（具体的に： ）

文化芸術活動

- 音楽
- アート・造形・工作
- 演劇・ミュージカル
- 外国文化（語学・英会話を除く）
- 習字・書道
- 将棋・囲碁
- 茶道・華道
- 料理
- 科学・プログラミング
- その他（具体的に： ）

- 何もしていない

単発で体験した学校外の活動

設問：この1年間で、お子様が単発で体験した学校外の活動はありますか。当てはまるものがあれば、すべてお選びください。※定期的な習い事は含みません。ご家族や個人での私的な活動も含みます。

<回答の選択肢>

自然体験

- キャンプ・登山・川遊び・釣り
- 海水浴・マリンスポーツ
- ウィンタースポーツ（スキー・スノーボード）
- その他（具体的に： ）

社会体験

- 農業体験
- 職業体験
- ボランティア
- その他（具体的に： ）

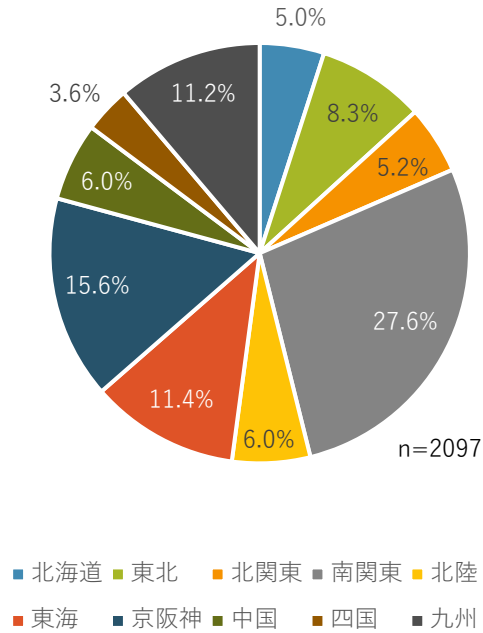
文化的体験

- 動物園・水族館・博物館・美術館見学
- 音楽・演劇・古典芸能鑑賞又は体験
- スポーツ観戦又は体験
- 留学・ホームステイ・外国文化体験
- 旅行・観光
- 地域の行事・お祭り・イベント
- その他（具体的に： ）

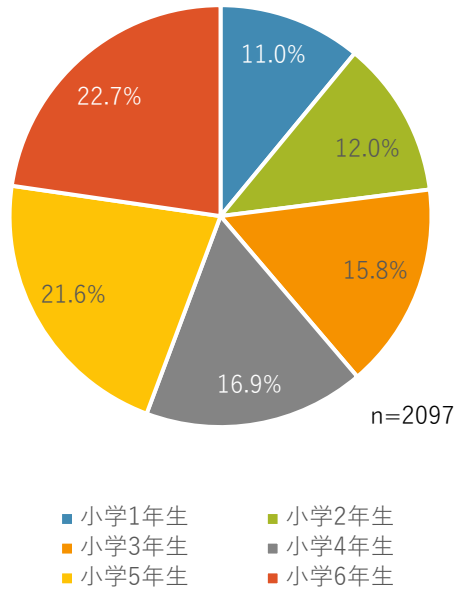
- 何もしていない

2-3. アンケート回答者の属性

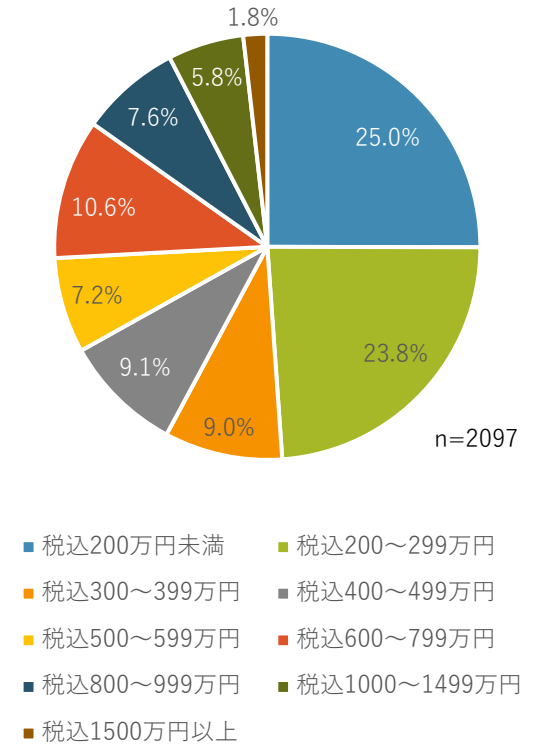
居住地域



子どもの学年



世帯年収



エリア区分
 北海道: 北海道
 東北: 青森県/岩手県/宮城県/秋田県/山形県/福島県
 北関東: 茨城県/栃木県/群馬県/山梨県
 南関東: 埼玉県/千葉県/東京都/神奈川県
 北陸: 新潟県/富山県/石川県/福井県/長野県
 東海: 岐阜県/静岡県/愛知県/三重県
 京阪神: 滋賀県/京都府/大阪府/兵庫県/奈良県/和歌山県
 中国: 鳥取県/島根県/岡山県/広島県/山口県
 四国: 徳島県/香川県/愛媛県/高知県
 九州: 福岡県/佐賀県/長崎県/熊本県/大分県/宮崎県/鹿児島県/沖縄県

※小数点第2位を四捨五入したため、百分比の合計が100%にならない場合がある。

3. 調査結果

備考：

- ・グラフや表については、小数点第2位を四捨五入したため、百分比の合計が100%にならない場合がある。また、金額については、小数点第1位を四捨五入したため、各内訳金額の総和が合計金額と一致しない場合がある。
- ・具体的な体験活動の選択肢（分類・種類）は、P14参照。
- ・体験活動への年間支出額について、特に記載がない限りは、参加していない子どもの支出額は0円として計算している。
- ・各体験活動に参加している子どもの割合や年間支出額の内訳について、「①+②」は「①スポーツ・運動、②文化芸術活動の少なくとも1つに参加している子ども」を集計している。「③+④+⑤」は「③自然体験、④社会体験、⑤文化的体験の少なくとも1つに参加している子ども」を集計している。「①+②+③+④+⑤」は「①スポーツ・運動、②文化芸術活動、③自然体験、④社会体験、⑤文化的体験の少なくとも1つに参加している子ども」を集計している。
- ・「多子世帯」は、子どもが3人以上の世帯を指す。
- ・「三大都市圏」は、東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県の1都2府5県としている。
- ・本調査のサンプルの内訳は、300万円未満の家庭が半数を占めており、全サンプルの平均を出すと、実態社会と乖離することから、厚生労働省「国民生活基礎調査2021」における世帯数の相対度数分布（児童のいる世帯）をベースにウェイトバックを行っているところがある（該当箇所はスライドに記載）。

3-1. 家庭背景別の「体験格差」の現状 (P18)

- (1) 世帯年収と体験 P18
 - ① 体験活動への参加状況 (全体) P19
 - ② 体験活動への参加状況 (中分類) P20
 - ③ 体験活動への参加状況 (小分類) P21
 - スポーツ・運動
 - 文化芸術活動
 - 自然体験
 - 社会体験
 - 文化的体験
 - ④ 体験活動への参加種類数 P31
 - ⑤ 体験活動への参加頻度 P33
 - ⑥ 体験活動への年間支出額 P35
 - ⑦ 体験活動を諦めた理由 P38
- (2) その他の背景と体験 P40
 - ① ひとり親家庭 P41
 - ② 多子世帯 P44
 - ③ 居住地域 P47
 - ④ 保護者の学歴 P53
 - ⑤ 保護者の経験 P56

3-2. 物価高騰による体験活動への影響 (P62)

- (1) 世帯年収 P63
- (2) ひとり親家庭 P65
- (3) 居住地域 P66

3-3. 保護者の経験 (P68)

- (1) 保護者の経験と現在の世帯年収 P68
- (2) 保護者の経験と学歴 P72

3-4. 多様な体験の担い手 (P76)

- (1) 活動種類別の運営主体 P76
 - ① スポーツ・運動 P77
 - ② 文化芸術活動 P78
 - ③ 自然体験 P79
 - ④ 社会体験 P80
 - ⑤ 文化的体験 P81
- (2) 運営主体別の費用 P82
 - ① 定期的な体験活動 P83
 - ② 単発で行う体験活動 P84
- (3) 各運営主体への参加状況 (家庭背景別) P85
 - ① 世帯年収 P86
 - ② ひとり親家庭 P91
 - ③ 居住地域 P95
 - ④ 居住地域と世帯年収 P98

3-5. 保護者から寄せられた声 (P103)

- (1) 経済的に厳しい家庭の声 P104
- (2) 物価高騰とコロナの影響 P106
- (3) その他の声 P107

【コラム】多変量解析の結果 (P108)

提供：喜多下悠貴氏（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

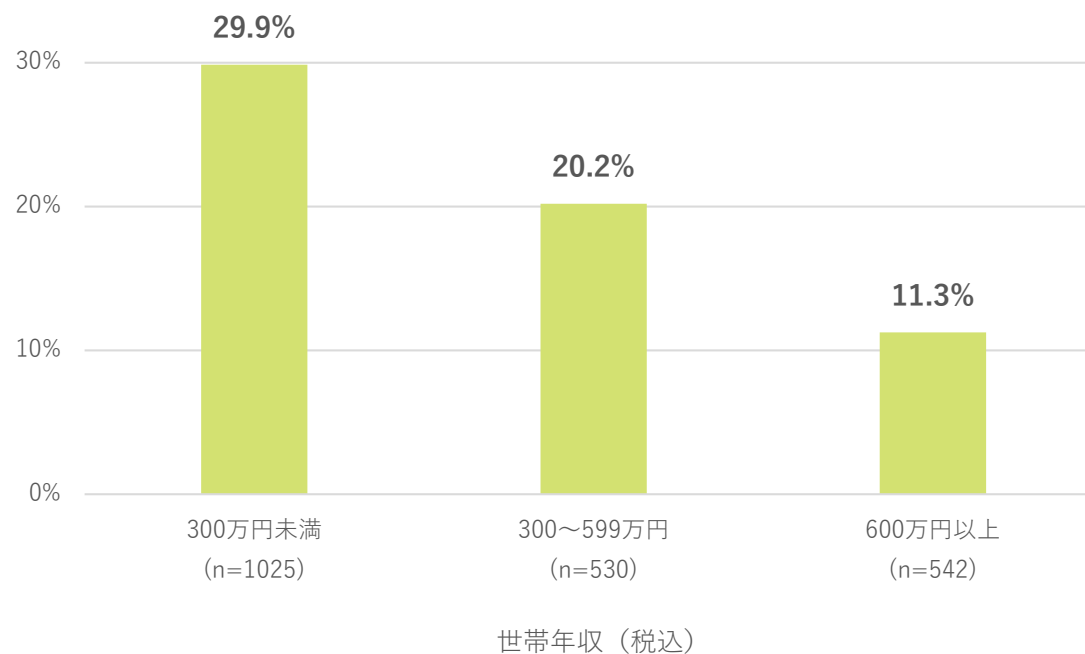
3-1. 家庭背景別の「体験格差」の現状

(1) 世帯年収と体験

① 体験活動への参加状況（全体）

- ✓ 世帯年収300万円未満の家庭の子どもの約3人に1人が、1年を通じて学校外の体験活動を何もしていない（スポーツや文化芸術活動、自然体験、社会体験、文化的体験）。
- ✓ 世帯年収300万円未満の家庭の子どもにおける学校外の体験がない割合は、世帯年収600万円以上の世帯と比較して2.6倍高い。

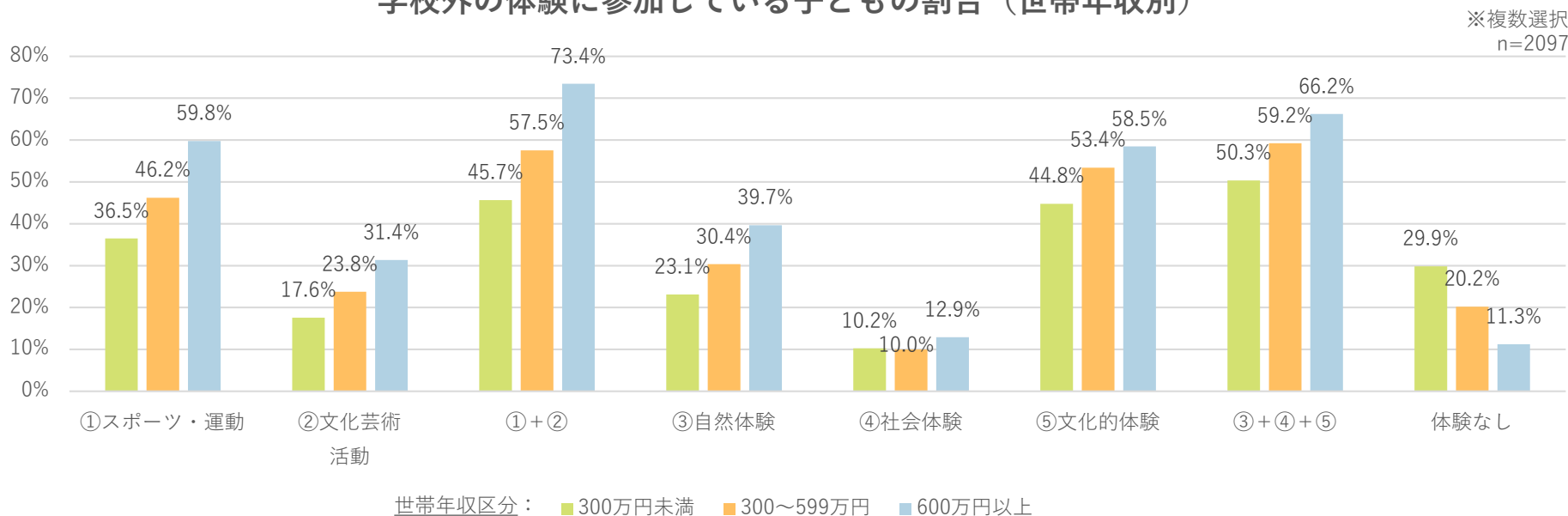
学校外の体験がない子どもの割合（直近1年間）



② 体験活動への参加状況（中分類）

- ✓ 世帯年収300万円未満の家庭と、世帯年収600万円以上の家庭を比較すると、「社会体験」以外の分野で学校外の体験に参加している子どもの割合に10ポイント以上の差が生じている。「スポーツ・運動」については20ポイント以上の差がある。

学校外の体験に参加している子どもの割合（世帯年収別）



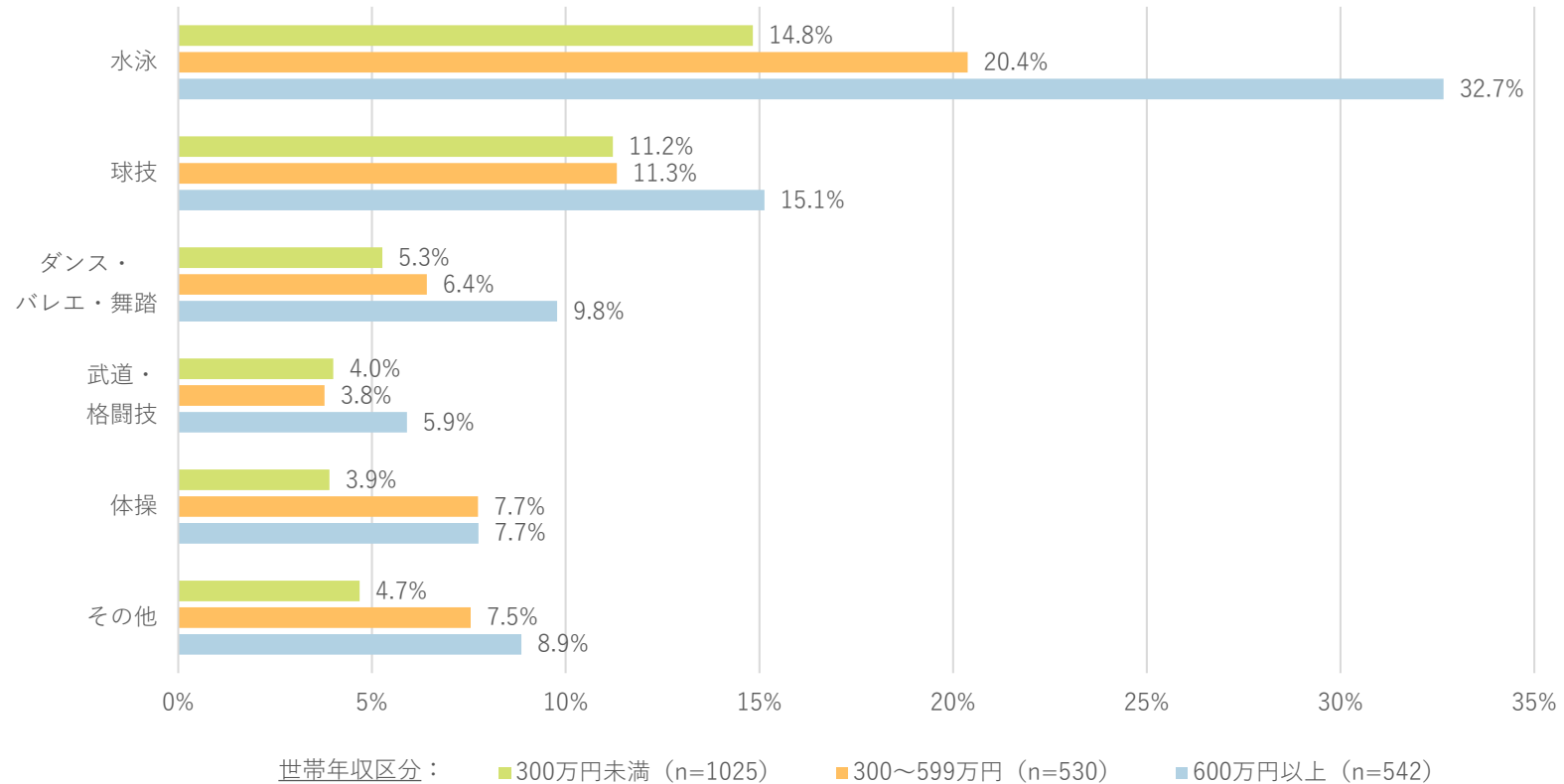
世帯年収区分	定期的な体験活動 (習い事、クラブ活動等)			単発で行う体験活動				体験なし
	①スポーツ・運動	②文化芸術活動	①+②	③自然体験	④社会体験	⑤文化的体験	③+④+⑤	
300万円未満(n=1025)	36.5%	17.6%	45.7%	23.1%	10.2%	44.8%	50.3%	29.9%
300~599万円(n=530)	46.2%	23.8%	57.5%	30.4%	10.0%	53.4%	59.2%	20.2%
600万円以上(n=542)	59.8%	31.4%	73.4%	39.7%	12.9%	58.5%	66.2%	11.3%

③ 体験活動への参加状況（スポーツ・運動）

- ✓ 概ね世帯年収が高い家庭ほど、各種「スポーツ・運動」に参加している子どもが多い。特に「水泳」は、世帯年収300万円未満の家庭と世帯年収600万円以上の家庭で、2.2倍の差が生じている。

各種「スポーツ・運動」に参加している子どもの割合（複数選択）

n=2097



※本グラフの「その他」には、参加者が100人以下の活動（「陸上競技」「ボーイスカウト・ガールスカウト」）および「その他」をまとめた。本グラフの世帯年収300~599万円の家庭の「その他」の数値（7.5%）が、P22の世帯年収300~599万円の家庭の「陸上競技」「ボーイスカウト・ガールスカウト」「その他」の総和（7.6%）と相違しているのは、P22は小数点第2位を四捨五入しているため。

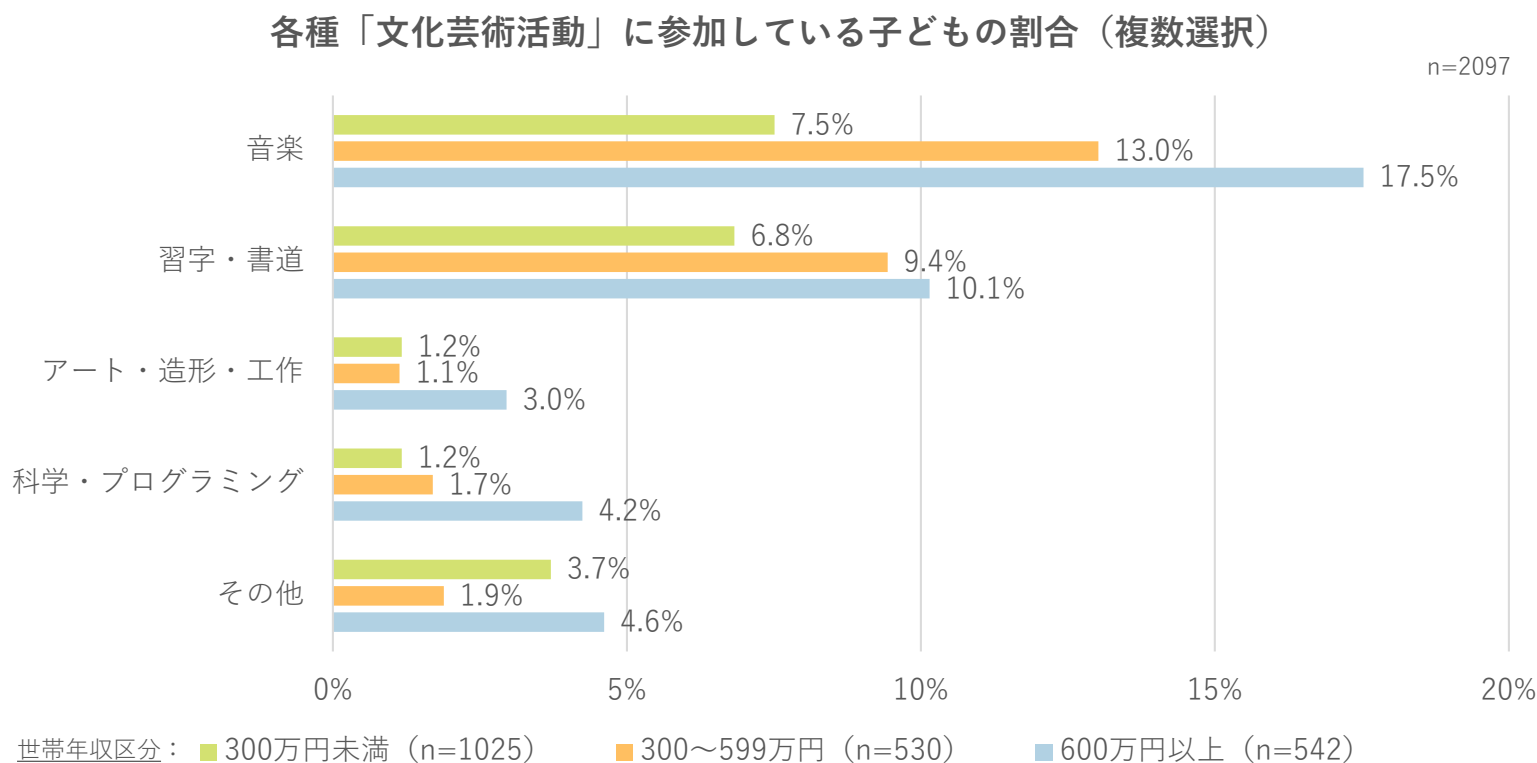
③ 体験活動への参加状況（スポーツ・運動）

各種「スポーツ・運動」に参加している子どもの割合（複数選択）

世帯年収区分	球技	水泳	武道・格闘技	ダンス・バレエ・舞踏	体操	陸上競技	ボーイスカウト・ガールスカウト	その他	体験なし
300万円未満 (n=1025)	11.2%	14.8%	4.0%	5.3%	3.9%	1.3%	0.3%	3.1%	63.5%
300～599万円 (n=530)	11.3%	20.4%	3.8%	6.4%	7.7%	1.5%	0.6%	5.5%	53.8%
600万円以上 (n=542)	15.1%	32.7%	5.9%	9.8%	7.7%	1.5%	1.3%	6.1%	40.2%

③ 体験活動への参加状況（文化芸術活動）

- ✓ 参加者が多い活動については、概ね世帯年収が高い家庭ほど、各種「文化芸術活動」に参加している子どもの割合が多い。特に「音楽」については、世帯年収300万円未満の家庭と世帯年収600万円以上の家庭で2.3倍の差が生じている。



※本グラフの「その他」には、世帯年収300万円未満の家庭の子どもが参加している割合が1%以下の活動（「演劇・ミュージカル」「外国文化(語学・英会話を除く)」「将棋・囲碁」「茶道・華道」「料理」）及び「その他」をまとめた。本グラフの「その他」の数値が、P24の上記体験種類の総和と相違しているのは、P24は小数点第2位を四捨五入しているため。

③ 体験活動への参加状況（文化芸術活動）

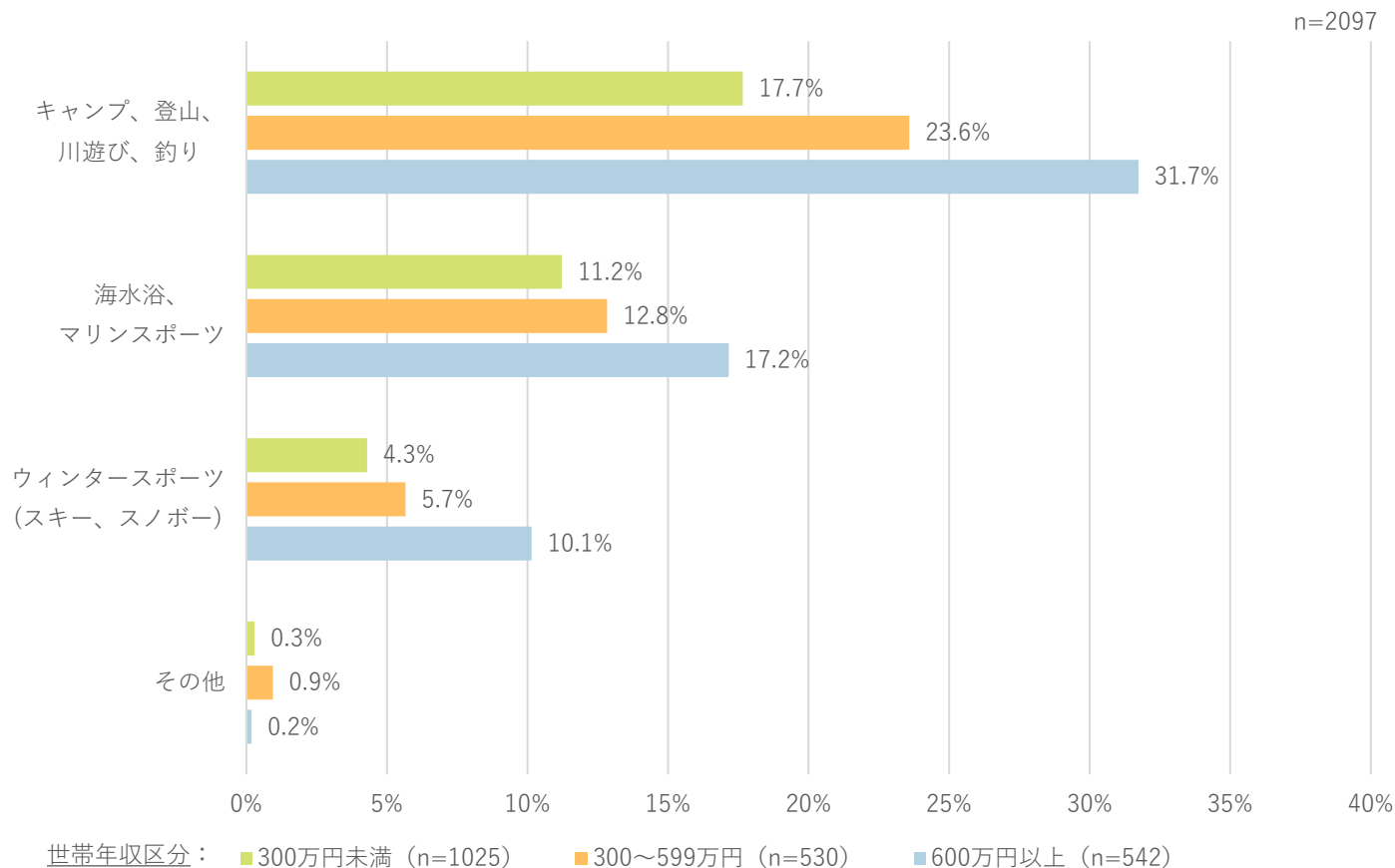
各種「文化芸術活動」に参加している子どもの割合（複数選択）

世帯年収区分	音楽	アート ・造形 ・工作	演劇・ ミュージ カル	外国文化 (語学・ 英会話を 除く)	習字・ 書道	将棋・ 囲碁	茶道・ 華道	料理	科学・ プログラ ミング	その他	体験なし
300万円未満 (n=1025)	7.5%	1.2%	0.5%	0.5%	6.8%	0.4%	0.4%	0.8%	1.2%	1.2%	82.4%
300～599万円 (n=530)	13.0%	1.1%	0.0%	0.2%	9.4%	0.2%	0.2%	0.6%	1.7%	0.8%	76.2%
600万円以上 (n=542)	17.5%	3.0%	0.4%	0.9%	10.1%	0.9%	0.7%	0.9%	4.2%	0.7%	68.6%

③ 体験活動への参加状況（自然体験）

- ✓ 概ね世帯年収が高い家庭ほど、各種「自然体験」に参加している子どもの割合が多く、いずれの種別でも、世帯年収300万円未満の家庭と世帯年収600万円以上の家庭で5ポイント以上の差が生じている。

各種「自然体験」に参加している子どもの割合（複数選択）



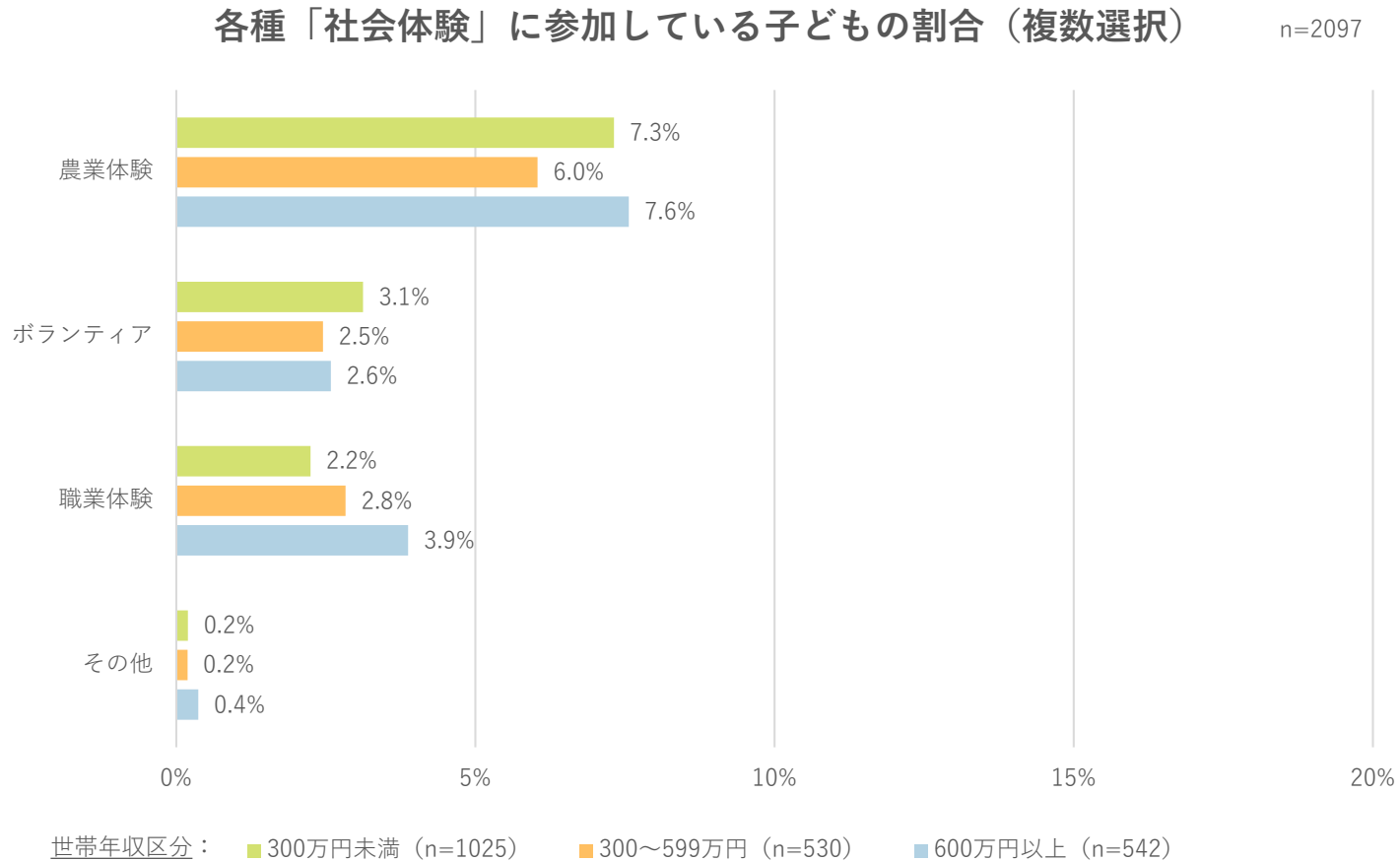
③ 体験活動への参加状況（自然体験）

各種「自然体験」に参加している子どもの割合（複数選択）

世帯年収区分	キャンプ、登山、 川遊び、釣り	海水浴、 マリンスポーツ	ウィンター スポーツ (スキー、スノーボード)	その他	体験なし
300万円未満 (n=1025)	17.7%	11.2%	4.3%	0.3%	76.9%
300～599万円 (n=530)	23.6%	12.8%	5.7%	0.9%	69.6%
600万円以上 (n=542)	31.7%	17.2%	10.1%	0.2%	60.3%

③ 体験活動への参加状況（社会体験）

- ✓ 世帯年収にかかわらず「社会体験」に参加している子どもの割合が少なく、世帯年収別での傾向は明確ではなかった。



③ 体験活動への参加状況（社会体験）

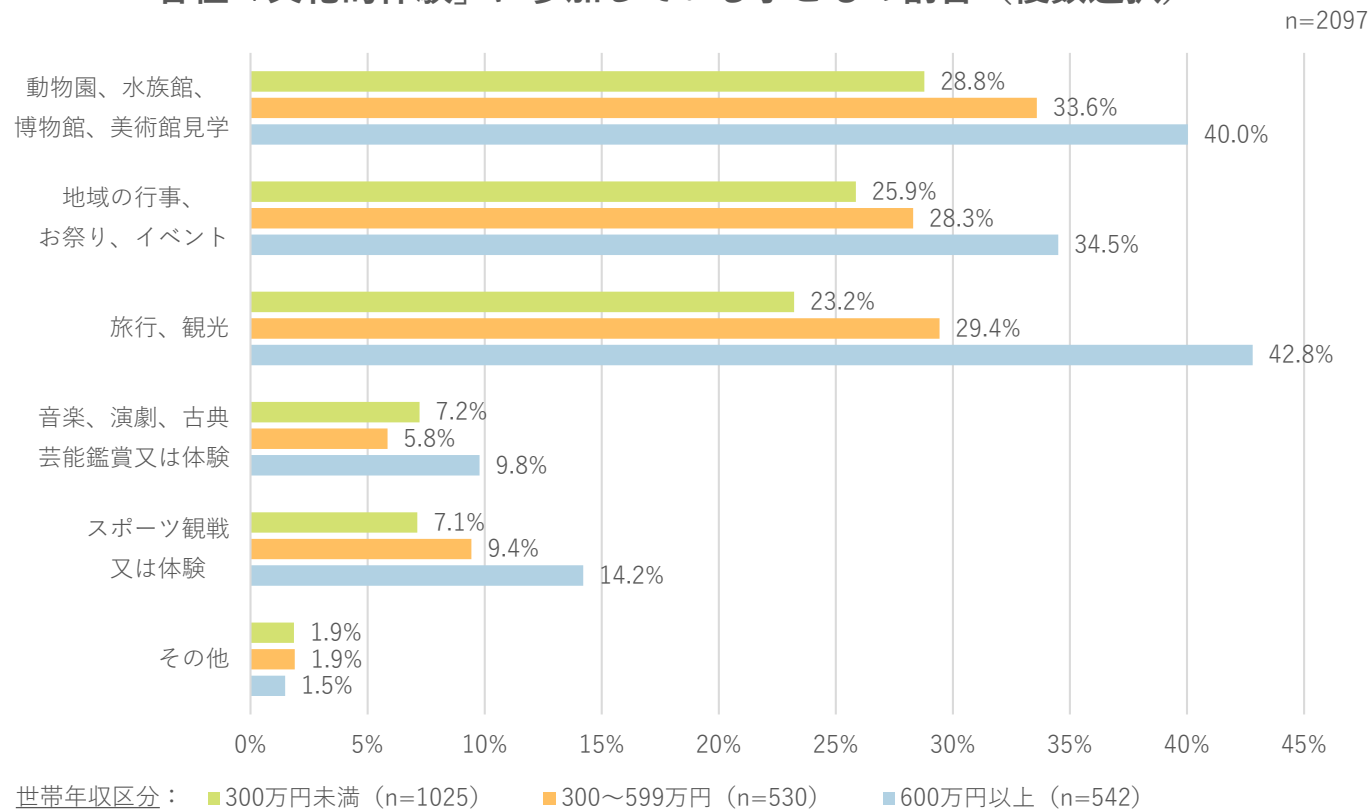
各種「社会体験」に参加している子どもの割合（複数選択）

世帯年収区分	農業体験	職業体験	ボランティア	その他	体験なし
300万円未満（n=1025）	7.3%	2.2%	3.1%	0.2%	89.8%
300～599万円（n=530）	6.0%	2.8%	2.5%	0.2%	90.0%
600万円以上（n=542）	7.6%	3.9%	2.6%	0.4%	87.1%

③ 体験活動への参加状況（文化的体験）

- ✓ 参加者が多い活動については、概ね世帯年収が高い家庭ほど、各種「文化的体験」に参加している子どもの割合が高い。特に「動物園、水族館、博物館、美術館見学」「旅行・観光」については、世帯年収300万円未満の家庭と世帯年収600万円以上の家庭で10ポイント以上の差が生じている。

各種「文化的体験」に参加している子どもの割合（複数選択）



※本グラフの「その他」には、参加者が100人以下の活動（「留学、ホームステイ、外国文化体験」）及び「その他」をまとめた。本グラフの「その他」の数値が、P30の「留学、ホームステイ、外国文化体験」と「その他」の総和と相違しているのは、P30は小数点第2位を四捨五入しているため。

③ 体験活動への参加状況（文化的体験）

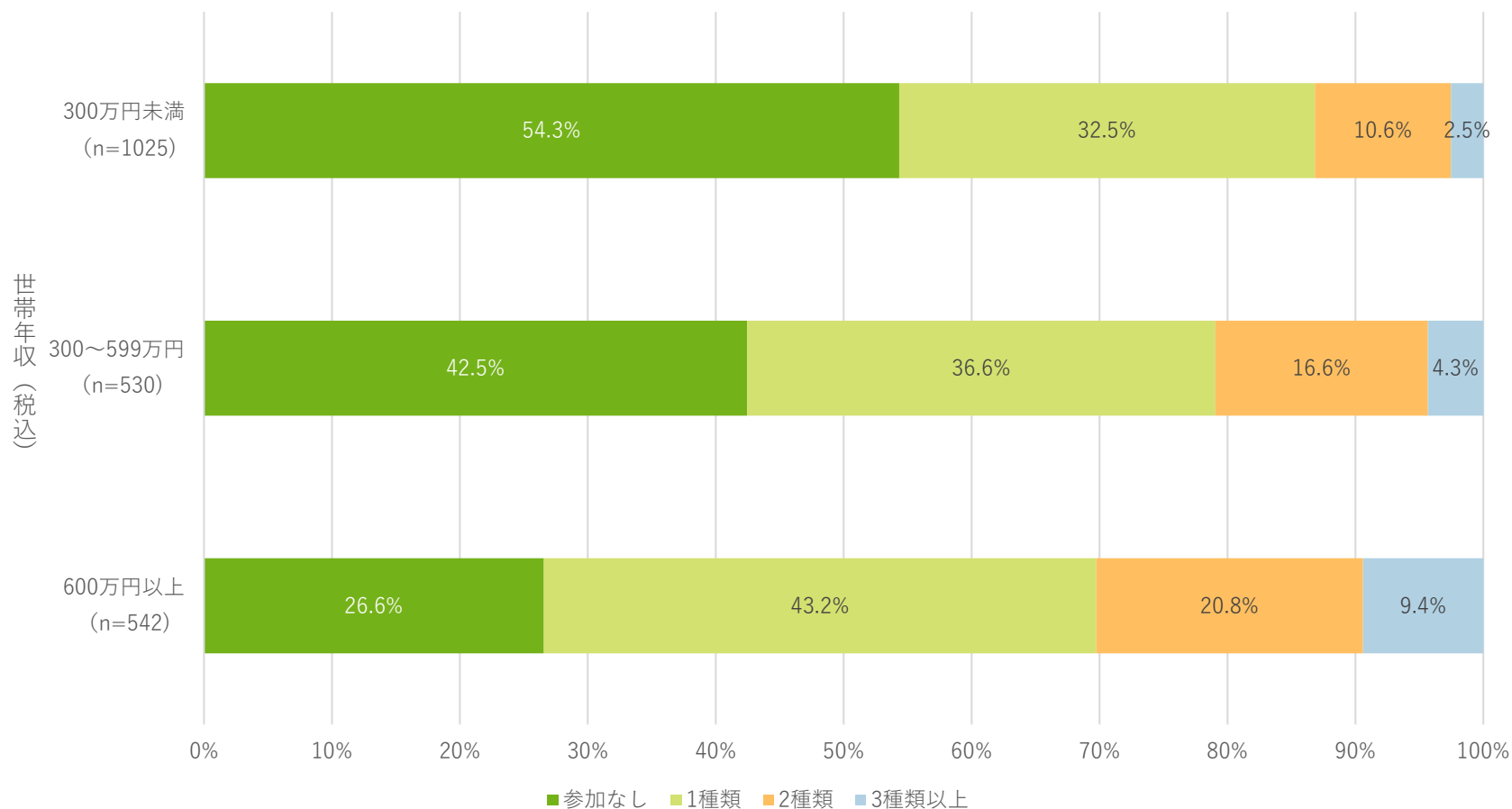
各種「文化的体験」に参加している子どもの割合（複数選択）

世帯年収区分	動物園、水族館、博物館、美術館見学	音楽、演劇、古典芸能鑑賞 又は体験	スポーツ観戦 又は体験	留学、ホームステイ、 外国文化体験	旅行、観光	地域の行事、お祭り、 イベント	その他	体験なし
300万円未満 (n=1025)	28.8%	7.2%	7.1%	1.1%	23.2%	25.9%	0.8%	55.2%
300～599万円 (n=530)	33.6%	5.8%	9.4%	0.9%	29.4%	28.3%	0.9%	46.6%
600万円以上 (n=542)	40.0%	9.8%	14.2%	1.3%	42.8%	34.5%	0.2%	41.5%

④ 体験活動への参加種類数（定期的な体験活動）

参加した体験活動の種類数（定期的な体験活動）

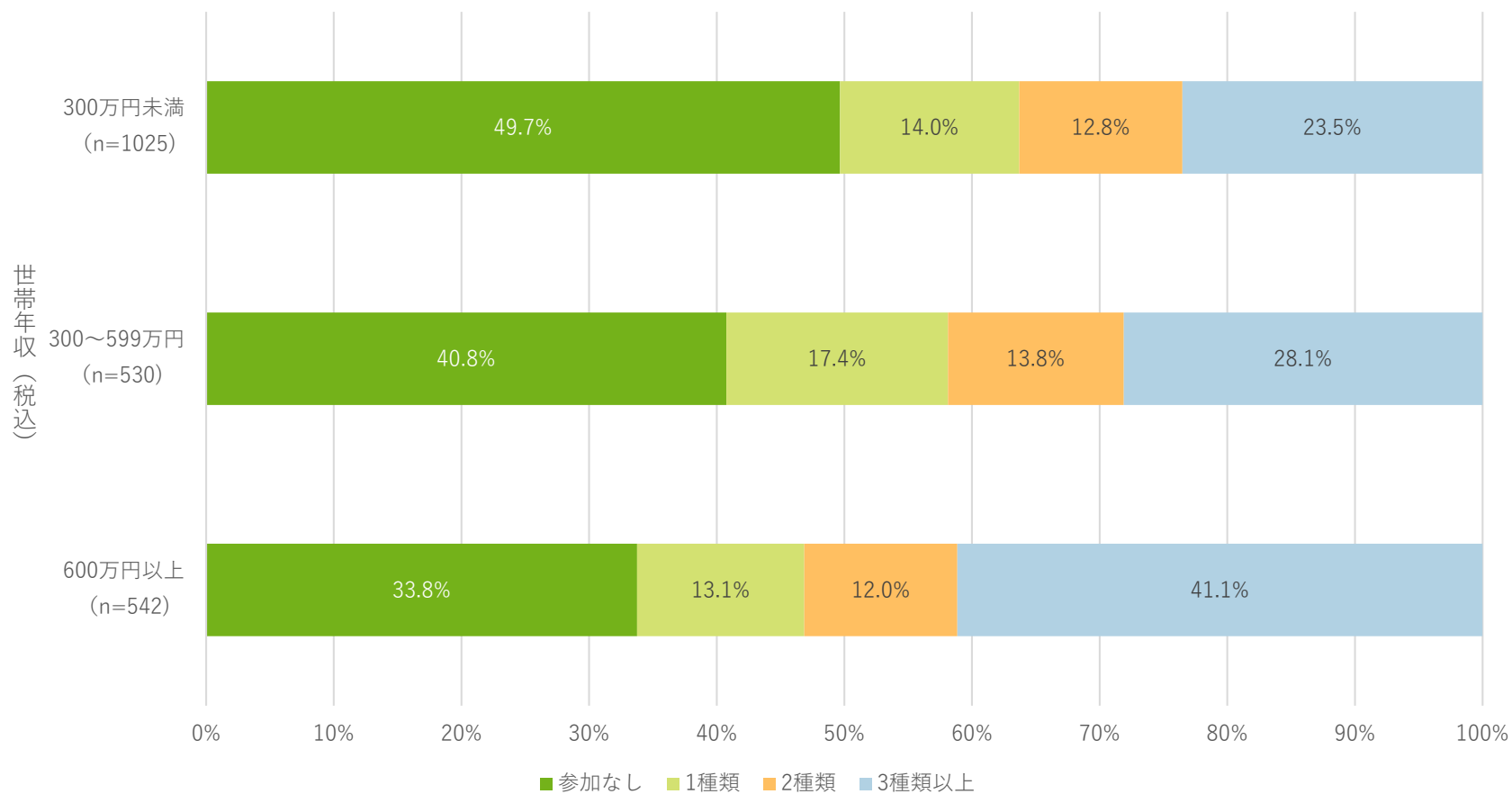
n=2097



④ 体験活動への参加種類数（単発で行う体験活動）

参加した体験活動の種類数（単発で行う体験活動）

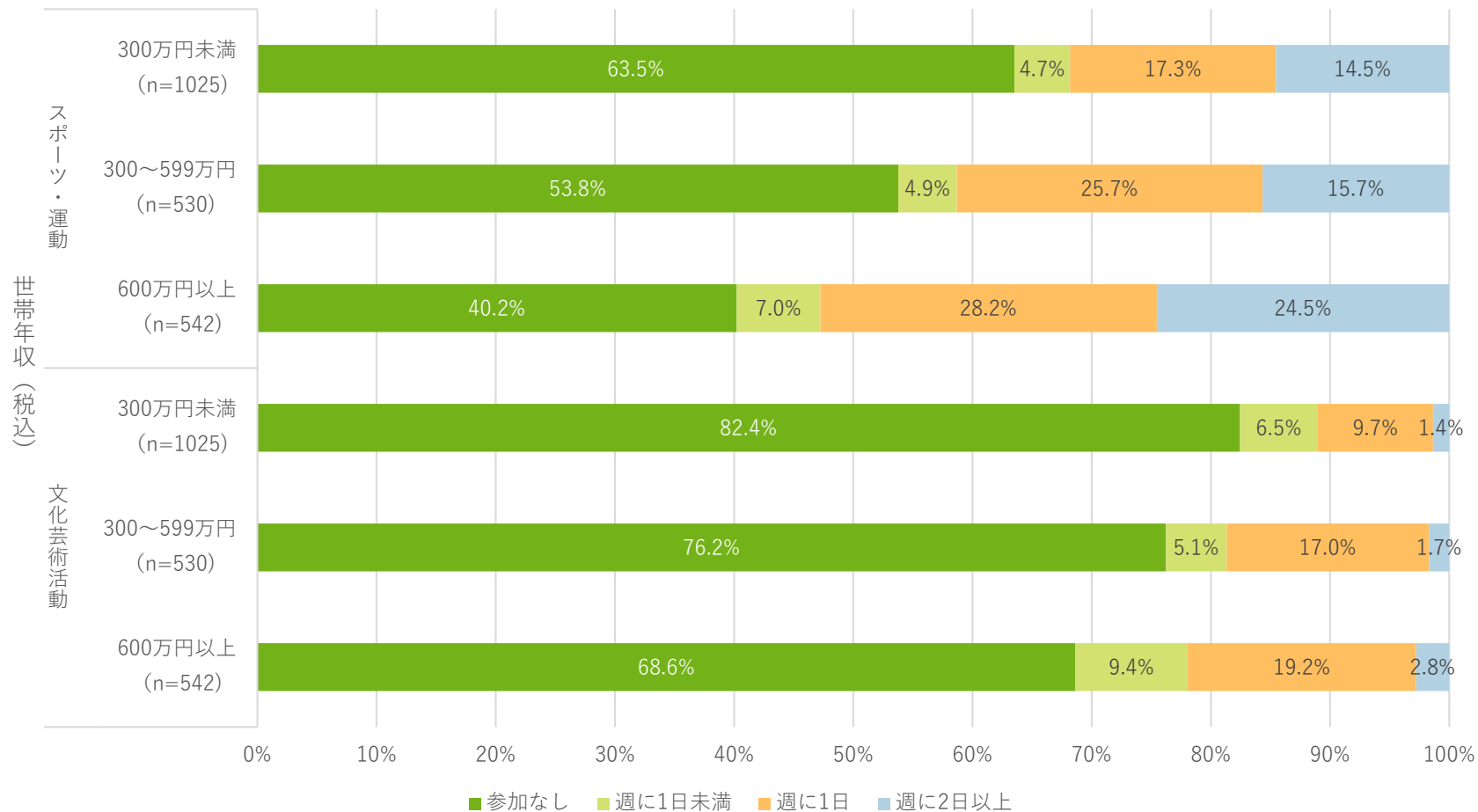
n=2097



⑤ 体験活動への参加頻度（定期的な体験活動）

体験活動への参加頻度（定期的な体験活動）

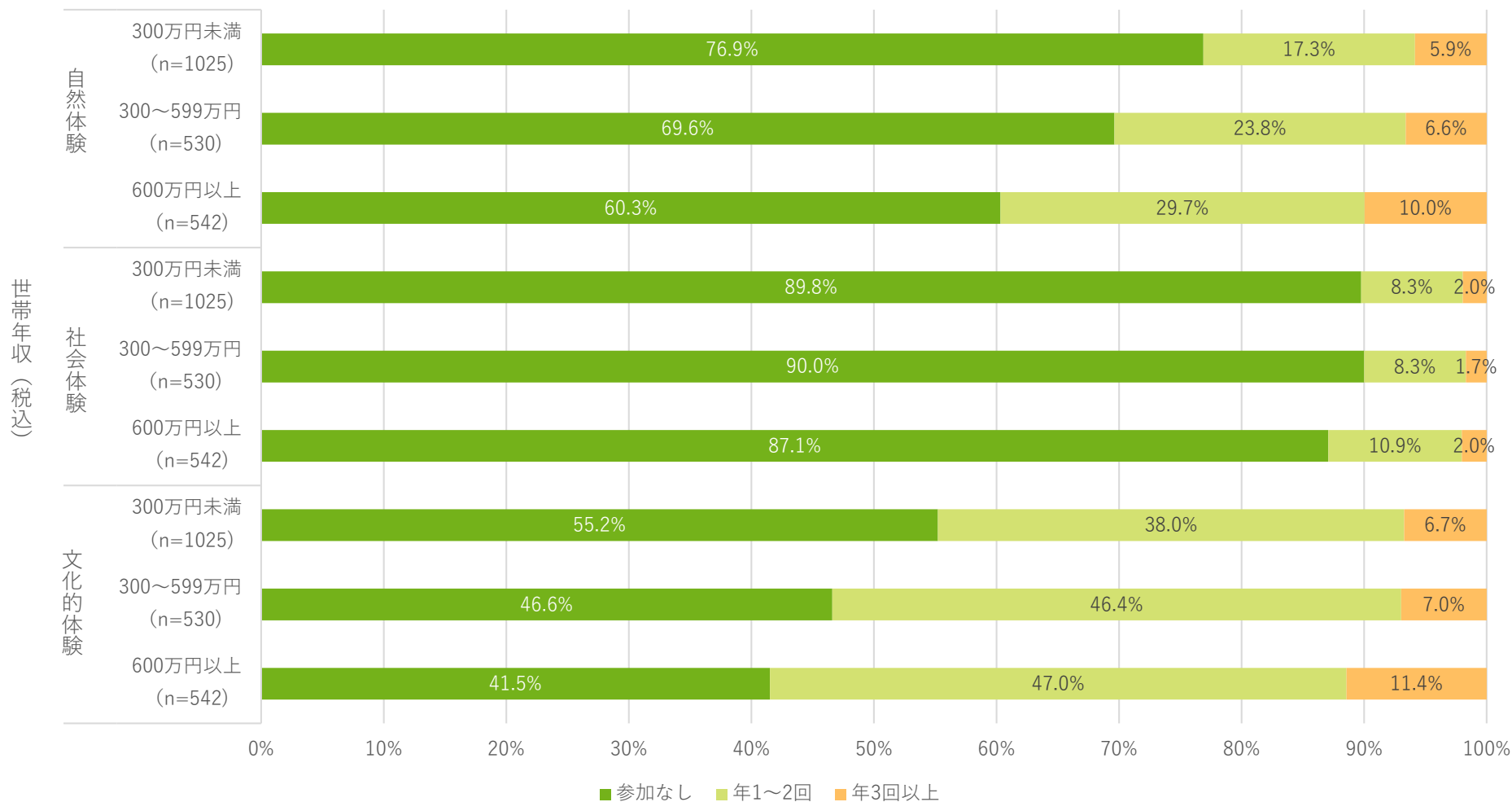
n=2097



⑤ 体験活動への参加頻度（単発で行う体験活動）

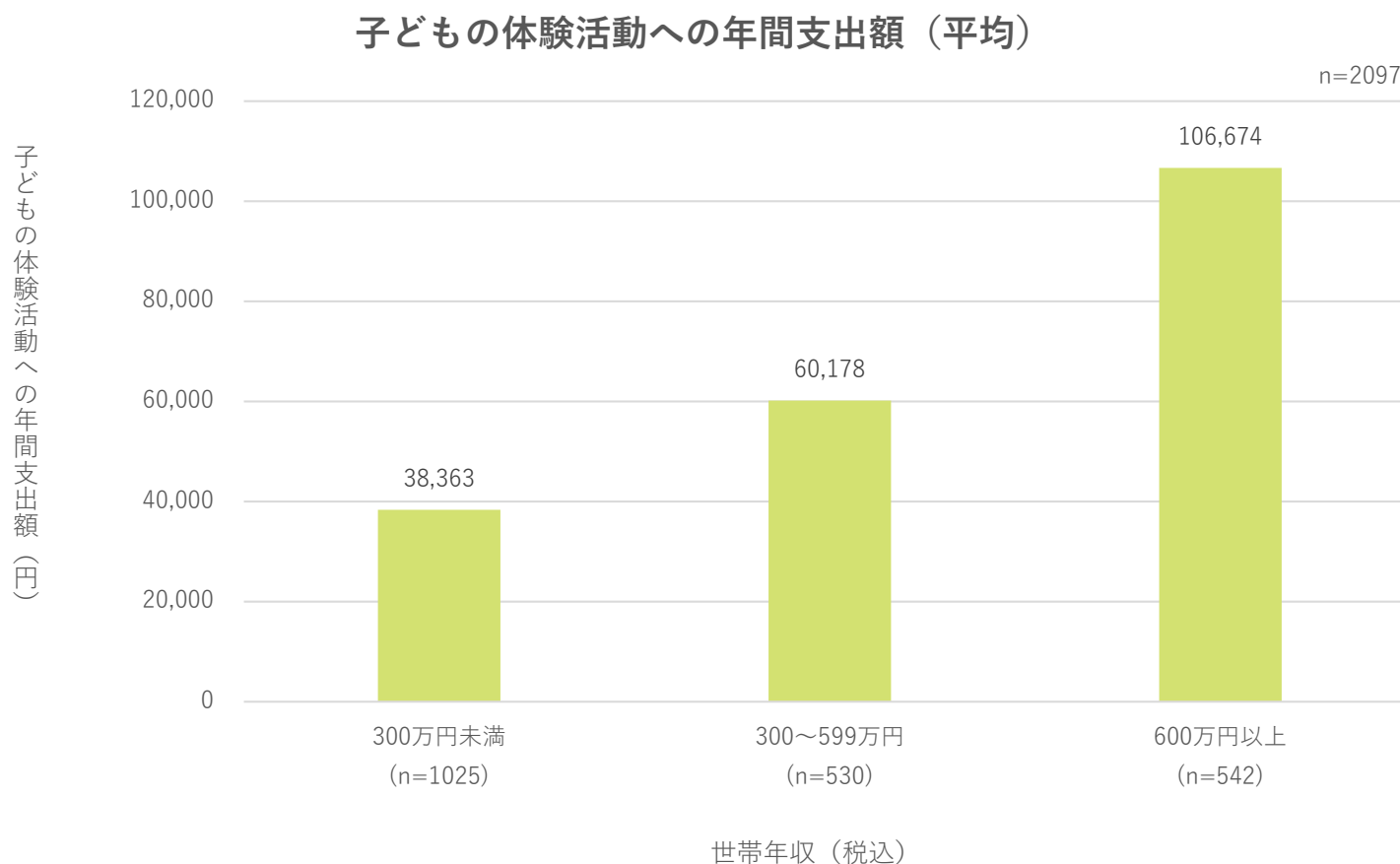
体験活動への参加頻度（単発で行う体験活動）

n=2097



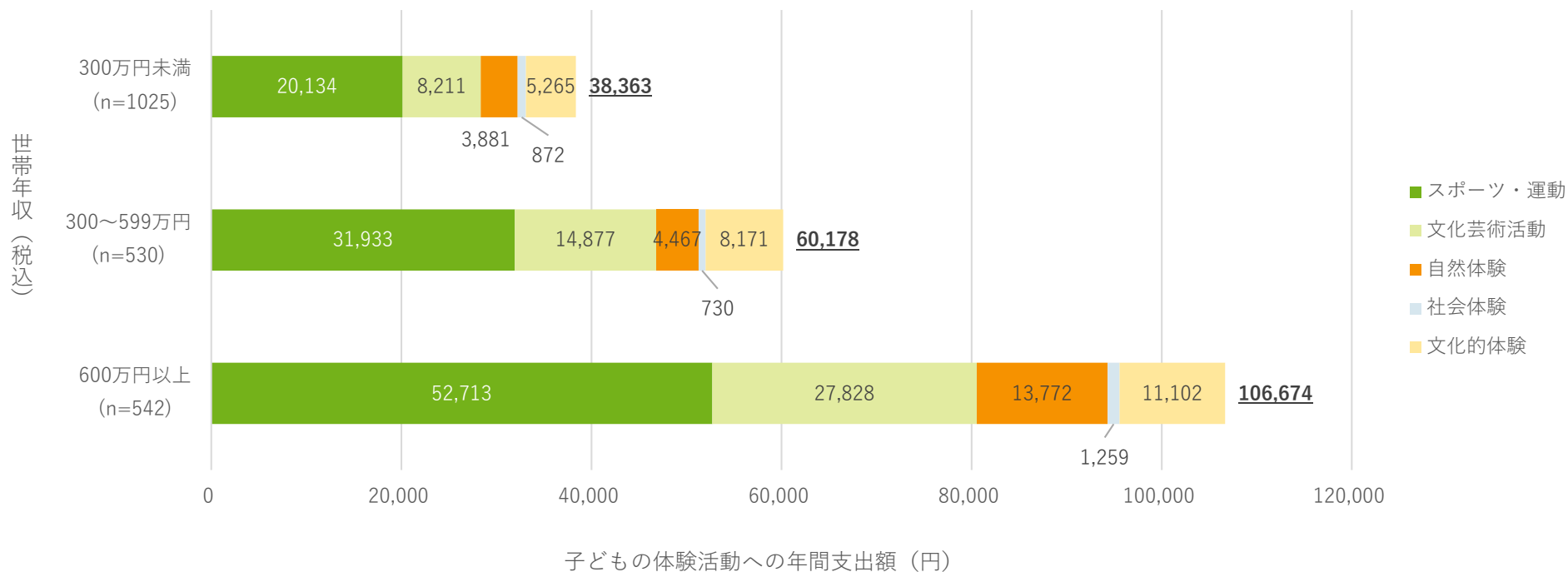
⑥ 体験活動への年間支出額（全体）

- ✓ 世帯年収300万円未満の家庭の子どもの、学校外の体験活動にかかる年間支出は、世帯年収600万円以上の家庭と比較して2.7倍の差が生じている。



⑥ 体験活動への年間支出額（内訳）

子どもの体験活動への年間支出額（内訳）

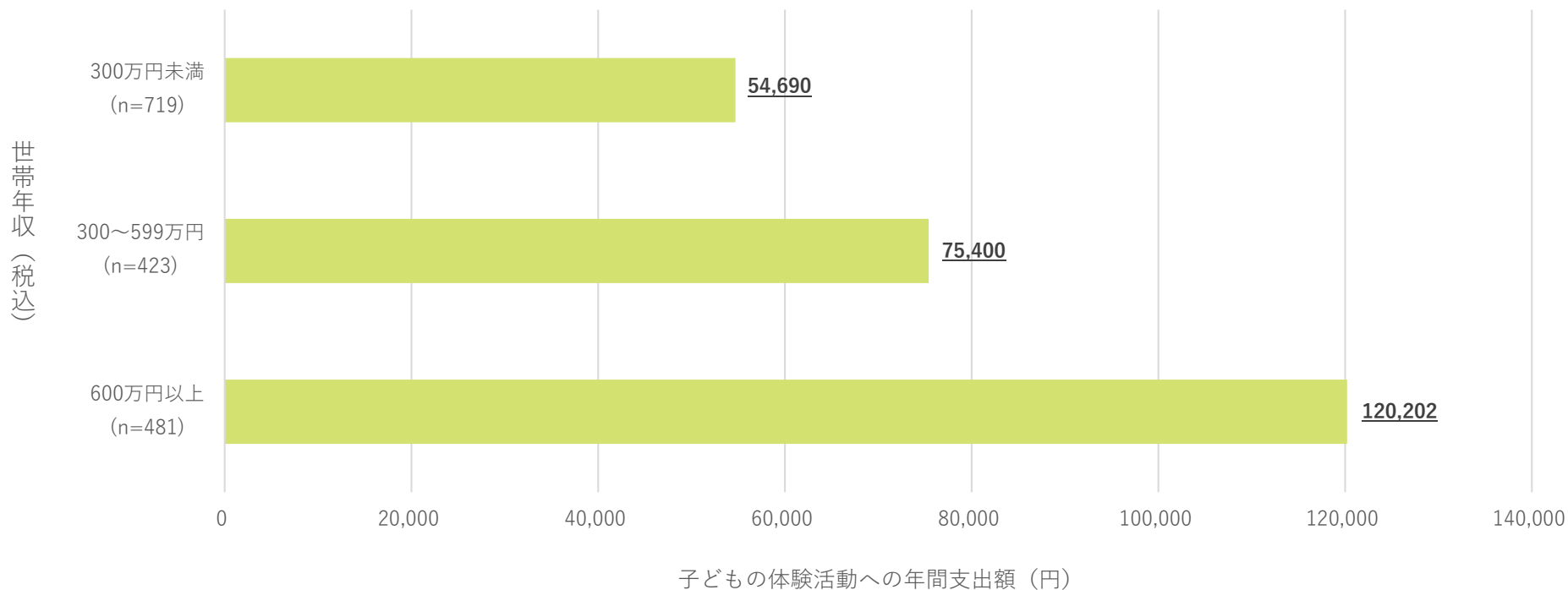


単位：円

世帯年収区分	定期的な体験活動 (習い事、クラブ活動等)			単発で行う体験活動				合計
	スポーツ・運動	文化芸術活動	小計	自然体験	社会体験	文化的体験	小計	
300万円未満(n=1025)	20,134	8,211	28,345	3,881	872	5,265	10,018	38,363
300~599万円(n=530)	31,933	14,877	46,810	4,467	730	8,171	13,368	60,178
600万円以上(n=542)	52,713	27,828	80,541	13,772	1,259	11,102	26,133	106,674

⑥ 体験活動への年間支出額（内訳）

※体験活動に参加した回答者のみの集計
 子どもの体験活動への年間支出額（合計）



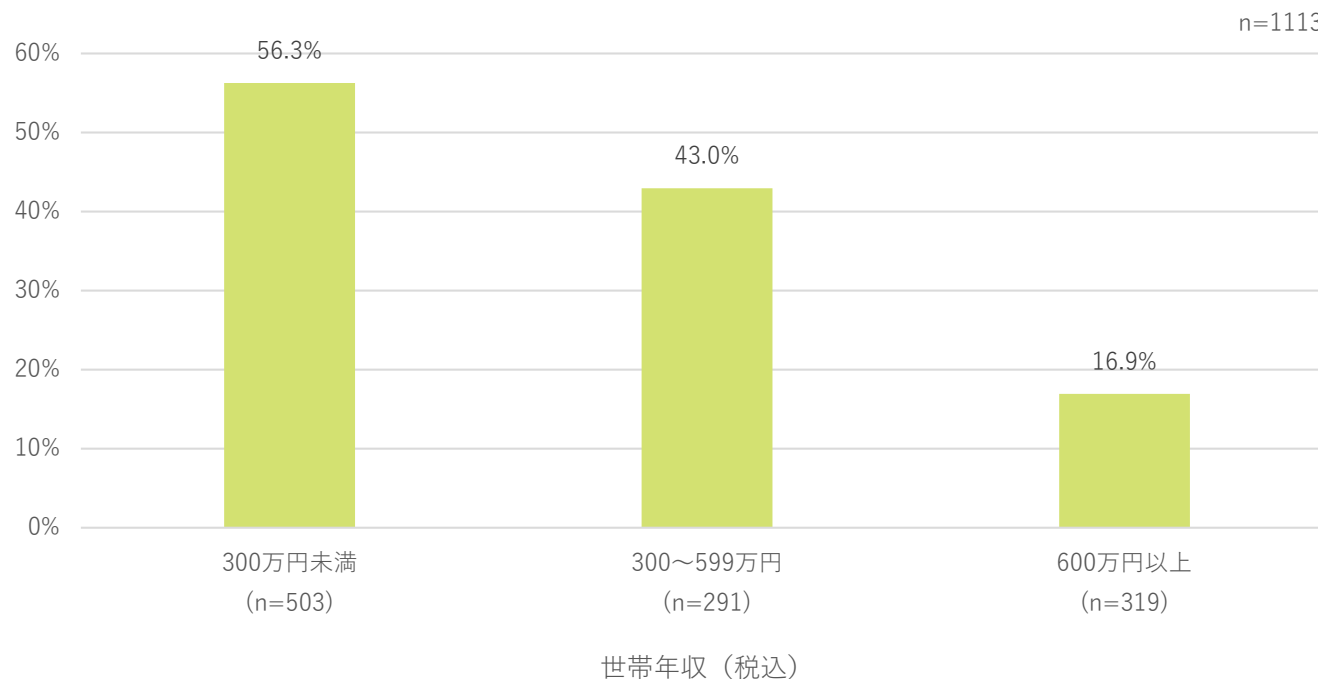
単位：円

世帯年収区分	定期的な体験活動 (習い事、クラブ活動等)			単発で行う体験活動				①+②+③+④+⑤
	①スポーツ・運動	②文化芸術活動	①+②	③自然体験	④社会体験	⑤文化的体験	③+④+⑤	
300万円未満	55,181 (n=374)	46,757 (n=180)	62,081 (n=468)	16,787 (n=237)	8,510 (n=105)	11,756 (n=459)	19,899 (n=516)	54,690 (n=719)
300~599万円	69,079 (n=245)	62,579 (n=126)	81,342 (n=305)	14,703 (n=161)	7,302 (n=53)	15,303 (n=283)	22,564 (n=314)	75,400 (n=423)
600万円以上	88,180 (n=324)	88,722 (n=170)	109,681 (n=398)	34,717 (n=215)	9,751 (n=70)	18,982 (n=317)	39,454 (n=359)	120,202 (n=481)

⑦ 体験活動を諦めた理由

- ✓ 世帯年収が低い家庭ほど、「経済的理由」で子どもがやってみたい体験をさせてあげられなかったと回答した割合が高い（世帯年収によって3倍以上の差）。

子どもがやってみたいと思う学校外の体験をさせてあげられなかった理由
（「保護者に経済的な余裕がないから」と回答した割合）

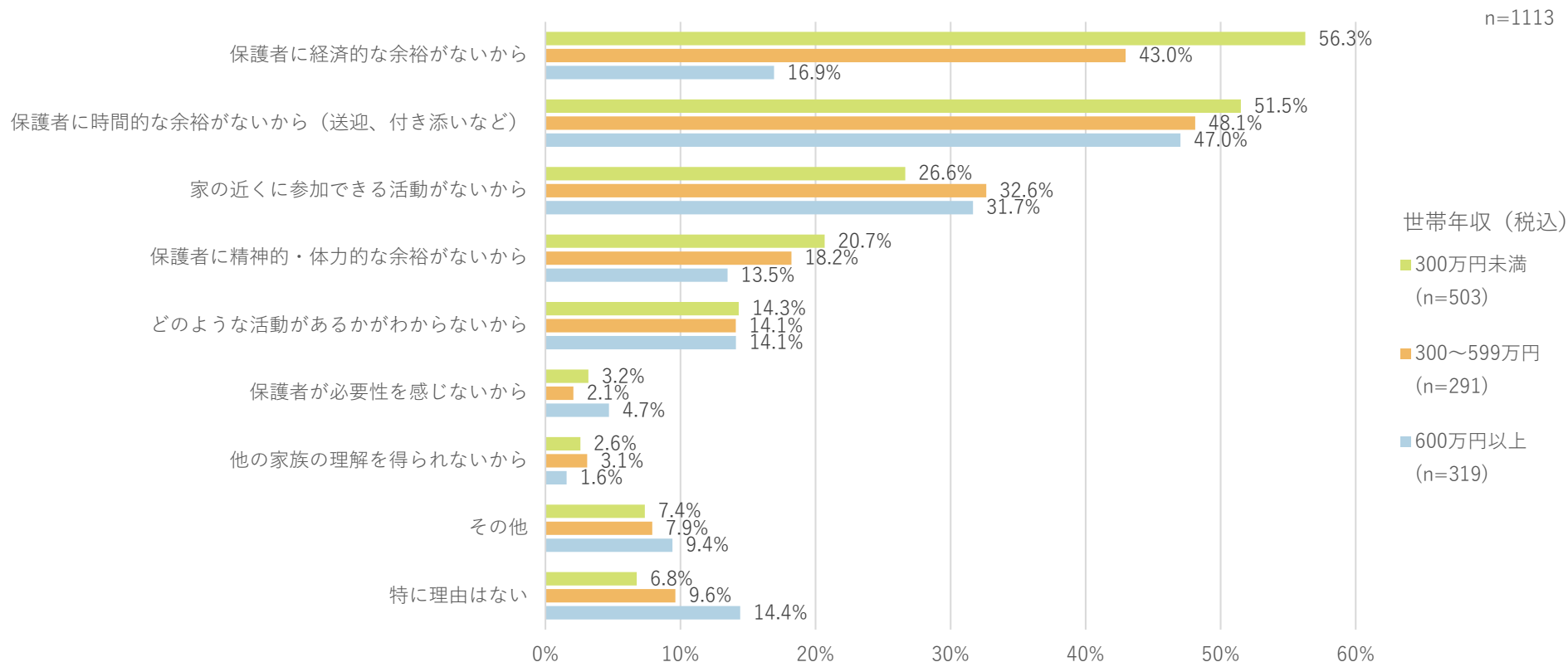


※「お子様が学校以外でやってみたいと思う体験について、させてあげられなかった経験はありますか。当てはまるものがあれば、すべてお選びください。」という設問に対して、「特になし」と回答した者を除いた1,113名を対象に回答を求めた。そのうえで、「前問で選択した活動について、させてあげられなかった理由を教えてください。（複数選択）」と質問し、「保護者に経済的な余裕がないから」と回答した割合。

⑦ 体験活動を諦めた理由

- ✓ 世帯年収300万円未満の家庭が、子どもに体験をさせてあげられなかった理由は、経済的理由の他にも、「保護者の時間的な余裕がない」(51.5%)、「近くに参加できる活動がない」(26.6%)、「保護者に精神的・体力的な余裕がない」(20.7%)等、多様な背景がある。

子どもがやってみたいと思う学校外の体験をさせてあげられなかった理由



※「お子様が学校以外の場でやってみたいと思う体験について、させてあげられなかった経験はありますか。当てはまるものがあれば、すべてお選びください。」という設問に対して、「特にない」と回答した者を除いた1,113名を対象に回答を求めた。そのうえで、「前問で選択した活動について、させてあげられなかった理由を教えてください。(複数選択)」と質問した回答結果。

3-1. 家庭背景別の「体験格差」の現状

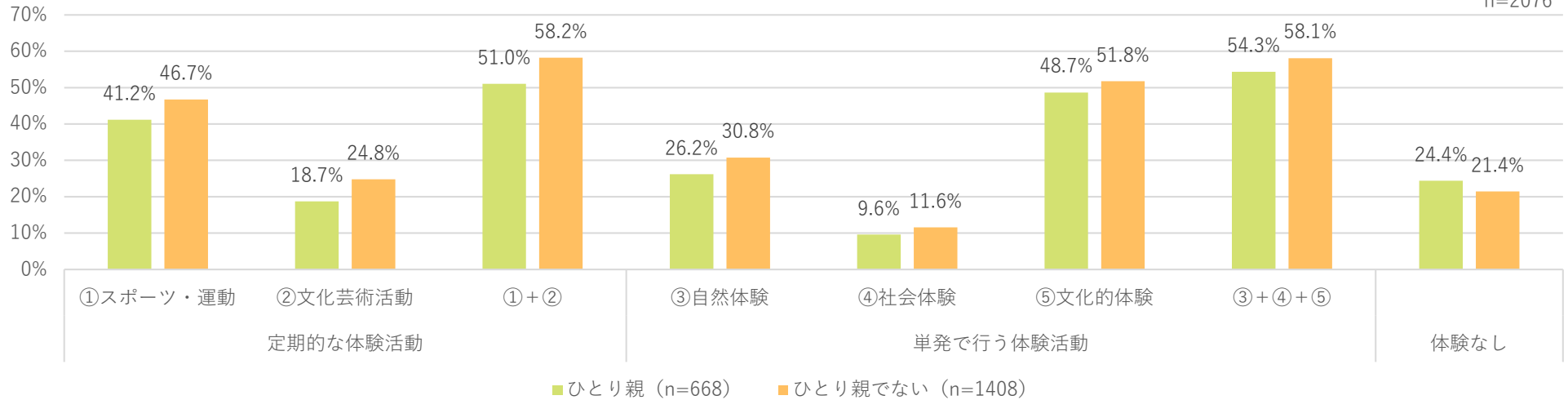
(2) その他の背景と体験

① ひとり親家庭（体験活動への参加有無）

- ✓ ひとり親家庭は、ひとり親でない家庭と比べて、「定期的な体験活動」に参加している子どもの割合が低く、「スポーツ・運動」、「文化芸術活動」いずれについても5ポイント以上の差が生じていた。

学校外の体験に参加している子どもの割合（ひとり親家庭）

※複数選択
n=2076



n=2076

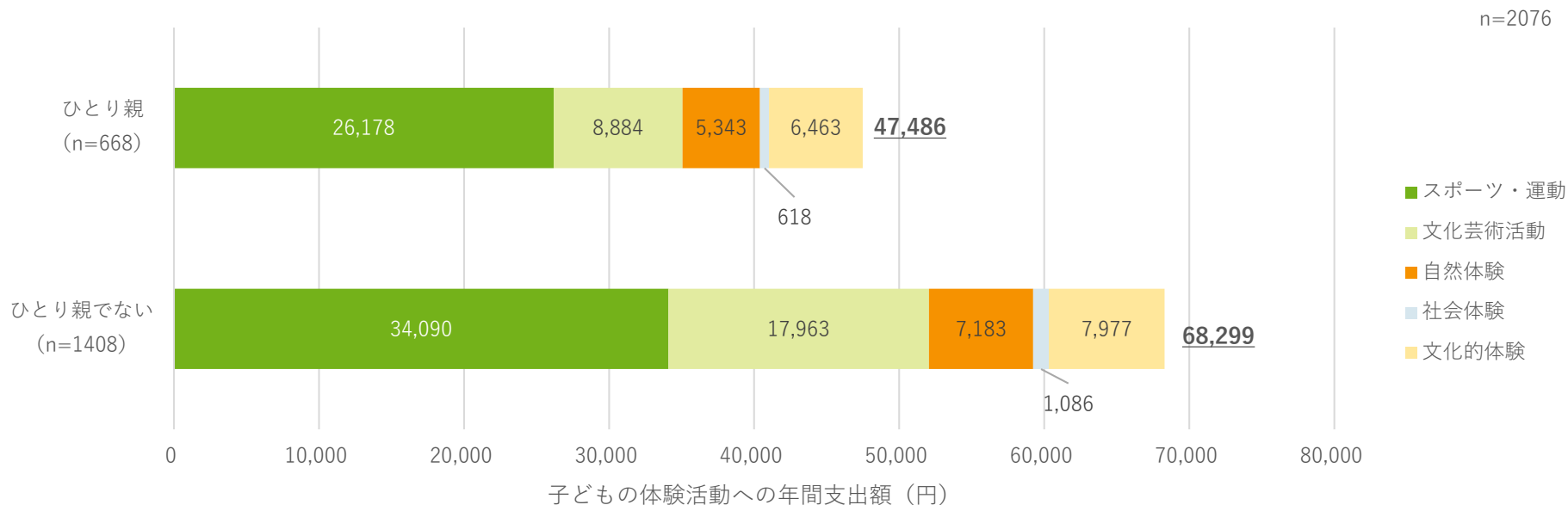
	定期的な体験活動			単発で行う体験活動				体験なし
	①スポーツ・運動	②文化芸術活動	①+②	③自然体験	④社会体験	⑤文化的体験	③+④+⑤	
ひとり親 (n=668)	41.2%	18.7%	51.0%	26.2%	9.6%	48.7%	54.3%	24.4%
ひとり親でない (n=1408)	46.7%	24.8%	58.2%	30.8%	11.6%	51.8%	58.1%	21.4%

※祖父母が養育している等、子どもの母親と父親がいずれもいないと回答した21名については、集計から省いている。

① ひとり親家庭（体験活動への年間支出額）

- ✓ ひとり親家庭は、ひとり親でない家庭と比較して、子どもの学校外の体験活動にかかる年間支出額がいずれの分野も少なかった。

子どもの体験活動への年間支出額（内訳）



単位：円

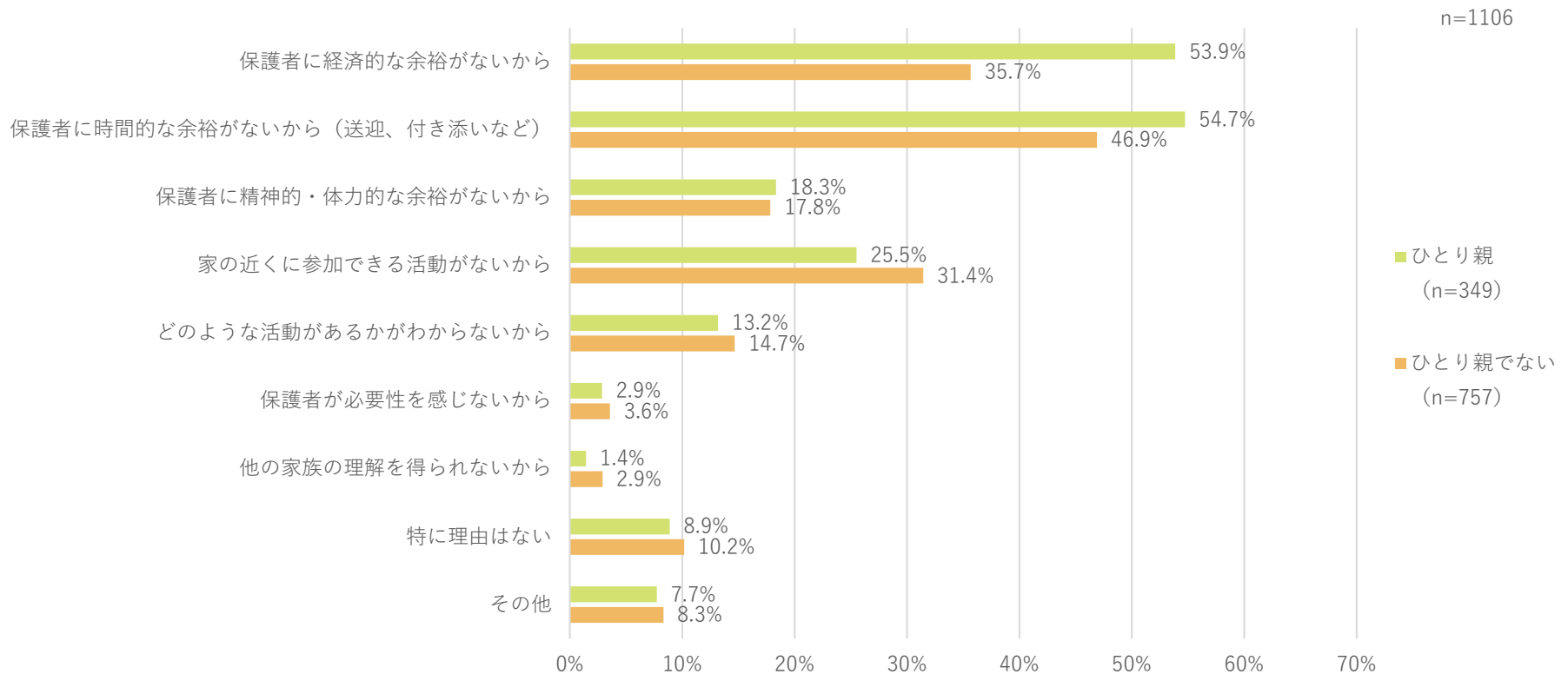
	定期的な体験活動			単発で行う体験活動				合計
	スポーツ・運動	文化芸術活動	小計	自然体験	社会体験	文化的体験	小計	
ひとり親 (n=668)	26,178	8,884	35,062	5,343	618	6,463	12,424	47,486
ひとり親でない (n=1408)	34,090	17,963	52,053	7,183	1,086	7,977	16,246	68,299

※祖父母が養育している等、子どもの母親と父親がいずれもいないと回答した21名については、集計から省いている。

① ひとり親家庭（体験活動を諦めた理由）

- ✓ ひとり親家庭が、子どもに体験をさせてあげられなかった理由は、「保護者に時間的な余裕がない」（54.7%）および「保護者に経済的な余裕がない」（53.9%）が半数を超えていた。

子どもがやってみたいと思う学校外の体験をさせてあげられなかった理由



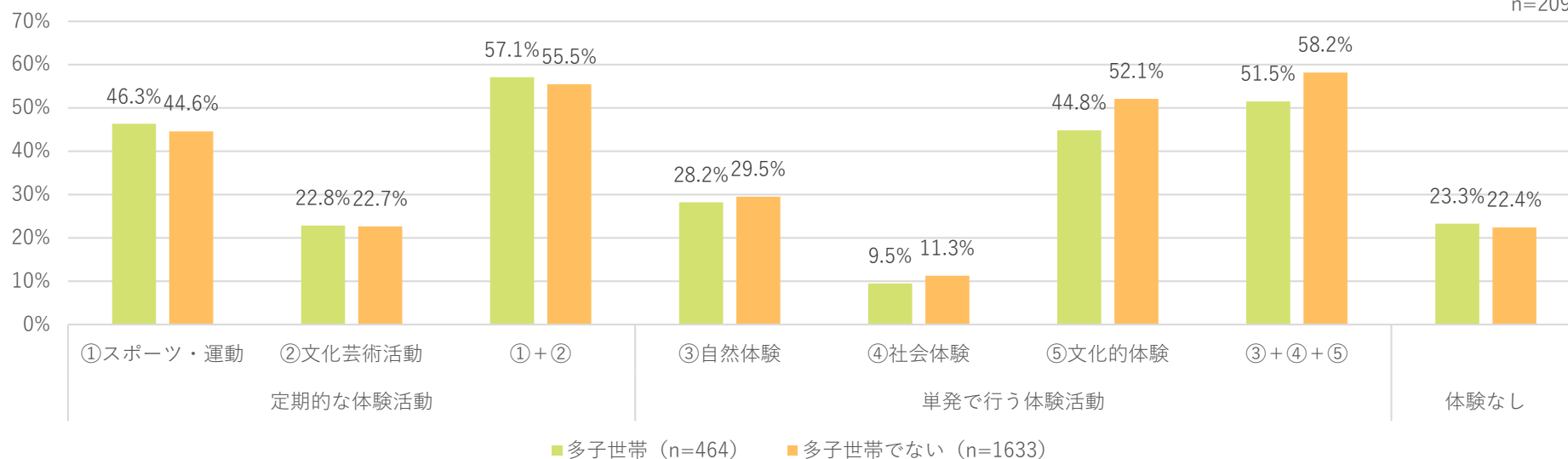
※祖父母が養育している等、子どもの母親と父親がいずれもないとした回答者および、「お子様が学校以外の場でやってみたいと思う体験について、させてあげられなかった経験はありますか。当てはまるものがあれば、すべてお選びください。」という設問に対して、「特にない」とした回答者を除いた1,106名を対象に回答を求めた。そのうえで、「前問で選択した活動について、させてあげられなかった理由を教えてください。（複数選択）」と質問した回答結果。

② 多子世帯（体験活動への参加有無）

- ✓ 多子世帯は、多子世帯でない家庭と比べて、学校外の体験に参加している子どもの割合に大きく差は見られなかった。ただし、「文化的体験」のみ、多子世帯の子どもが参加している割合が5ポイント以上低かった。

学校外の体験に参加している子どもの割合（多子世帯）

※複数選択
n=2097



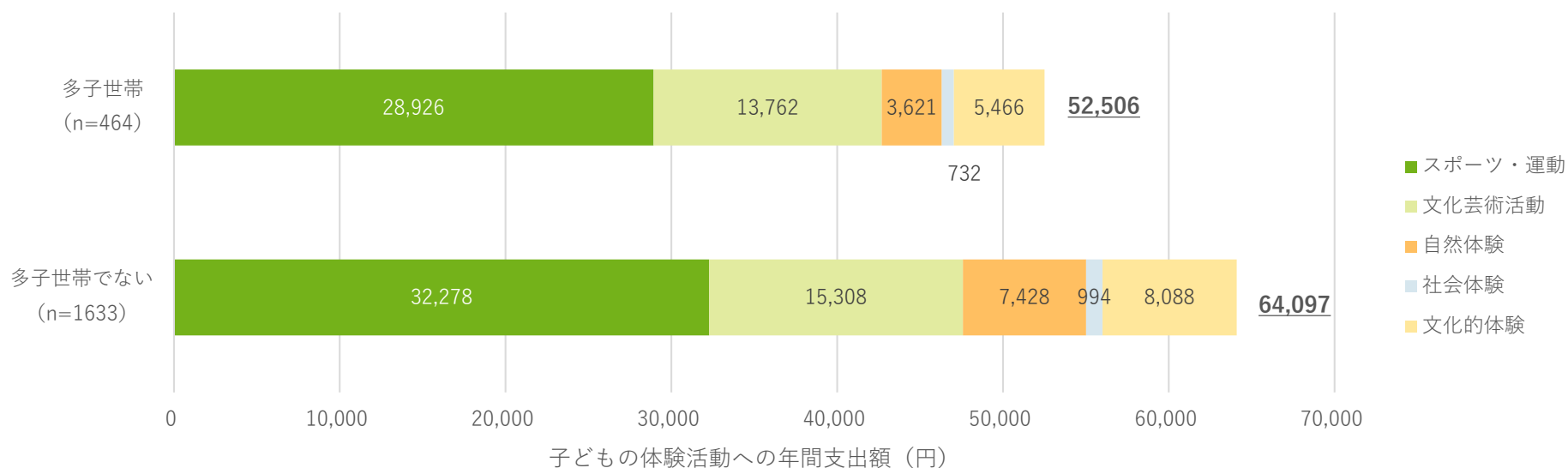
	定期的な体験活動			単発で行う体験活動				体験なし
	①スポーツ・運動	②文化芸術活動	①+②	③自然体験	④社会体験	⑤文化的体験	③+④+⑤	
多子世帯(n=464)	46.3%	22.8%	57.1%	28.2%	9.5%	44.8%	51.5%	23.3%
多子世帯でない(n=1633)	44.6%	22.7%	55.5%	29.5%	11.3%	52.1%	58.2%	22.4%

② 多子世帯（体験活動への年間支出額）

- ✓ 多子世帯における子どもの学校外の体験活動にかかる年間支出額は、多子世帯でない家庭と比べて、どの分野においてもやや少なかった。

子どもの体験活動への年間支出額（内訳）

n=2097



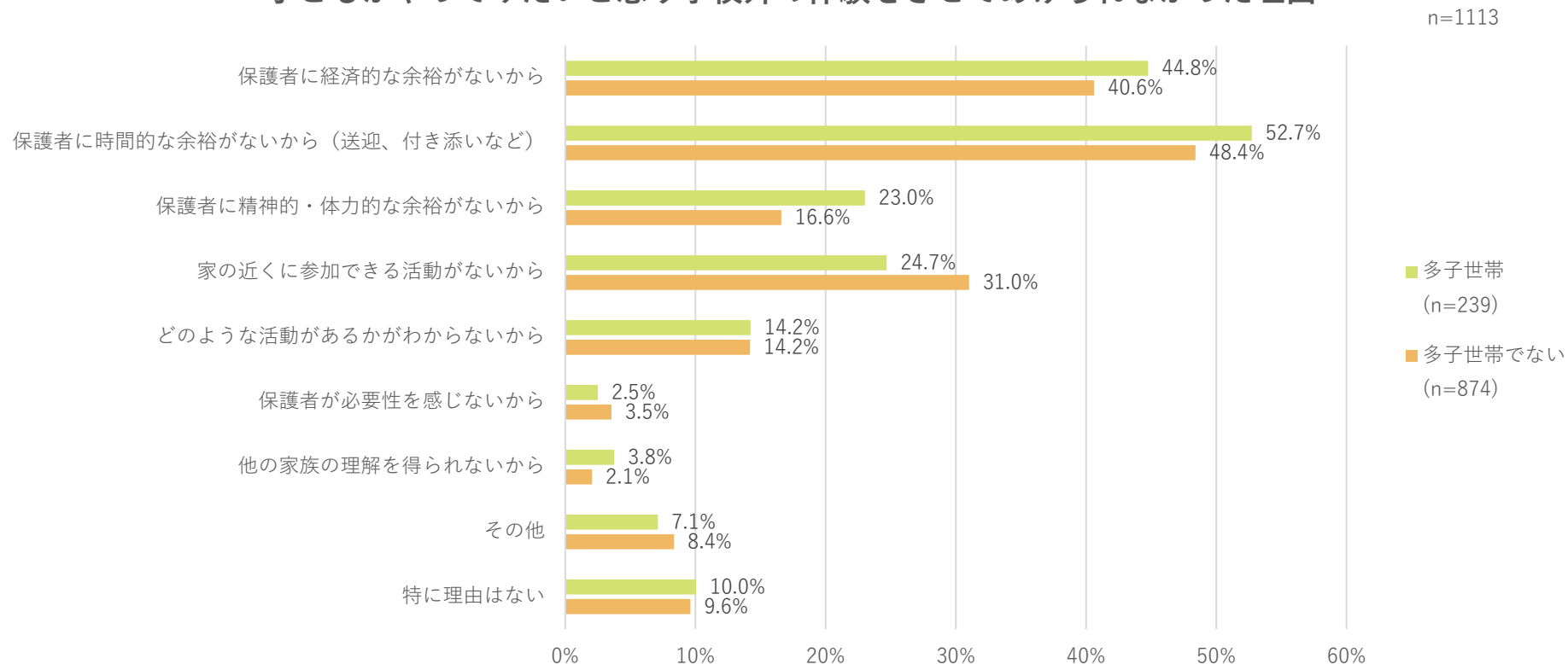
単位：円

	定期的な体験活動			単発で行う体験活動				合計
	スポーツ・運動	文化芸術活動	小計	自然体験	社会体験	文化的体験	小計	
多子世帯(n=464)	28,926	13,762	42,688	3,621	732	5,466	9,818	52,506
多子世帯でない(n=1633)	32,278	15,308	47,587	7,428	994	8,088	16,511	64,097

② 多子世帯（体験活動を諦めた理由）

- ✓ 多子世帯が子どもに体験をさせてあげられなかった理由としては、「保護者に時間的な余裕がない」（52.7%）、「経済的に余裕がない」（44.8%）が半数近くあげられた。また、「保護者に精神的・体力的な余裕がないから」（23.0%）が多子世帯でない家庭（16.6%）と比較して5ポイント以上高かった。

子どもがやってみたいと思う学校外の体験をさせてあげられなかった理由



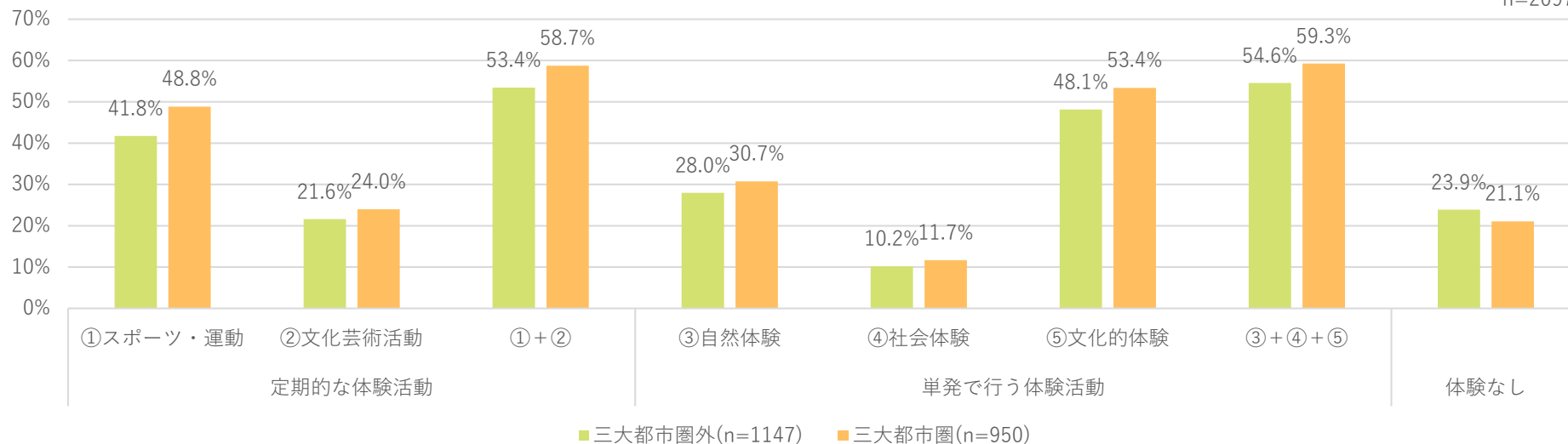
※「お子様が学校以外の場でやってみたいと思う体験について、させてあげられなかった経験はありますか。当てはまるものがあれば、すべてお選びください。」という設問に対して、「特にない」と回答した者を除いた1,113名を対象に回答を求めた。そのうえで、「前問で選択した活動について、させてあげられなかった理由を教えてください。（複数選択）」と質問した回答結果。

③ 居住地域（体験活動への参加有無）

- ✓ 三大都市圏外に居住する家庭は、三大都市圏に居住する家庭と比較して、学校外の体験活動に参加している子どもの割合がやや低く、特に「スポーツ・運動」および「文化的体験」において、5ポイント以上の差が生じていた。

学校外の体験に参加している子どもの割合（居住地域別）

※複数選択
n=2097



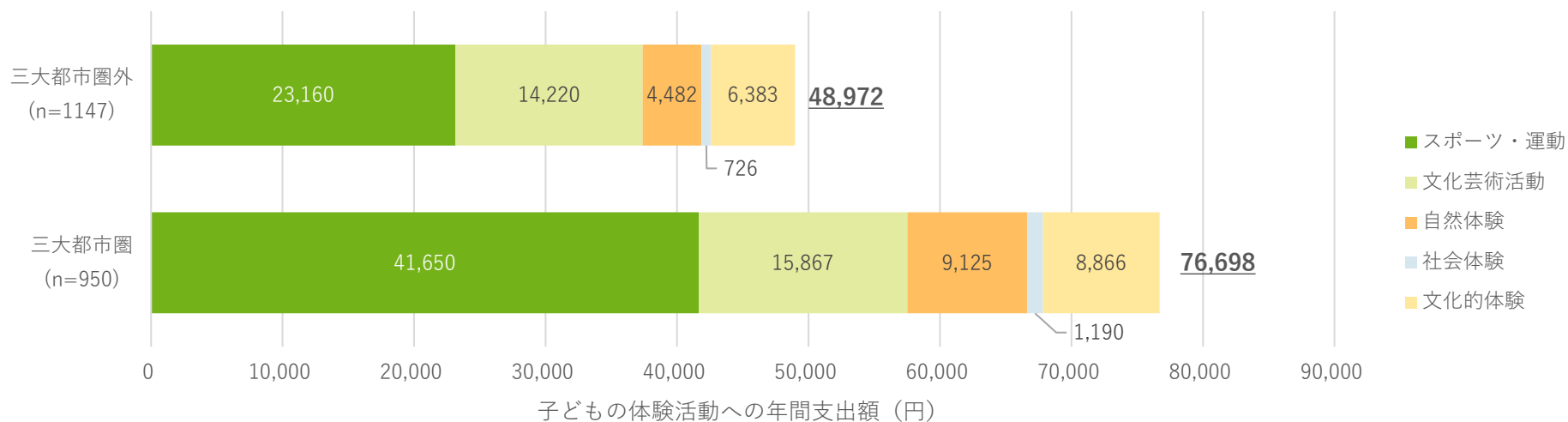
居住地域	定期的な体験活動			単発で行う体験活動				体験なし
	①スポーツ・運動	②文化芸術活動	①+②	③自然体験	④社会体験	⑤文化的体験	③+④+⑤	
三大都市圏外(n=1147)	41.8%	21.6%	53.4%	28.0%	10.2%	48.1%	54.6%	23.9%
三大都市圏(n=950)	48.8%	24.0%	58.7%	30.7%	11.7%	53.4%	59.3%	21.1%

③ 居住地域（体験活動への年間支出額）

- ✓ 三大都市圏外に居住する家庭は、三大都市圏に居住する家庭と比較して、子どもの体験活動への年間支出額が約2万8千円低い。特に「スポーツ・運動」「自然体験」については2倍近い差が生じている。

子どもの体験活動への年間支出額（内訳）

n=2097



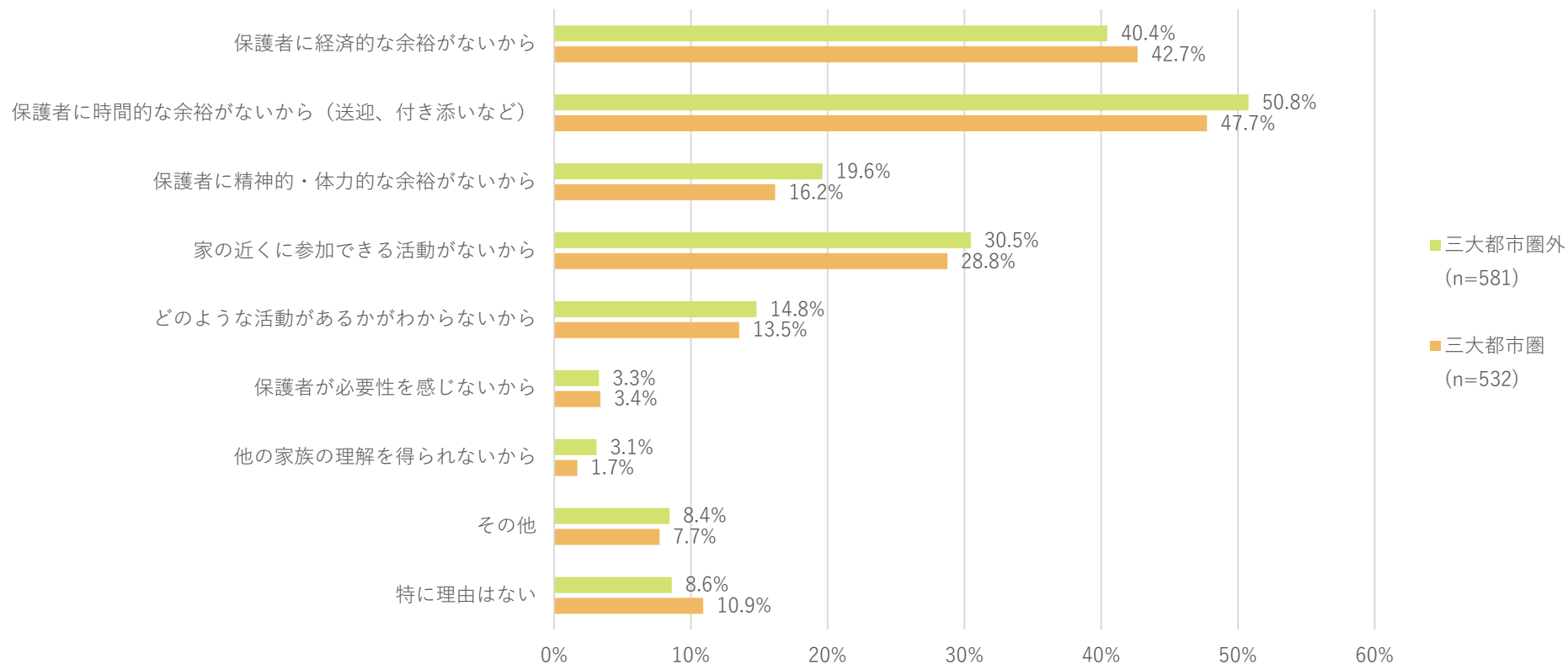
単位：円

居住地域	定期的な体験活動			単発で行う体験活動				合計
	スポーツ・運動	文化芸術活動	小計	自然体験	社会体験	文化的体験	小計	
三大都市圏外(n=1147)	23,160	14,220	37,381	4,482	726	6,383	11,592	48,972
三大都市圏(n=950)	41,650	15,867	57,517	9,125	1,190	8,866	19,181	76,698

③ 居住地域（体験活動を諦めた理由）

- ✓ 「子どもがやってみたいと思う学校外の体験をさせてあげられなかった理由」について、居住地域によって大きな傾向は見られなかった。

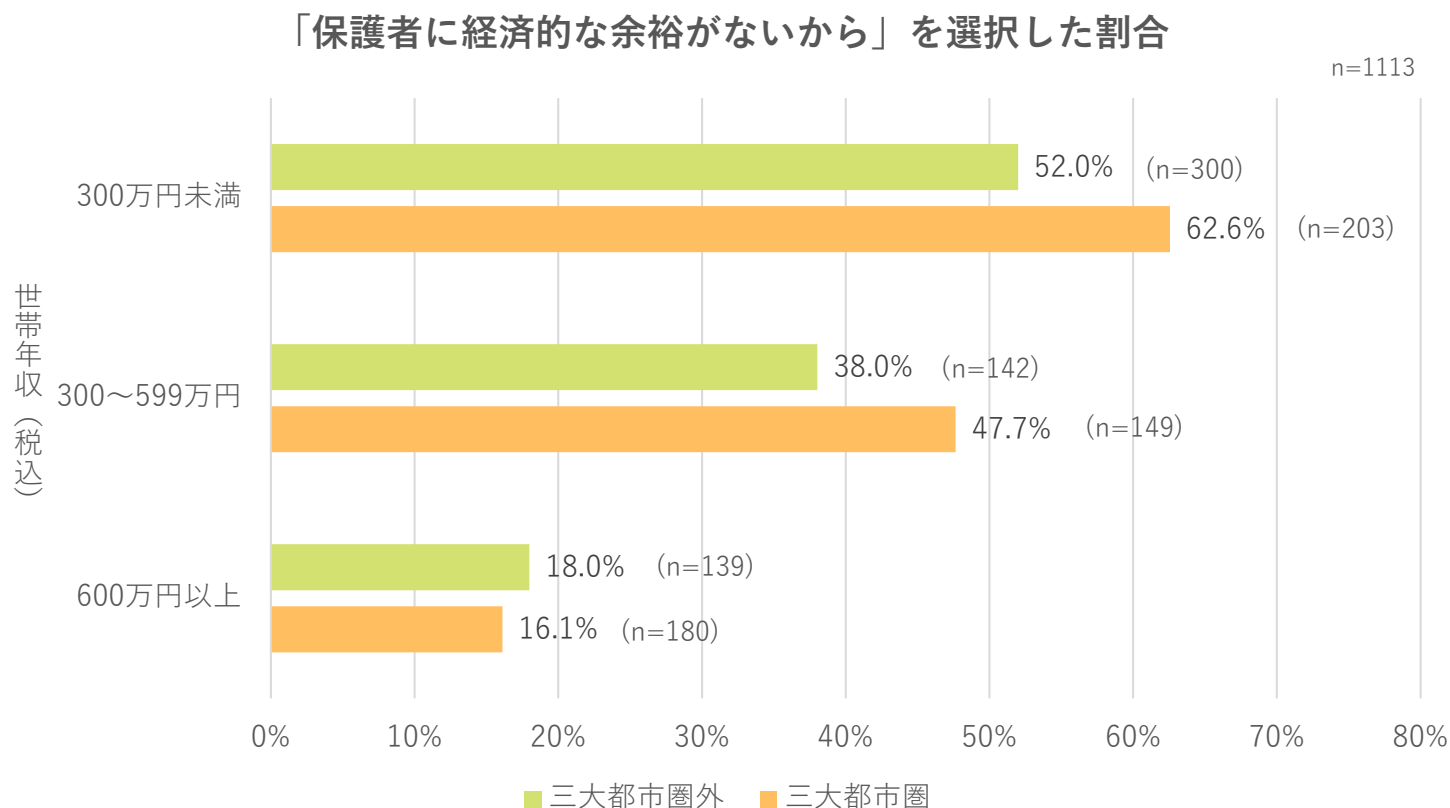
子どもがやってみたいと思う学校外の体験をさせてあげられなかった理由（複数選択） n=1113



※「お子様が学校以外の場でやってみたいと思う体験について、させてあげられなかった経験はありますか。当てはまるものがあれば、すべてお選びください。」という設問に対して、「特にない」と回答した者を除いた1,113名を対象に回答を求めた。そのうえで、「前問で選択した活動について、させてあげられなかった理由を教えてください。（複数選択）」と質問した回答結果。

③ 居住地域（体験活動を諦めた理由）

- ✓ 「子どもがやってみたいと思う学校外の体験をさせてあげられなかった理由」に対して「保護者に経済的な余裕がないから」と回答した割合を、居住地域及び世帯年収別で集計すると、三大都市圏の世帯年収300万円未満の家庭（62.6%）は、三大都市圏外の世帯年収300万円未満の家庭（52.0%）より、10.6ポイント高かった。

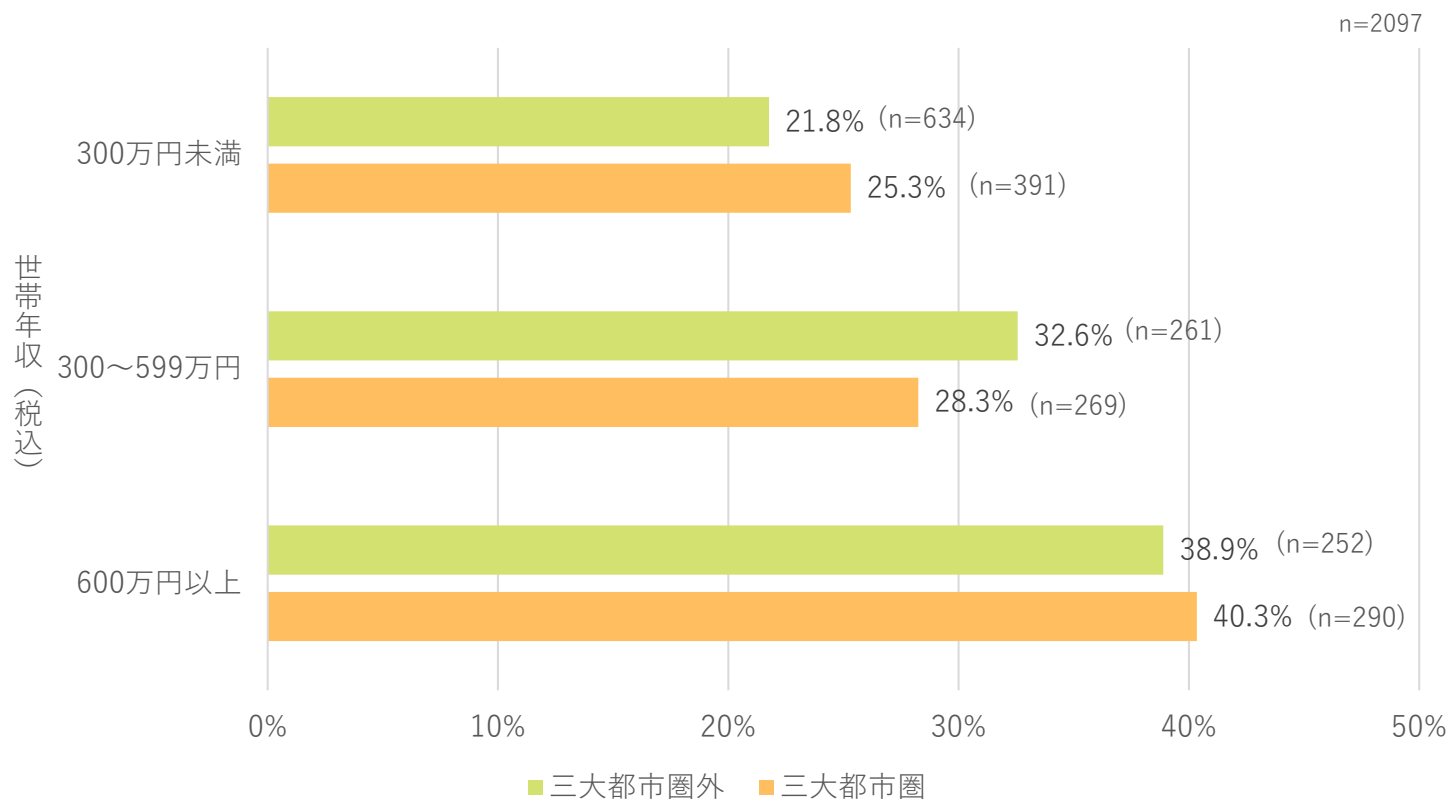


※「お子様が学校以外の場でやってみたいと思う体験について、させてあげられなかった経験はありますか。当てはまるものがあれば、すべてお選びください。」という設問に対して、「特にない」と回答した者を除いた1,113名を対象に回答を求めた。そのうえで、「前問で選択した活動について、させてあげられなかった理由を教えてください。（複数選択）」と質問した回答結果。

③ 居住地域（自然体験への参加状況）

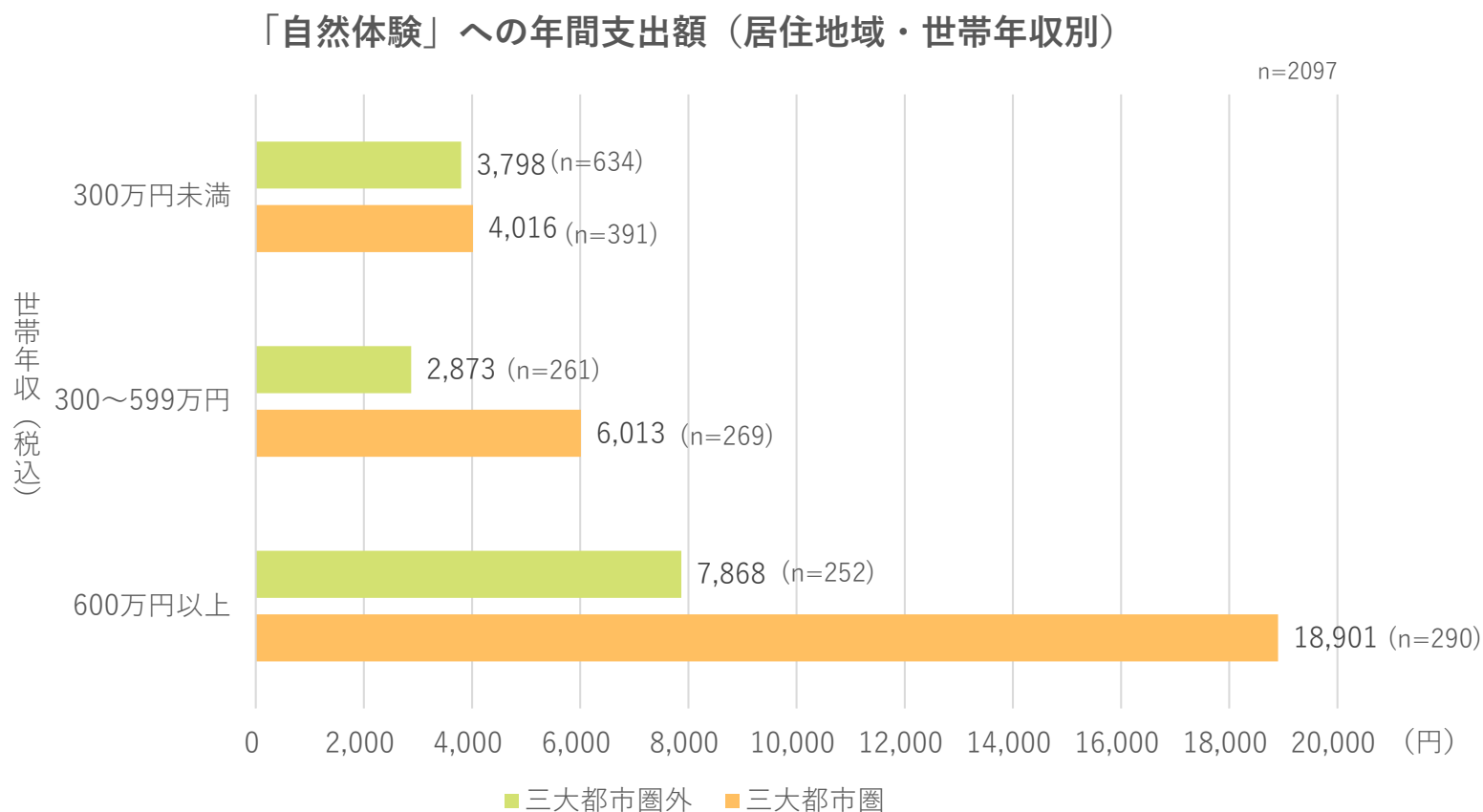
- ✓ 子どもの「自然体験」への参加状況を居住地域および世帯年収別にみると、居住地域にかかわらず、世帯年収が高い家庭ほど「自然体験」に参加している子どもの割合が高かった。

「自然体験」に参加している子どもの割合（居住地域・世帯年収別）



③ 居住地域（自然体験への年間支出額）

- ✓ 子どもの「自然体験」への年間支出額を居住地域および世帯年収別にみると、三大都市圏では世帯年収300万円未満の家庭（4,016円）と世帯年収600万円以上の家庭（18,901円）で、約4.7倍の差が生じていた。三大都市圏外では約2.0倍の差となっており、三大都市圏での格差が顕著である。

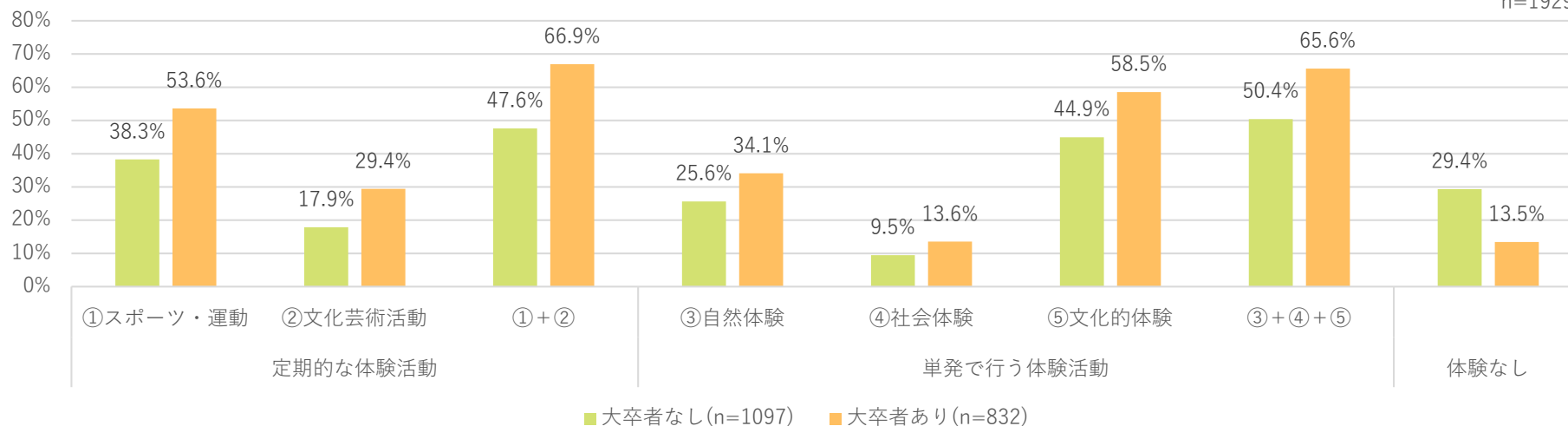


④ 保護者の学歴（体験活動への参加状況）

- ✓ 学校外の体験がない子どもの割合は、保護者に大卒者がいない家庭（29.4%）と、保護者に大卒者がいる家庭（13.5%）で2.2倍の差が生じていた。

学校外の体験に参加している子どもの割合（保護者の学歴別）

※複数選択
n=1929



保護者の学歴区分	定期的な体験活動			単発で行う体験活動				体験なし
	①スポーツ・運動	②文化芸術活動	①+②	③自然体験	④社会体験	⑤文化的体験	③+④+⑤	
大卒者なし(n=1097)	38.3%	17.9%	47.6%	25.6%	9.5%	44.9%	50.4%	29.4%
大卒者あり(n=832)	53.6%	29.4%	66.9%	34.1%	13.6%	58.5%	65.6%	13.5%

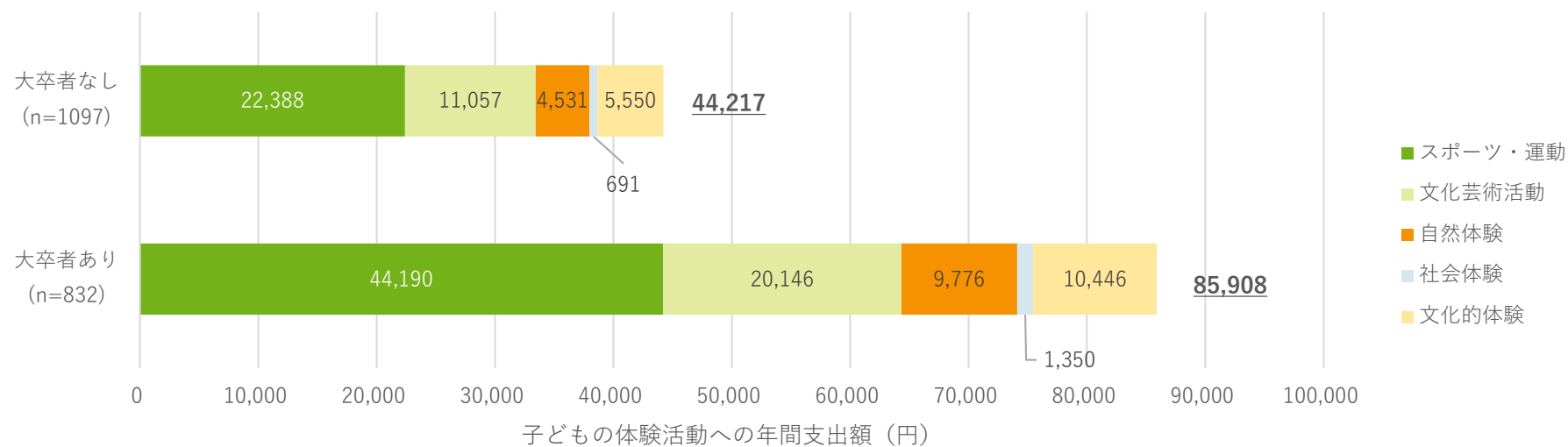
※祖父母が養育している等、子どもの母親と父親がいずれもいないと回答した21名、および保護者の学歴に対して「その他」「わからない」と回答した147名を除外した1,929名を集計している。

④ 保護者の学歴（体験活動への年間支出額）

- ✓ 学校外の体験活動への年間支出額は、保護者に大卒者がいない家庭（44,217円）と、保護者に大卒者がいる家庭（85,908円）で、1.9倍の差が生じていた。

子どもの体験活動への年間支出額（内訳）

n=1929



	定期的な体験活動			単発で行う体験活動				合計
	スポーツ・運動	文化芸術活動	小計	自然体験	社会体験	文化的体験	小計	
大卒者なし(n=1097)	22,388	11,057	33,446	4,531	691	5,550	10,772	44,217
大卒者あり(n=832)	44,190	20,146	64,335	9,776	1,350	10,446	21,572	85,908

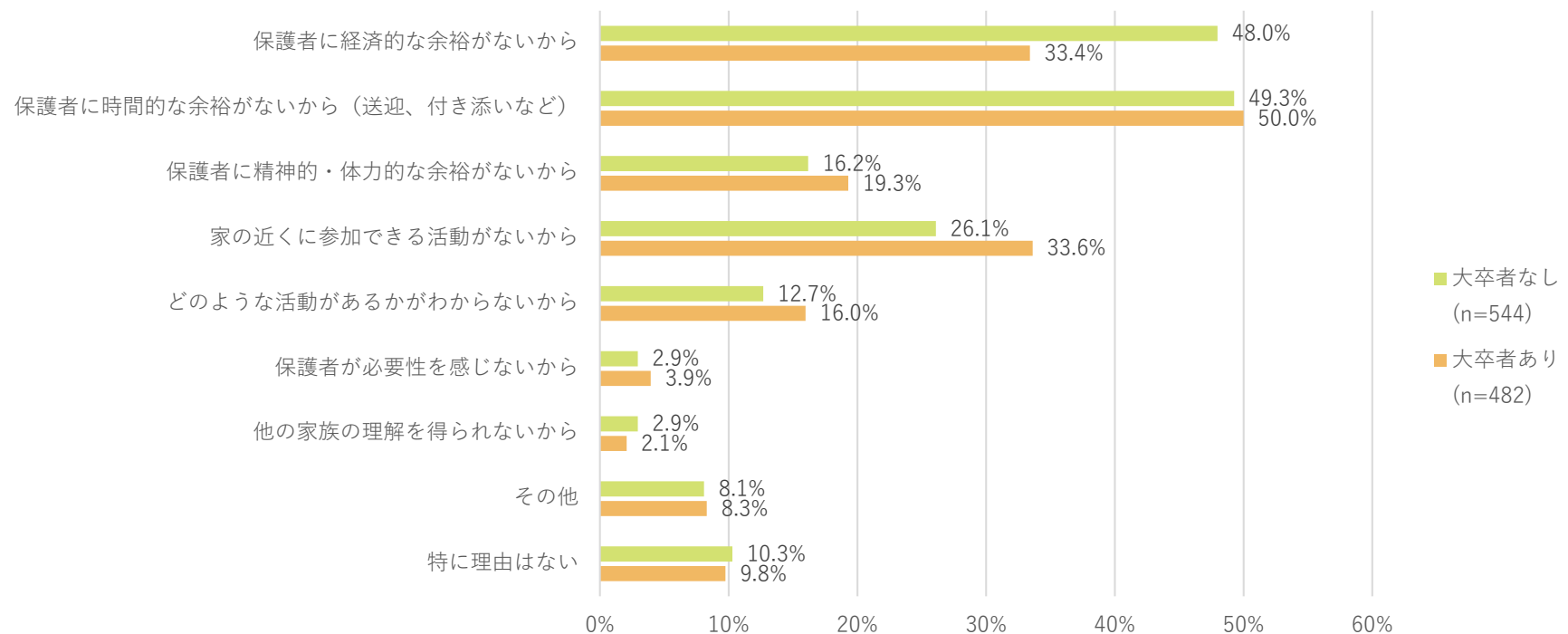
※祖父母が養育している等、子どもの母親と父親がいずれもいないと回答した21名、および保護者の学歴に対して「その他」「わからない」と回答した147名を除外した1,929名を集計している。

④ 保護者の学歴（体験活動を諦めた理由）

- ✓ 「子どもがやってみたいと思う学校外の体験をさせてあげられなかった理由」について、保護者に大卒者がいない家庭では、「保護者に時間的な余裕がないから」(49.3%)が最も多かった。また、保護者に大卒者がいない家庭は、保護者に大卒者がいる家庭と比較して、「保護者に経済的な余裕がないから」(48.0%)が14.6ポイント高かった。

子どもがやってみたいと思う学校外の体験をさせてあげられなかった理由

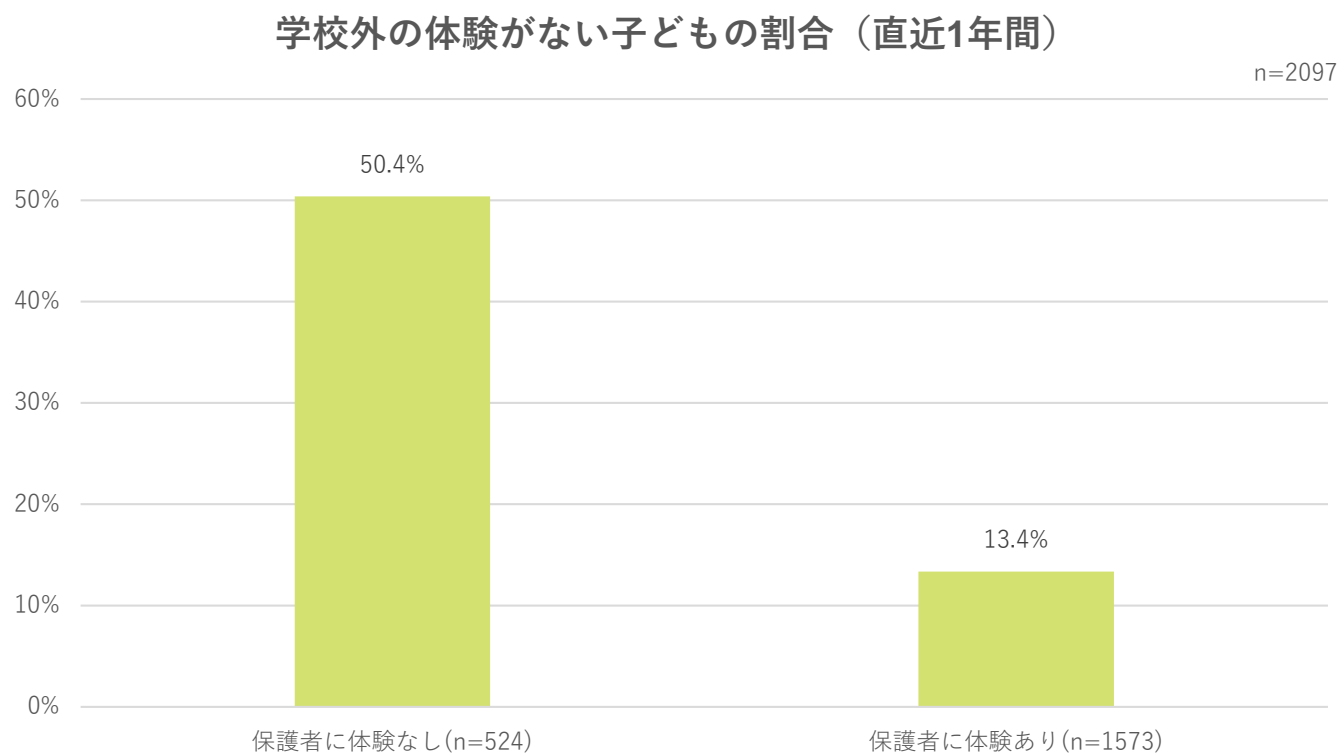
n=1026



※保護者の学歴に対して「その他」「わからない」と回答した者および、「お子様が学校以外の場でやってみたいと思う体験について、させてあげられなかった経験はありますか。当てはまるものがあれば、すべてお選びください。」という設問に対して「特にない」と回答した者を除いた1,026名を対象に回答を求めた。そのうえで、「前問で選択した活動について、させてあげられなかった理由を教えてください。（複数選択）」と質問した回答結果。

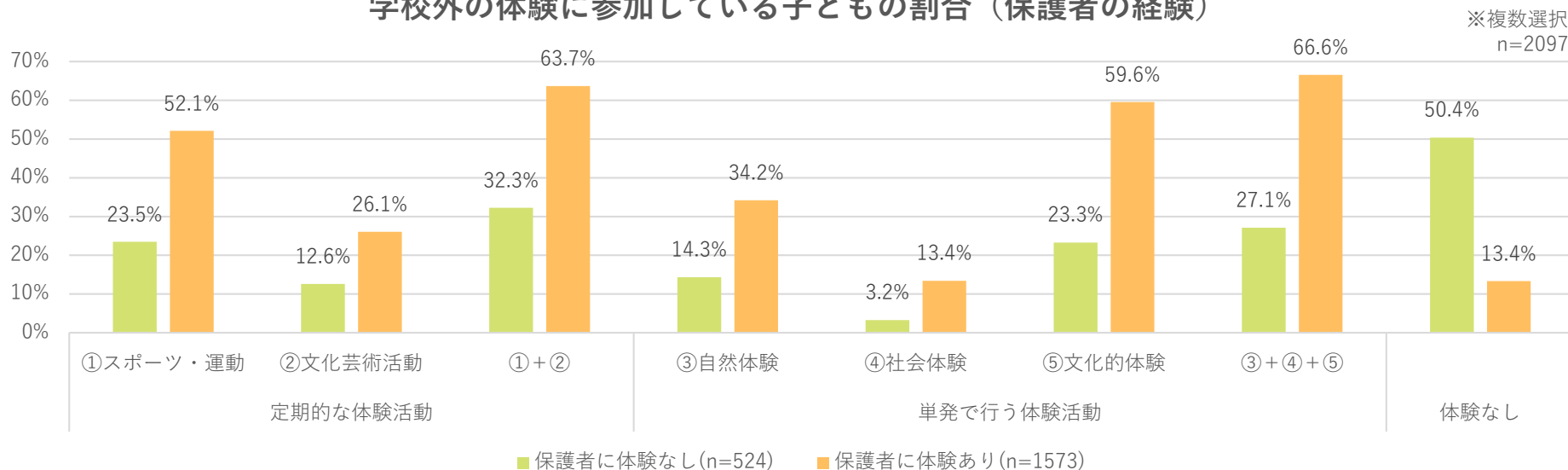
⑤ 保護者の経験（体験活動の参加状況）

- ✓ 学校外の体験がない子どもの割合について、保護者が小学生の頃に学校外での体験活動を行っていなかった家庭と（50.4%）、保護者が小学生の頃に学校外での体験活動を行っていた家庭（13.4%）とで、3.8倍の差が生じている。



⑤ 保護者の経験（体験活動の参加状況）

学校外の体験に参加している子どもの割合（保護者の経験）

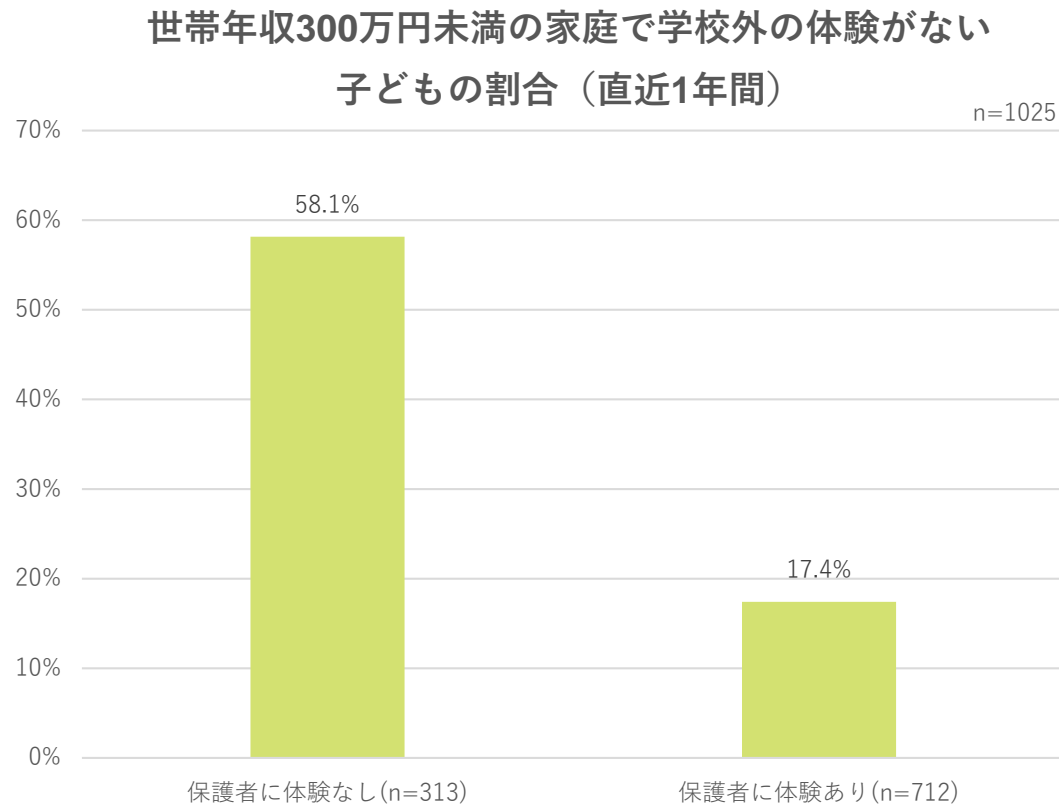


■学校外の体験活動への参加状況と保護者の体験有無（種類別）

		子ども								
		定期的な体験活動			単発で行う体験活動				体験なし	
		①スポーツ・運動	②文化芸術活動	①+②	③自然体験	④社会体験	⑤文化的体験	③+④+⑤		
保護者	全体	体験なし (n=524)	23.5%	12.6%	32.3%	14.3%	3.2%	23.3%	27.1%	50.4%
		体験あり (n=1573)	52.1%	26.1%	63.7%	34.2%	13.4%	59.6%	66.6%	13.4%
	定期的な体験活動	体験なし (n=699)	25.6%	12.7%	34.2%	19.5%	5.4%	33.0%	37.6%	42.8%
		体験あり (n=1398)	54.6%	27.7%	66.7%	34.1%	13.6%	59.2%	66.2%	12.5%
	単発で行う体験活動	体験なし (n=921)	35.5%	17.8%	46.6%	16.9%	4.5%	30.6%	35.7%	36.4%
		体験あり (n=1176)	52.4%	26.5%	63.1%	38.9%	15.9%	66.1%	73.1%	11.8%

⑤ 保護者の経験（体験活動の参加状況）

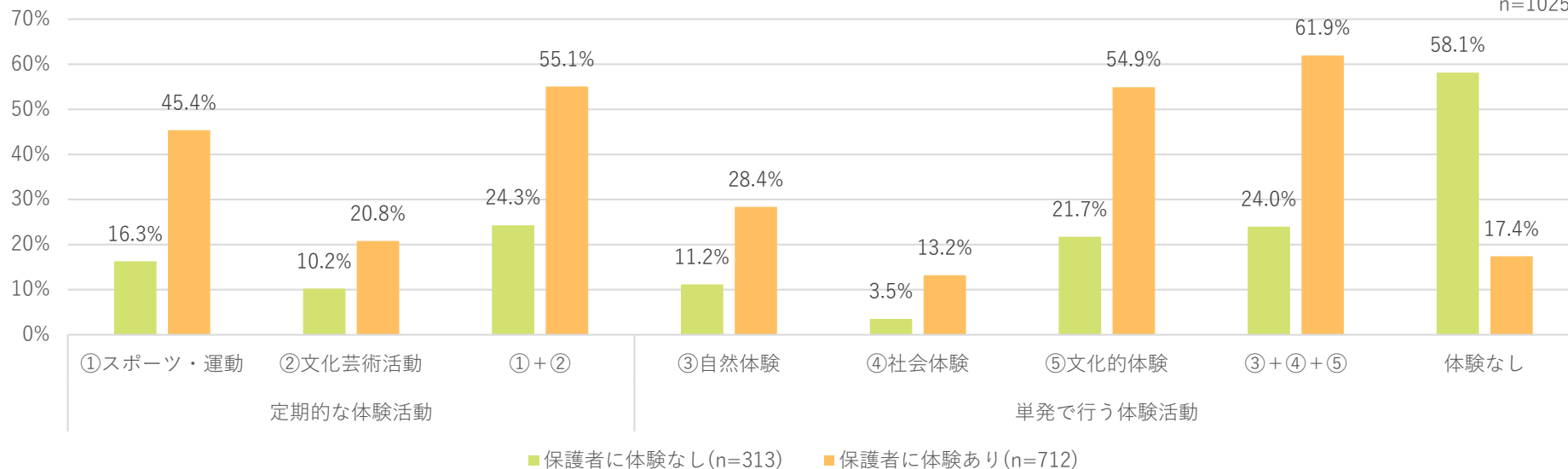
- ✓ 世帯年収が300万円未満でも、保護者が小学生の頃に体験活動に参加していた家庭では体験活動に参加している子どもの割合が高く、学校外の体験活動がない子どもの割合は、保護者が小学生の頃に体験活動に参加していなかった家庭と比較して、1/3以下となった。



⑤ 保護者の経験（体験活動の参加状況）

世帯年収300万円未満の家庭における学校外の体験に参加している子どもの割合（保護者の経験）

※複数選択
n=1025



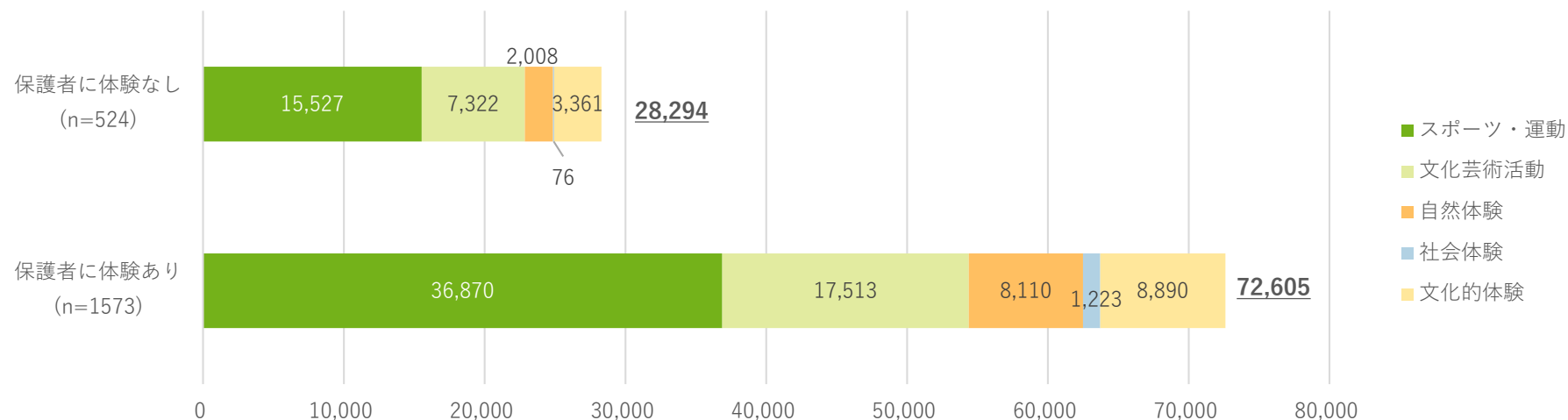
世帯年収区分 及び保護者の体験有無		定期的な体験活動			単発で行う体験活動				体験なし
		①スポーツ・運動	②文化芸術活動	①+②	③自然体験	④社会体験	⑤文化的体験	③+④+⑤	
300万円未満	体験なし (n=313)	16.3%	10.2%	24.3%	11.2%	3.5%	21.7%	24.0%	58.1%
	体験あり (n=712)	45.4%	20.8%	55.1%	28.4%	13.2%	54.9%	61.9%	17.4%
300~599万円	体験なし (n=120)	33.3%	11.7%	40.0%	14.2%	0.8%	24.2%	29.2%	44.2%
	体験あり (n=410)	50.0%	27.3%	62.7%	35.1%	12.7%	62.0%	68.0%	13.2%
600万円以上	体験なし (n=91)	35.2%	22.0%	49.5%	25.3%	5.5%	27.5%	35.2%	31.9%
	体験あり (n=451)	64.7%	33.3%	78.3%	42.6%	14.4%	64.7%	72.5%	7.1%

⑤ 保護者の経験（体験活動への年間支出額）

- ✓ 保護者が小学生の頃に体験活動に参加していなかった家庭における、子どもの体験活動への年間支出額は、保護者が小学生の頃に体験活動に参加していた家庭より少なく、2.6倍の差が生じている。

子どもの体験活動への年間支出額（内訳）

n=2097

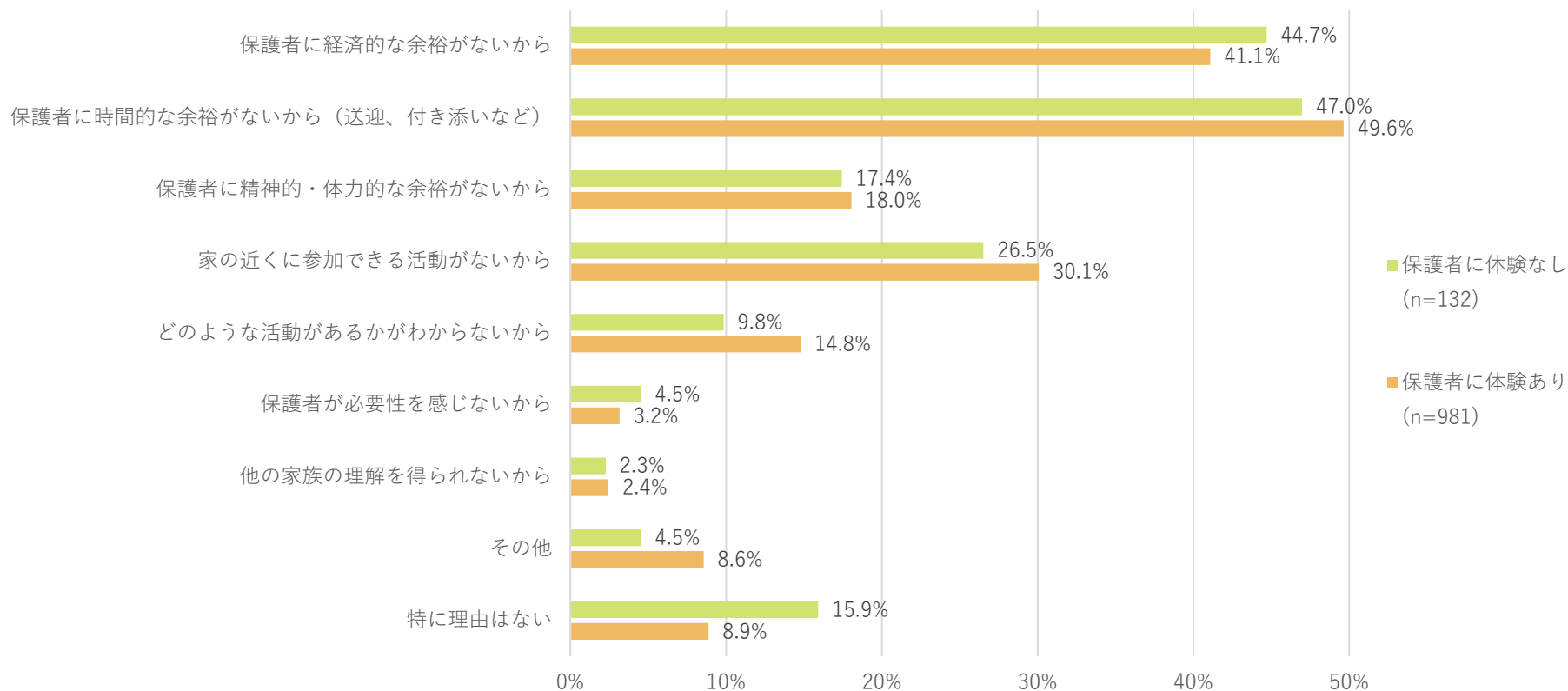


保護者の体験の有無	定期的な体験活動			単発で行う体験活動				合計
	スポーツ・運動	文化芸術活動	小計	自然体験	社会体験	文化的体験	小計	
体験なし (n=524)	15,527	7,322	22,849	2,008	76	3,361	5,445	28,294
体験あり (n=1573)	36,870	17,513	54,382	8,110	1,223	8,890	18,223	72,605

⑤ 保護者の経験（体験活動を諦めた理由）

子どもがやってみたいと思う学校外の体験をさせてあげられなかった理由

n=1113



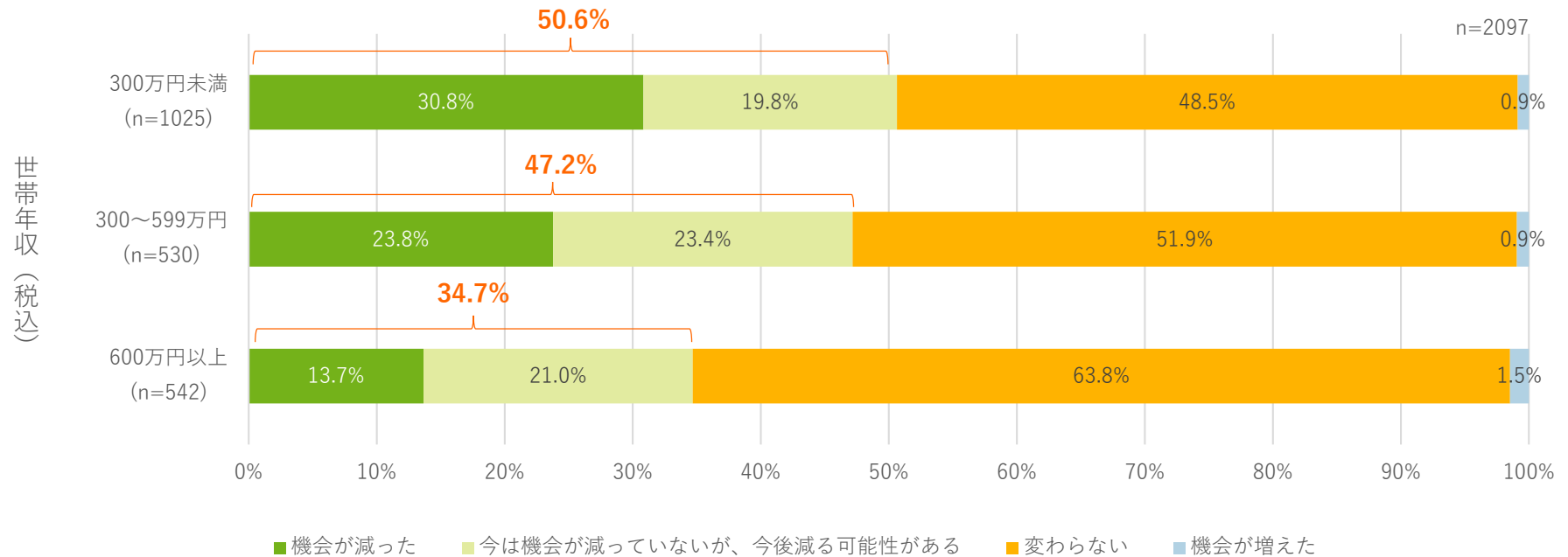
※「お様が学校以外の場でやってみたいと思う体験について、させてあげられなかった経験はありますか。当てはまるものがあれば、すべてお選びください。」という設問に対して、「特にない」と回答した者を除いた1,113名を対象に回答を求めた。そのうえで、「前問で選択した活動について、させてあげられなかった理由を教えてください。（複数選択）」と質問した回答結果。

3-2. 物価高騰による体験活動への影響

(1) 物価高騰による体験活動への影響（世帯年収）

- ✓ 世帯年収300万円未満の家庭の約2人に1人（50.6%）が、物価高騰の影響で子どもの学校外の体験機会が減少した又は今後減少する可能性がある。
- ✓ 世帯年収300万円未満の家庭のうち、物価高騰の影響で子どもの体験機会が減少したと回答した割合は、世帯年収600万円以上の家庭の2.2倍であった。

物価高騰が子どもの学校外の体験機会に与えた影響（世帯年収）

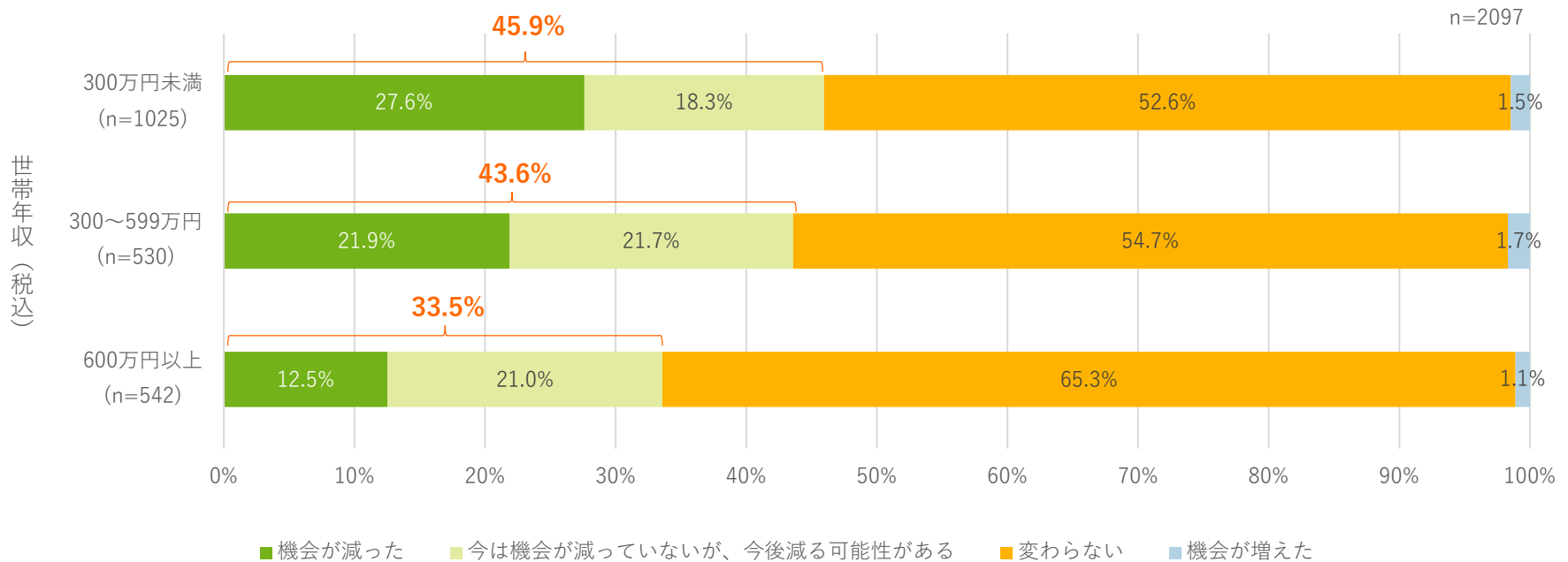


※「物価高騰は、お子様の学校以外の場での体験機会（※）にどのような影響を及ぼしていますか。※体験機会とは、スポーツ、文化芸術活動などの習い事やクラブ活動、個人的又は団体に属して行う自然体験や社会体験、文化的体験等の機会を指します。」という設問に対する回答結果。

【参考】物価高騰による学習への影響（世帯年収）

- ✓ 物価高騰の影響は、子どもの体験機会だけでなく、学習機会の減少にもつながっている。
- ✓ 世帯年収300万円未満の家庭の物価高騰による「体験機会への影響」と「学習機会への影響」を比較すると、「体験機会への影響」の方が減少幅が大きい。

物価高騰が子どもの学校外の学習機会に与えた影響（世帯年収）

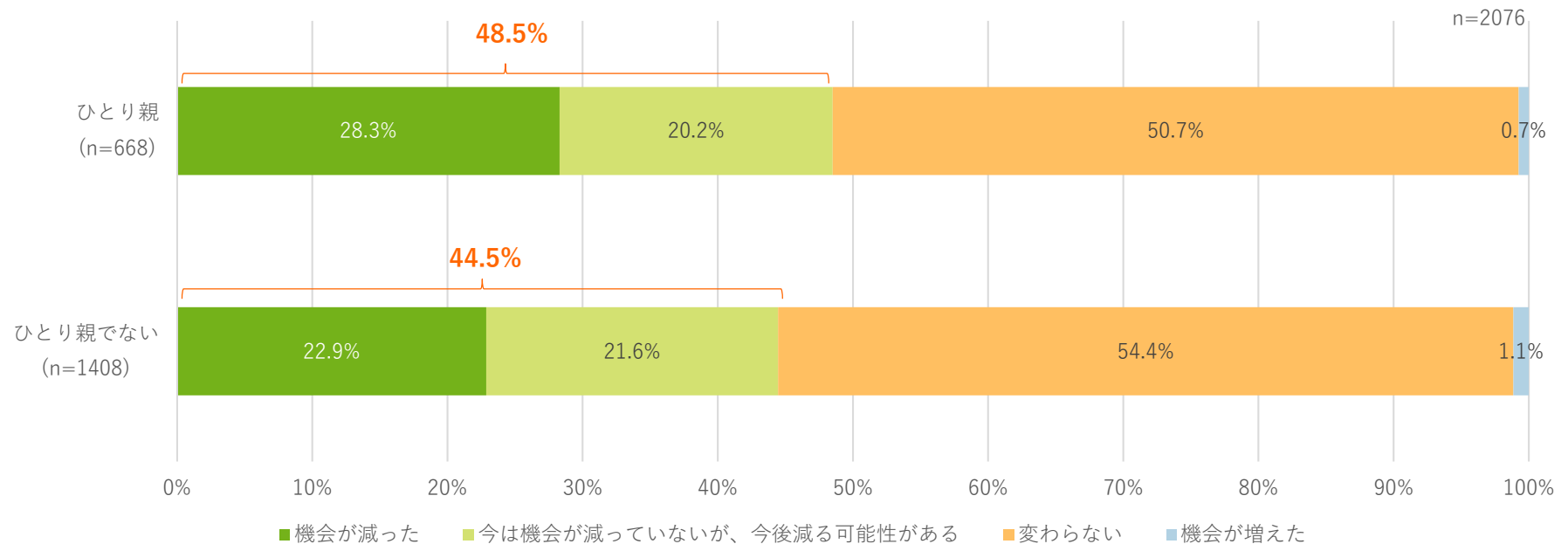


※「物価高騰は、お子様の学校以外の場での学習機会（※）にどのような影響を及ぼしていますか。※学習機会とは、塾・オンライン学習・通信教育、家庭教師、家庭での自主的な学習等の機会を指します。」という設問に対する回答結果。

(2) 物価高騰による体験活動への影響（ひとり親家庭）

- ✓ ひとり親の家庭の約2人に1人（48.5%）が、物価高騰の影響で子どもの学校外の体験機会が減少した又は今後減少する可能性がある。
- ✓ 特に、既に「機会が減った」と回答しているひとり親家庭（28.3%）は、ひとり親でない家庭（22.9%）と比較して、5.4ポイント高かった。

物価高騰が子どもの学校外の体験機会に与えた影響（ひとり親家庭）

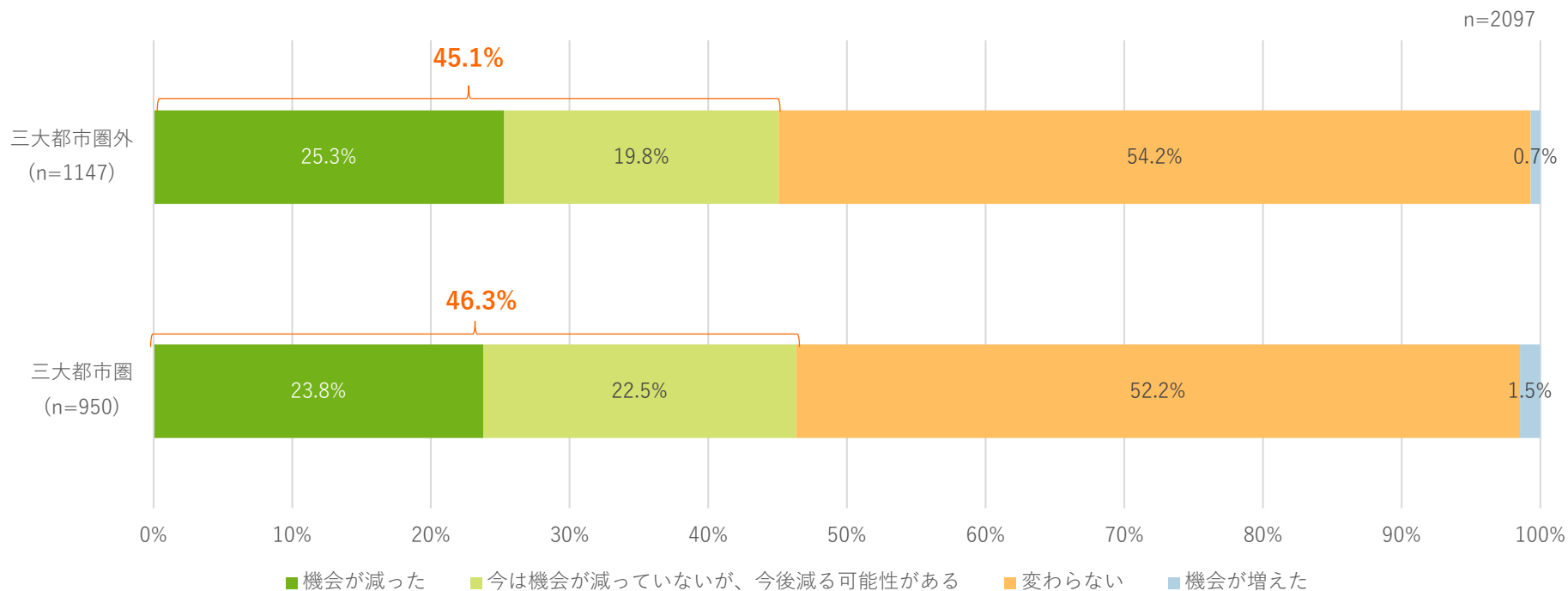


※「物価高騰は、お子様の学校以外の場での体験機会（※）にどのような影響を及ぼしていますか。※体験機会とは、スポーツ、文化芸術活動などの習い事やクラブ活動、個人的又は団体に属して行う自然体験や社会体験、文化的体験等の機会を指します。」という設問に対する回答結果。なお、祖父母が養育している等、子どもの母親と父親がいずれもいないと回答した21名については、集計から省いている。

(3) 物価高騰による体験活動への影響（居住地域）

- ✓ 物価高騰の影響は、居住地域別では特に大きな傾向はみられなかった。

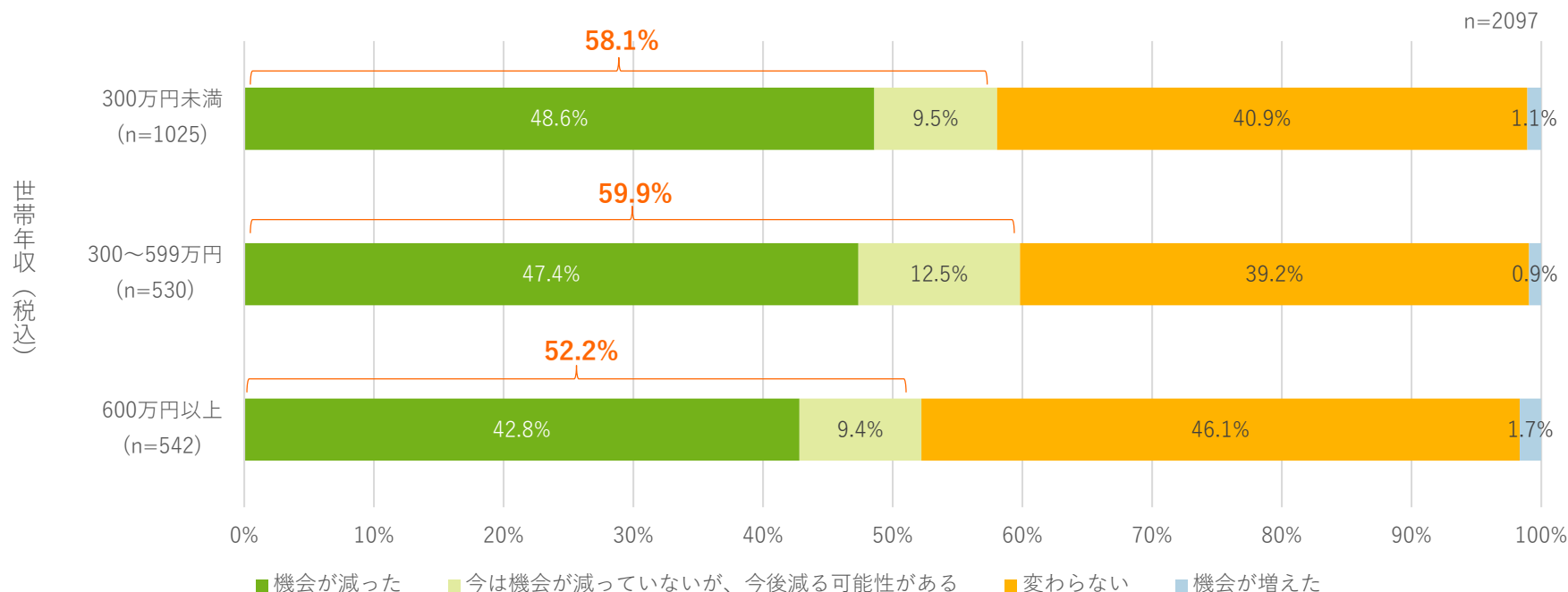
物価高騰が子どもの学校外の体験機会に与えた影響（居住地域）



※「物価高騰は、お子様の学校以外の場での体験機会（※）にどのような影響を及ぼしていますか。※体験機会とは、スポーツ、文化芸術活動などの習い事やクラブ活動、個人的又は団体に属して行う自然体験や社会体験、文化的体験等の機会を指します。」という設問に対する回答結果。

- ✓ コロナ禍の影響により、子どもの学校外の体験機会が減少した又は今後減少する可能性があるという回答した割合は、家庭の経済状況にかかわらず5割を超えている。

コロナ禍が子どもの学校外の体験機会に与えた影響（世帯年収）



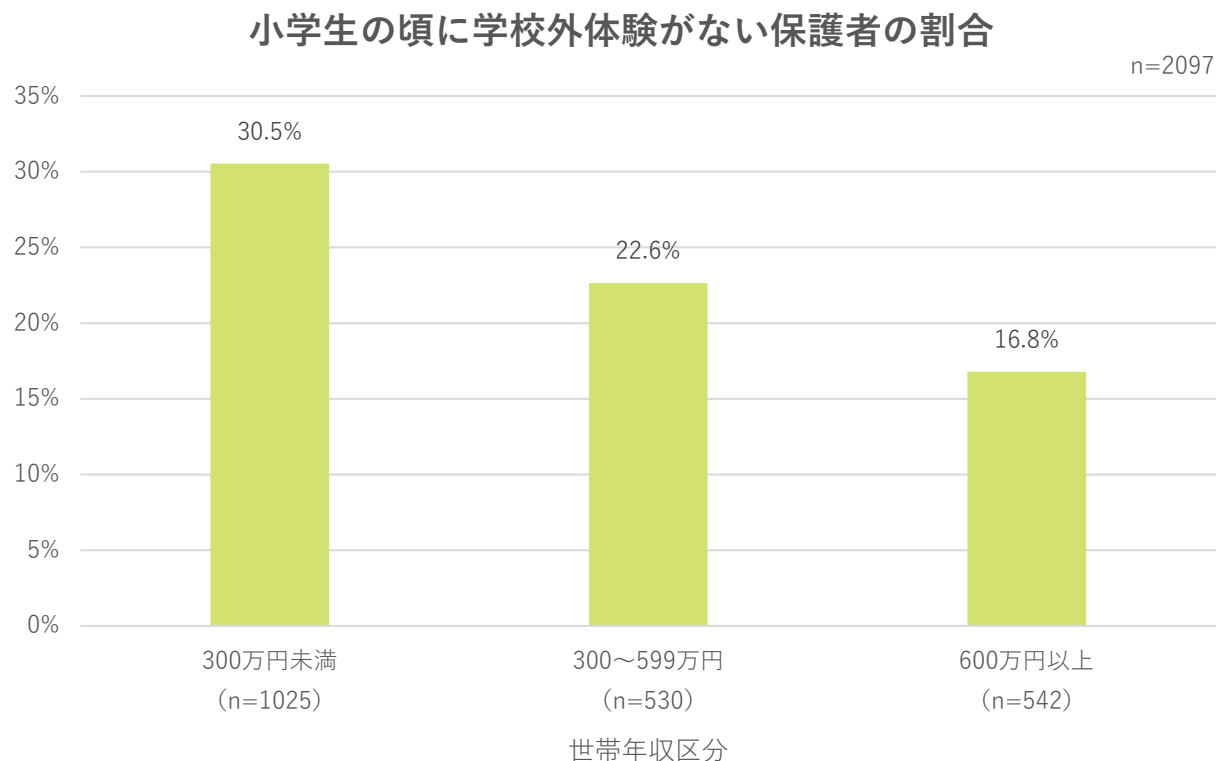
※「コロナ禍は、お客様の学校以外の場での体験機会（※）にどのような影響を及ぼしていますか。※体験機会とは、スポーツ、文化芸術活動などの習い事やクラブ活動、個人的又は団体に属して行う自然体験や社会体験、文化的体験等の機会を指します。」という設問に対する回答結果。

3-3. 保護者の経験

(1) 保護者の経験と現在の世帯年収

(1) 保護者の経験と現在の世帯年収

- ✓ 現在の世帯年収が低い家庭の保護者ほど、自身が小学生の頃に学校外の体験活動を何もしていなかった割合が高い（13.7ポイントの差）。

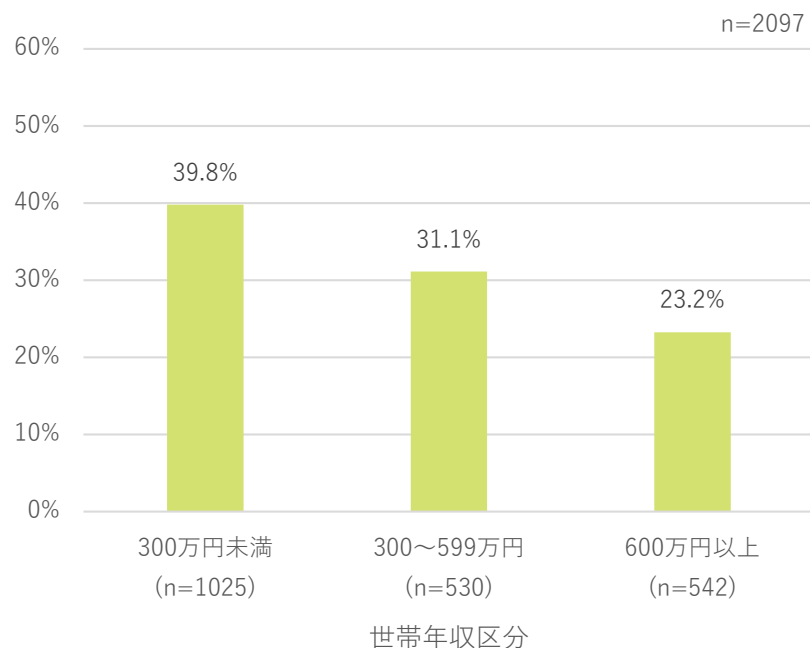


※ 「あなたご自身は、小学生の頃に学校以外の場で次のような活動を定期的にしていましたか。していた活動をすべてお選びください。」という設問に対し「何もしていなかった」と回答し、かつ「あなたご自身は、小学生の頃に学校以外の場で年に1回以上、次のような体験をしていましたか。していた体験をすべてお選びください。※ご家族や個人での私的な活動も含みます。」という設問に対し「何もしていなかった」と回答した割合。

(1) 保護者の経験と現在の世帯年収

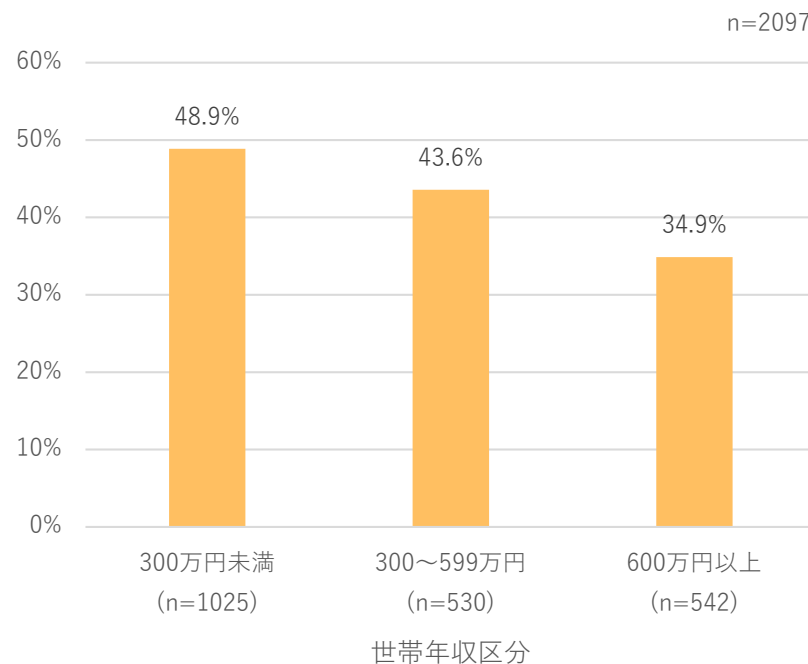
- ✓ 「定期的な体験活動」「単発で行う体験活動」いずれでも、同様の傾向が確認できた。

小学生の頃に学校外体験がない保護者の割合
(定期的なスポーツ・文化芸術系の習い事やクラブ
活動をしていなかった割合)



※「あなたご自身は、小学生の頃に学校以外の場で次のような活動を定期的にしていましたか。していた活動をすべてお選びください。」という設問に対し「何もしていなかった」と回答した割合。

小学生の頃に学校外体験がない保護者の割合
(自然体験・社会体験・文化的体験を年に1回以上
していなかった割合)

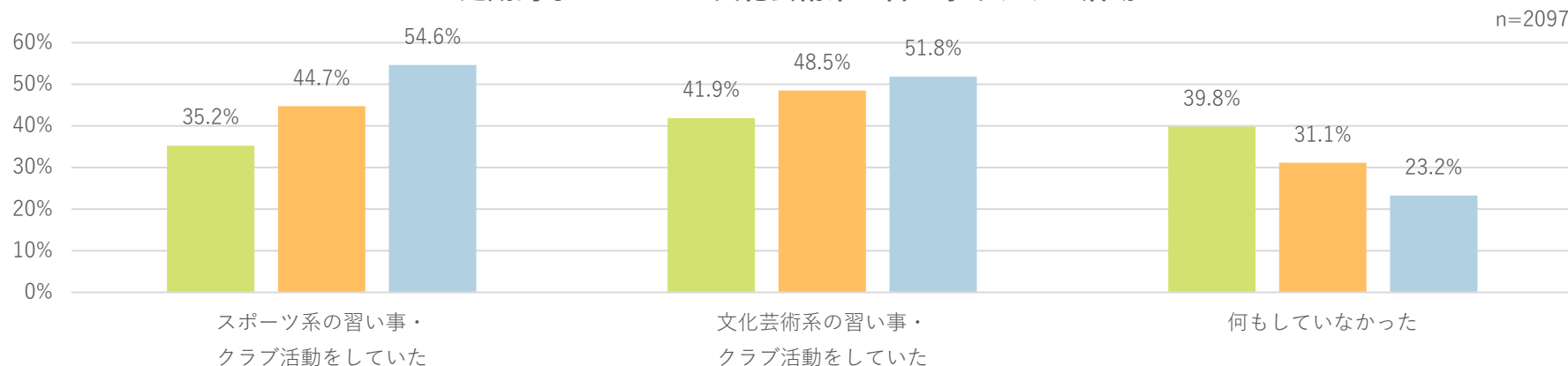


※「あなたご自身は、小学生の頃に学校以外の場で年に1回以上、次のような体験をしていましたか。していた体験をすべてお選びください。※ご家族や個人での私的な活動も含みます。」という設問に対し「何もしていなかった」と回答した割合。

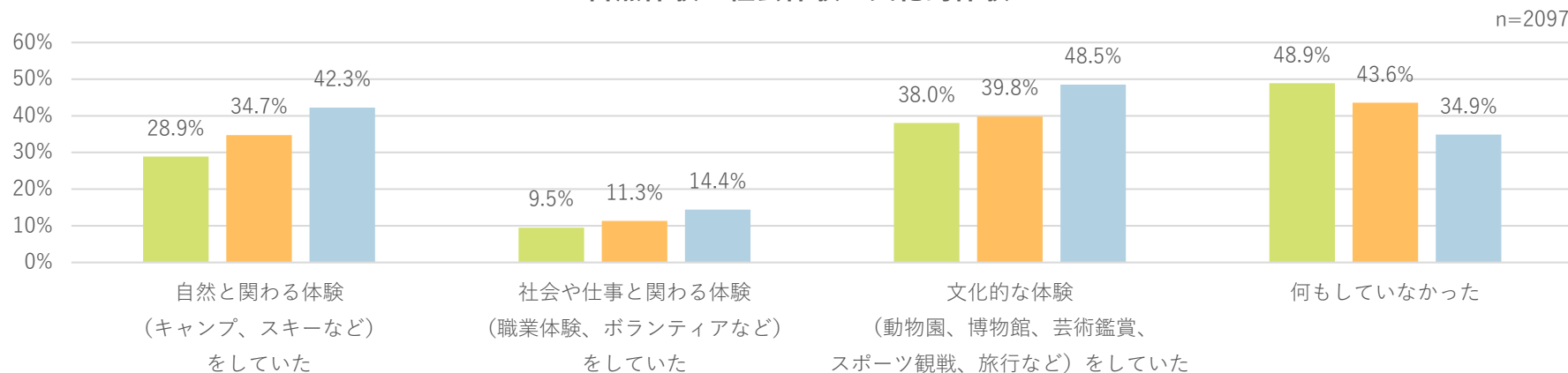
(1) 保護者の経験と現在の世帯年収

保護者が小学生の頃の体験への参加状況と現在の世帯年収（内訳）

定期的なスポーツ・文化芸術系の習い事やクラブ活動



自然体験・社会体験・文化的体験



世帯年収区分： ■ 300万円未満(n=1025) ■ 300～599万円(n=530) ■ 600万円以上(n=542)

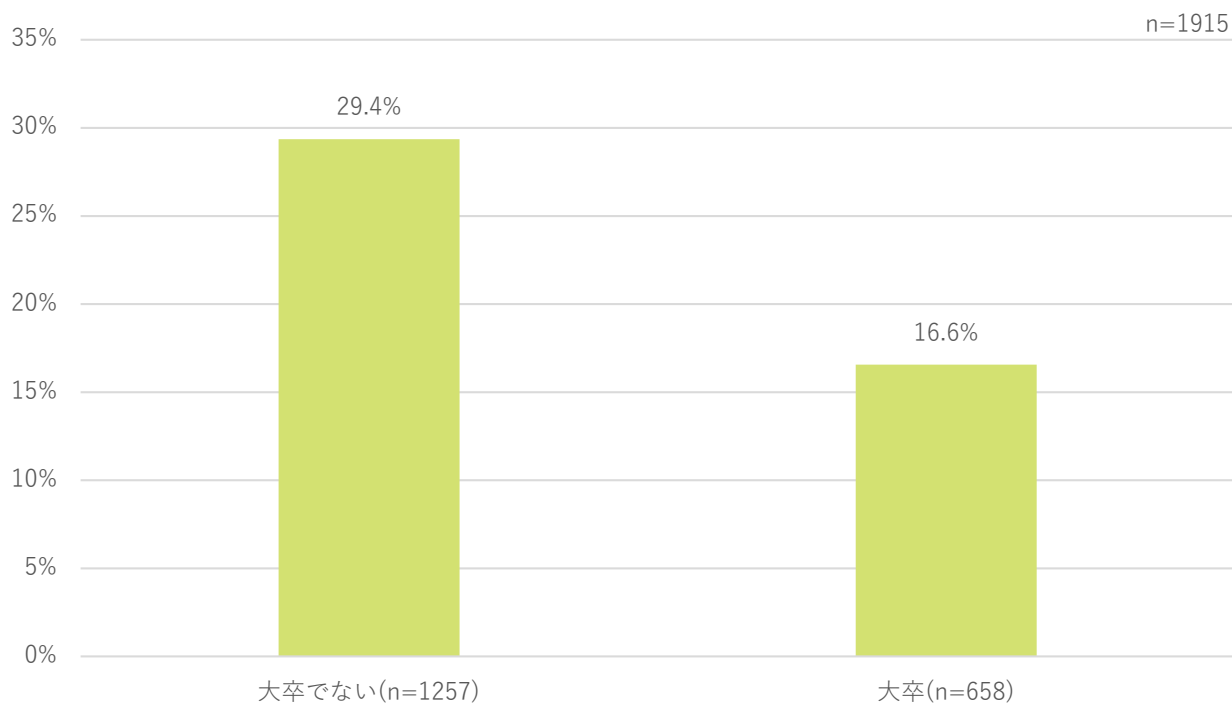
※「あなたご自身は、小学生のころに学校以外の場で次のような活動を定期的にしていましたか。していた活動をすべてお選びください。」および「※「あなたご自身は、小学生のころに学校以外の場で年に1回以上、次のような体験をしていましたか。していた体験をすべてお選びください。※ご家族や個人での私的な活動も含まれます。」という設問への回答。

3-3. 保護者の経験

(2) 保護者の経験と学歴

- ✓ 保護者の最終学歴が高い家庭ほど、保護者自身が小学生の頃に学校外の体験活動を何もしていなかった割合が低い傾向にある（12.8ポイントの差）。

小学生の頃に学校外体験がない保護者の割合

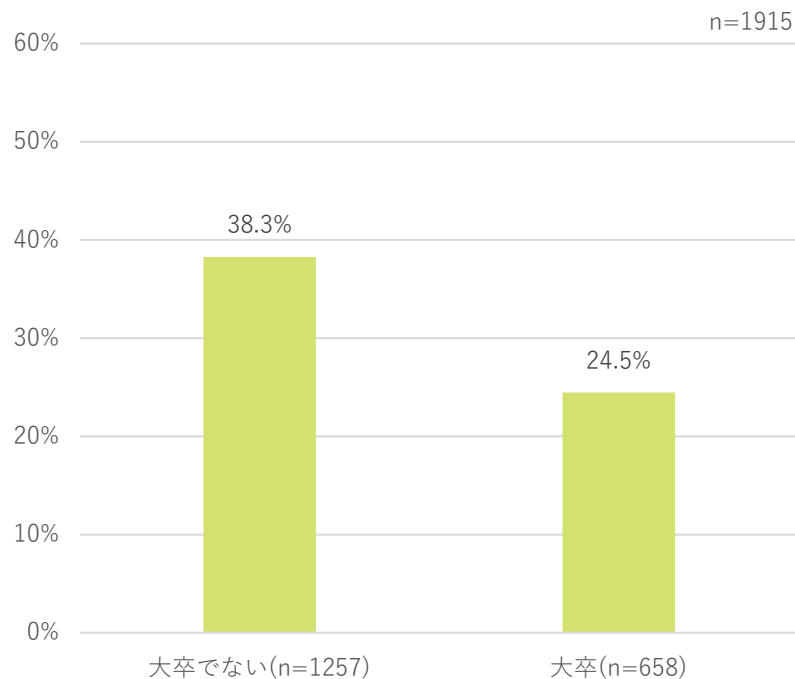


※回答者が自身の学歴について回答している1915名のうち、「あなたご自身は、小学生の頃に学校以外の場で次のような活動を定期的にしていましたか。していた活動をすべてお選びください。」および「あなたご自身は、小学生の頃に学校以外の場で年に1回以上、次のような体験をしていましたか。していた体験をすべてお選びください。」という設問に対し、いずれも「何もしていなかった」と回答した割合。

(2) 保護者の経験と学歴

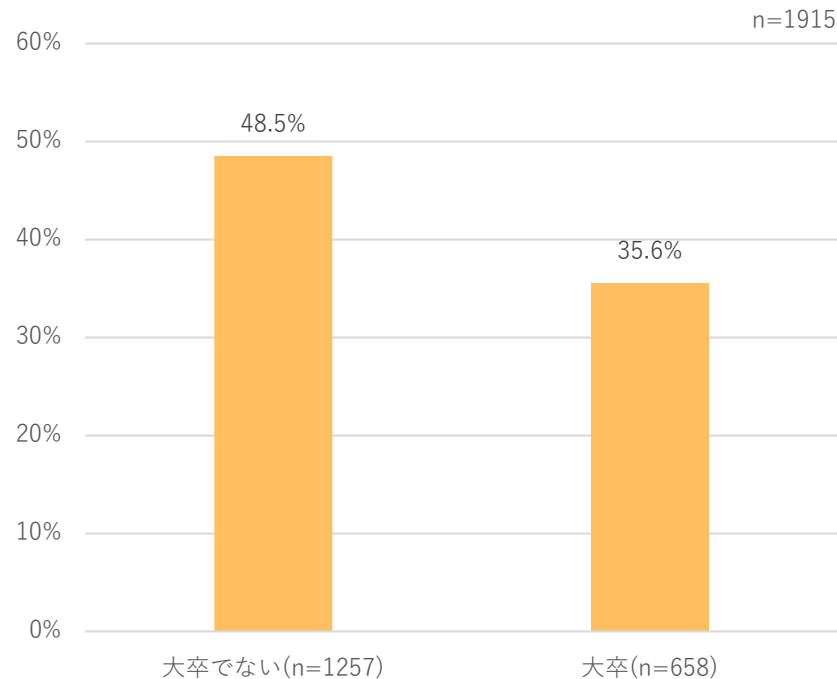
- ✓ 「定期的な体験活動」「単発で行う体験活動」いずれでも、同様の傾向となっていた。

小学生の頃に学校外体験がない保護者の割合
(定期的なスポーツ・文化芸術系の習い事やクラブ
活動をしていなかった割合)



※回答者が自身の学歴について回答している1915名のうち、「あなたご自身は、小学生のころに学校以外の場で次のような活動を定期的にしていましたか。していた活動をすべてお選びください。」という設問に対し「何もしてなかった」と回答した割合。

小学生の頃に学校外体験がない保護者の割合
(自然体験・社会体験・文化的体験を
年に1回以上していなかった割合)



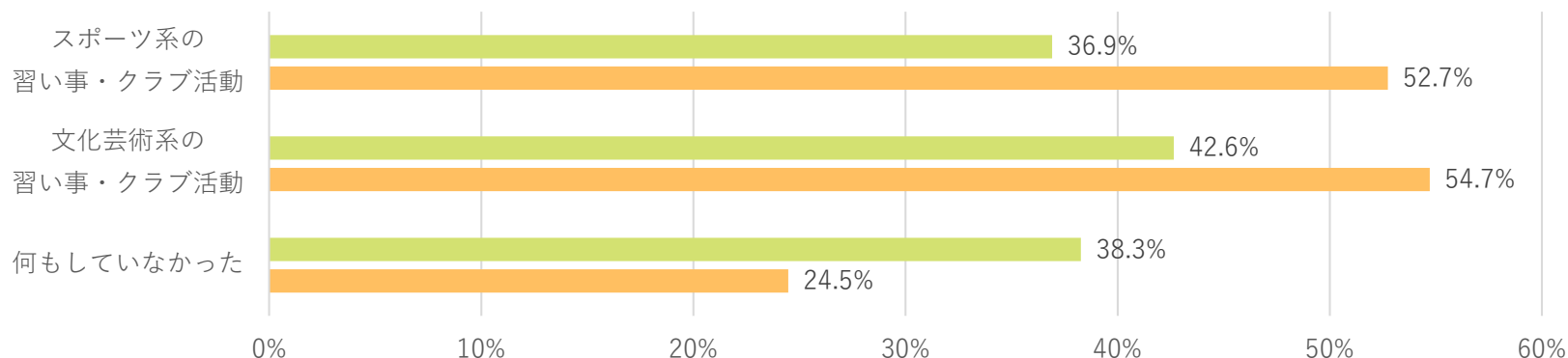
※回答者が自身の学歴について回答している1915名のうち、「あなたご自身は、小学生のころに学校以外の場で年に1回以上、次のような体験をしていましたか。していた体験をすべてお選びください。※ご家族や個人での私的な活動も含まれます。」という設問に対し「何もしてなかった」と回答した割合。

(2) 保護者の経験と学歴

保護者の小学生の頃の経験

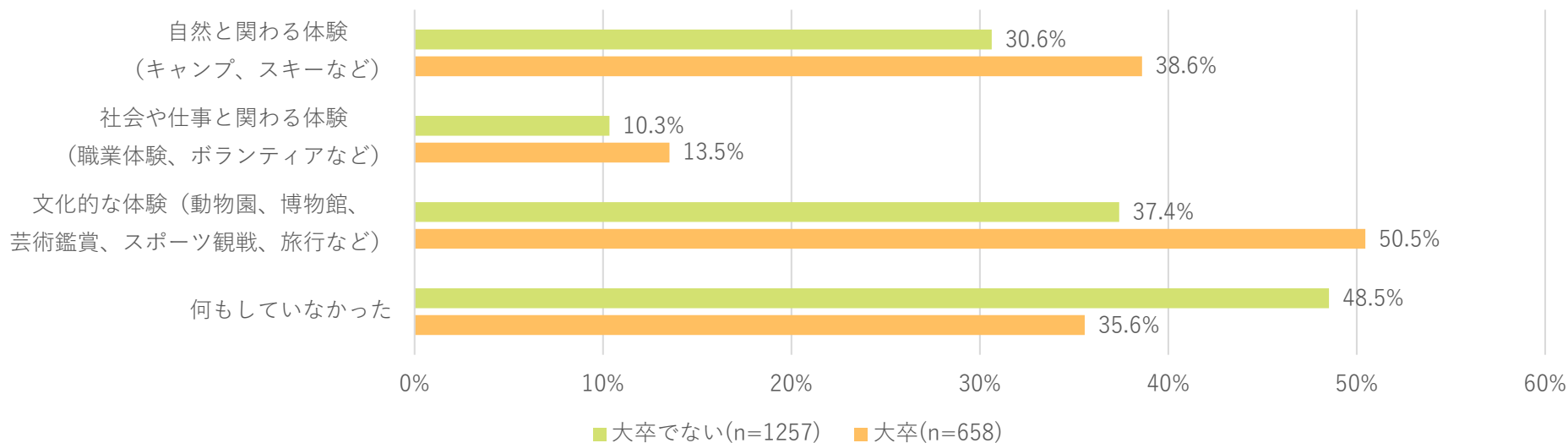
(定期的なスポーツ・文化芸術系の習い事やクラブ活動をしていた割合)

n=1915



(自然体験・社会体験・文化的体験を年に1回以上していた割合)

n=1915



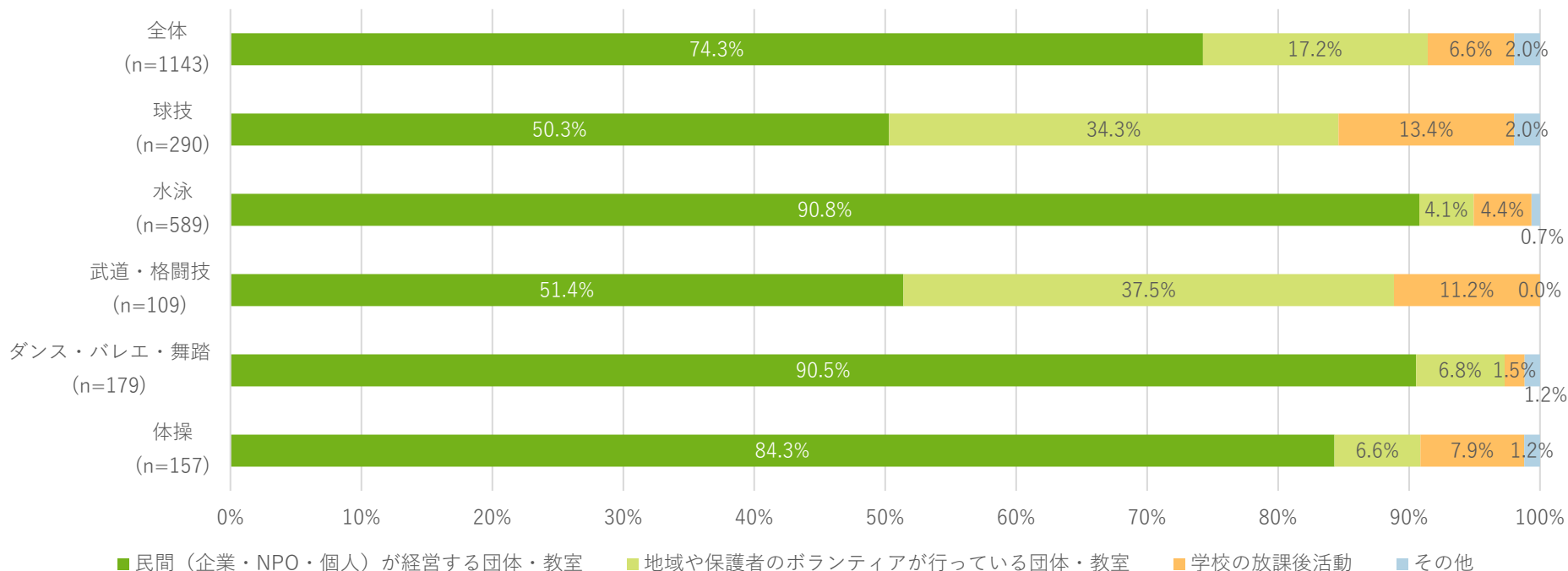
※回答者が自身の学歴について回答している1915名が、「あなたご自身は、小学生のころに学校以外の場で次のような活動を定期的に行っていましたか。していた活動をすべてお選びください。」および「あなたご自身は、小学生のころに学校以外の場で年に1回以上、次のような体験をしていましたか。していた体験をすべてお選びください。※ご家族や個人での私的な活動も含まれます。」という設問に対して回答した結果。

3-4. 多様な体験の担い手

(1) 活動種類別の運営主体

- ✓ 「スポーツ・運動」の運営主体について、全体では「民間（企業・NPO・個人）が経営する団体・教室」が74.3%で最多となっているが、スポーツの種類によって幅がある。例えば、施設面で費用が掛かりやすい水泳は90.8%が「民間が経営する団体・教室」を占めている。一方、球技では「民間が経営する団体・教室」が50.3%に留まり、「地域や保護者のボランティアが行っている団体・教室」が次いで34.3%と多くなっている。

「スポーツ・運動」の運営主体（内訳）

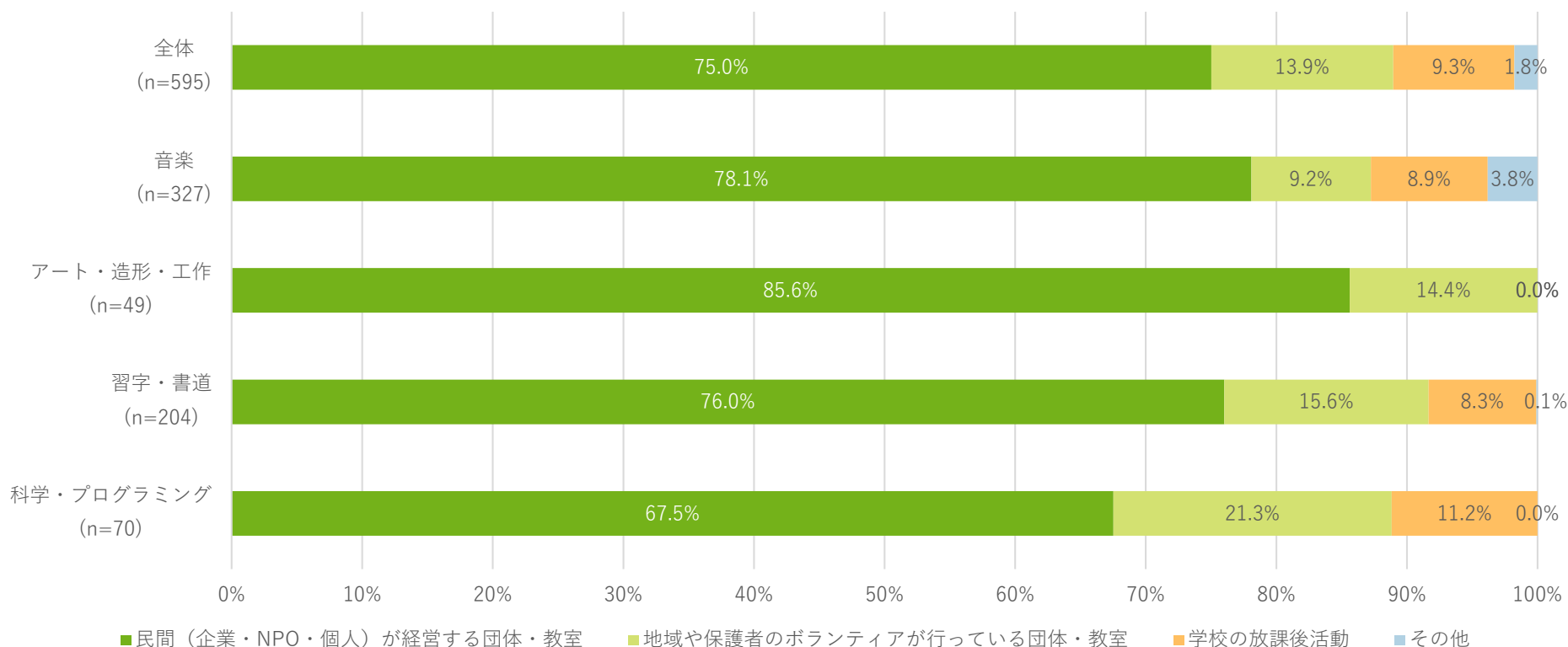


※各種「スポーツ・運動」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した体験活動について、お子様は、どのような団体や教室に所属して、活動を行っていますか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果を元に、「国民生活基礎調査2021」の世帯年収割合でウェイトバックを実施した数値。なお、最も活動頻度が多い「スポーツ・運動」の種類についてのみ聞いたため、全体以外は複数種類の「スポーツ・運動」への参加者については省いて集計している。また、ウェイトバック前の回答が50件を下回る「スポーツ・運動」の種類、および「その他」は省略している。

② 文化芸術活動

- ✓ 「文化芸術活動」の運営主体について、全体では「民間（企業・NPO・個人）が経営する団体・教室」が75.0%で最多となっている。

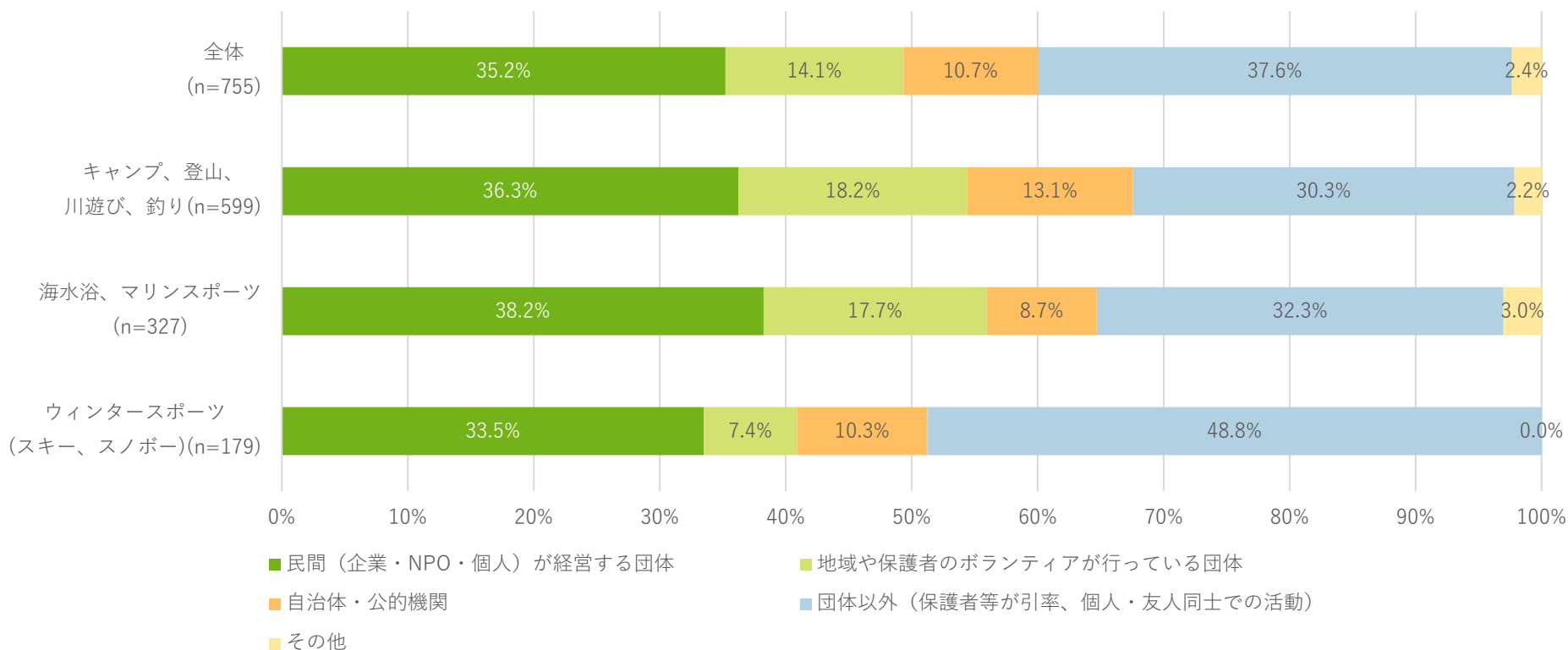
「文化芸術活動」の運営主体（内訳）



※各種「文化芸術活動」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した体験活動について、お子様は、どのような団体や教室に所属して、活動を行っていますか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果を元に、「国民生活基礎調査2021」の世帯年収割合でウェイトバックを実施した数値。なお、最も活動頻度が多い「文化芸術活動」の種類についてのみ聞いたため、全体以外は複数種類の「文化芸術活動」への参加者については省いて集計している。また、ウェイトバック前の回答が20件を下回る「文化芸術活動」の種類、および「その他」は省略している。

- ✓ 「自然体験」の運営主体について、全体では「団体以外（保護者等が引率、個人・友人同士での活動）」が37.6%、「民間（企業・NPO・個人）が経営する団体」が35.2%となっている。

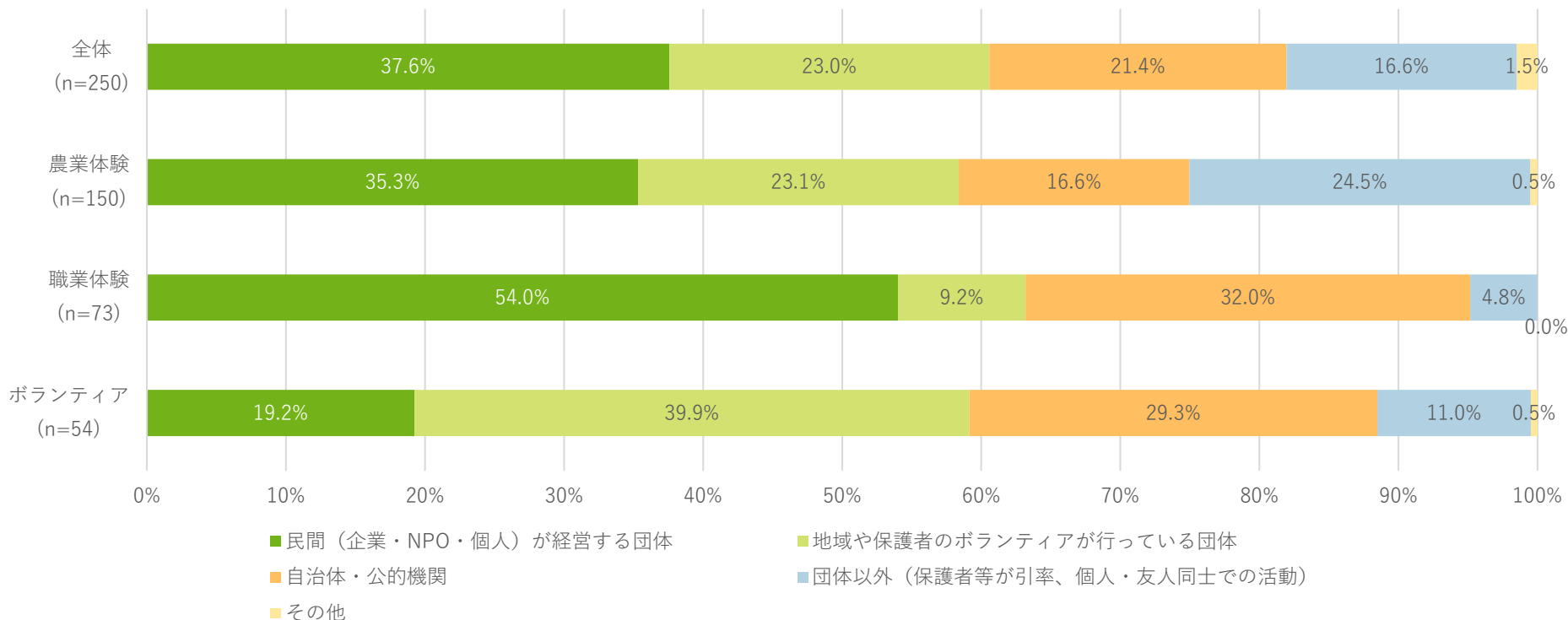
「自然体験」の運営主体（内訳）



※各種「自然体験」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した活動は、それぞれどのような団体が主催する活動ですか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果を元に、「国民生活基礎調査2021」の世帯年収割合でウェイトバックを実施した数値。なお、最も活動頻度が多い「自然体験」の種類についてのみ聞いたため、全体以外は複数種類の「自然体験」への参加者については省いて集計している。また、「その他」は省略している。

- ✓ 「社会体験」の運営主体について、全体では「民間（企業・NPO・個人）が経営する団体・教室」が37.6%で最多となっている。

「社会体験」の運営主体（内訳）

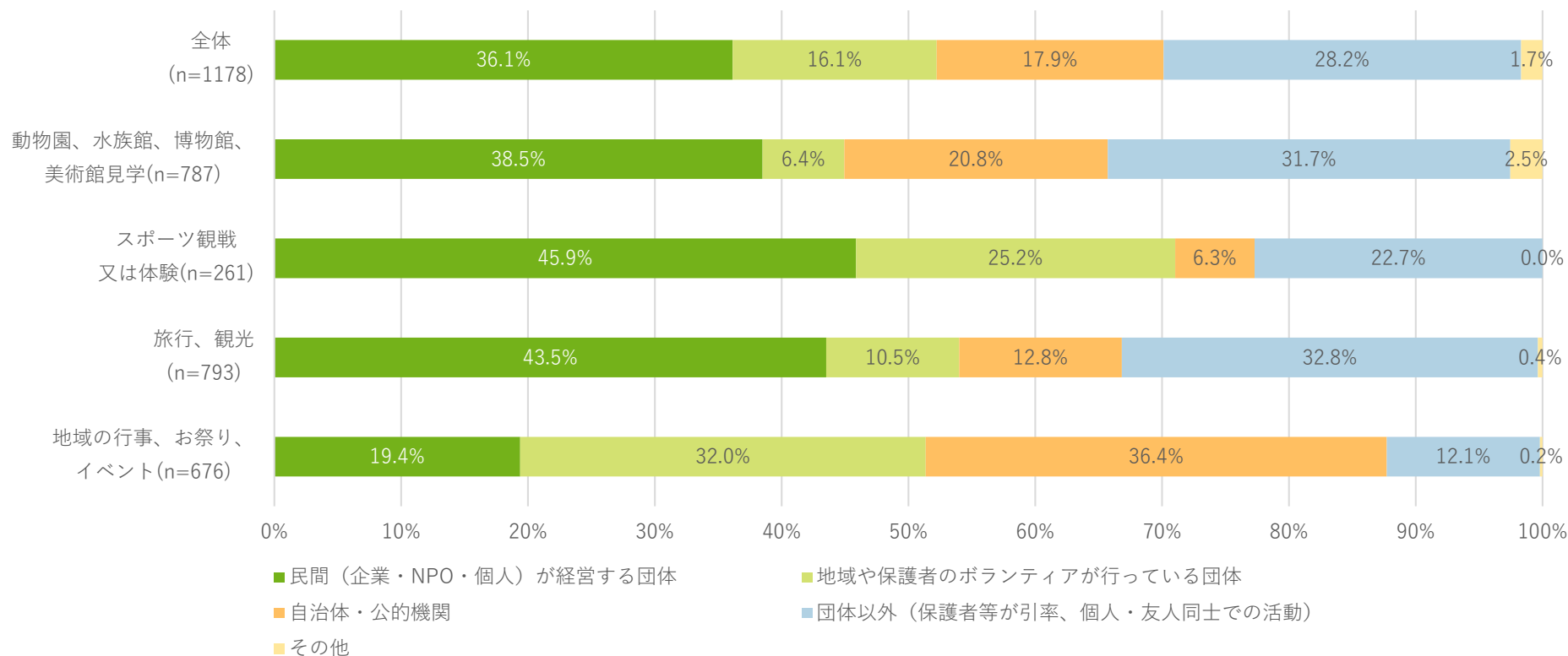


※各種「社会体験」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した活動は、それぞれどのような団体が主催する活動ですか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果を元に、「国民生活基礎調査2021」の世帯年収割合でウェイトバックを実施した数値。なお、最も活動頻度が多い「社会体験」の種類についてのみ聞いたため、全体以外は複数種類の「社会体験」への参加者については省いて集計している。また、「その他」は省略している。

⑤ 文化的体験

- ✓ 「文化的体験」の運営主体について、全体では「民間（企業・NPO・個人）が経営する団体・教室」が36.1%で最多となっている。一方、「地域の行事、お祭り、イベント」については、「自治体・公的機関」が36.4%となっており、種類によって差がある。

「文化的体験」の運営主体（内訳）



※各種「文化的体験」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した活動は、それぞれどのような団体が主催する活動ですか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果を元に、「国民生活基礎調査2021」の世帯年収割合でウェイトバックを実施した数値。なお、最も活動頻度が多い「文化的体験」の種類についてのみ聞いたため、全体以外は複数種類の「文化的体験」への参加者については省いて集計している。また、ウェイトバック前に回答が20件を下回る「文化的体験」の種類、および「その他」は省略している。

3-4. 多様な体験の担い手

(2) 運営主体別の費用

① 定期的な体験活動

- ✓ 定期的な体験活動の平均年間費用について、「スポーツ・運動」「文化芸術活動」いずれにおいても、「民間（企業・NPO・個人）が経営する団体・教室」による活動が最も高額。
- ✓ 「地域や保護者のボランティアが行っている団体・教室」「学校の放課後活動」については、「民間が経営する団体・教室」よりも平均的に安価だが、世帯年収によって幅があること、サンプルが少ないことにも留意されたい。

運営主体別の平均年間費用（定期的な体験活動）

単位：円

世帯年収区分	民間（企業・NPO・個人）が経営する団体・教室	地域や保護者のボランティアが行っている団体・教室	学校の放課後活動	その他
スポーツ・運動 平均(n=1143)	92,108	57,678	46,150	28,493
300万円未満(n=374)	69,797(n=230)	27,816(n=96)	32,706(n=36)	61,399(n=12)
300～599万円(n=245)	80,928(n=173)	27,389(n=44)	55,978(n=18)	71,102(n=10)
600万円以上(n=324)	97,069(n=247)	69,115(n=53)	43,954(n=20)	13,000(n=4)
文化芸術活動 平均(n=595)	91,197	35,144	72,567	48,618
300万円未満(n=180)	62,541(n=101)	29,318(n=40)	25,825(n=31)	15,800(n=8)
300～599万円(n=126)	75,133(n=86)	42,341(n=22)	24,436(n=14)	37,500(n=4)
600万円以上(n=170)	97,847(n=133)	33,286(n=21)	90,143(n=14)	54,000(n=2)

※各体験活動に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した体験活動に、それぞれ年間どれくらいの費用がかかりましたか。一つの分野につき複数選択した場合は、合計してお答えください。」と「スポーツ・運動」「文化芸術活動」それぞれについて質問した結果。運営主体は最も参加頻度が多いものを回答しているのに対し、年間費用は参加した全ての活動の合計を回答しているため、あくまで参考数値。
 ※平均は厚生労働省「国民生活基礎調査2021」の世帯年収割合でウェイトバックして算出。

② 単発で行う体験活動

- ✓ 単発で行う体験活動について、定期的な体験活動と同様、「民間（企業・NPO・個人）が経営する団体」が最も高額となった。

運営主体別の平均年間費用（単発で行う体験活動）

単位：円

	民間（企業・NPO・個人）が経営する団体	地域や保護者のボランティアが行っている団体	自治体・公的機関	団体以外（保護者等が引率、個人・友人同士での活動）	その他
自然体験 平均(n=755)	36,529	13,665	10,823	33,697	21,811
300万円未満(n=237)	24,870(n=73)	6,727(n=33)	15,181(n=32)	14,745(n=86)	14,385(n=13)
300～599万円(n=161)	21,011(n=55)	10,058(n=31)	11,615(n=16)	12,018(n=56)	13,667(n=3)
600万円以上(n=215)	42,069(n=77)	15,217(n=27)	10,304(n=23)	41,603(n=83)	24,800(n=5)
社会体験 平均(n=250)	12,926	10,153	4,820	6,900	N/A
300万円未満(n=105)	16,875(n=32)	4,500(n=19)	5,333(n=24)	6,227(n=22)	375(n=8)
300～599万円(n=53)	17,250(n=12)	2,833(n=18)	4,000(n=11)	7,083(n=12)	N/A
600万円以上(n=70)	11,235(n=30)	12,929(n=14)	5,033(n=15)	6,900(n=10)	20,000(n=1)
文化的体験 平均(n=1178)	22,869	10,632	9,774	19,499	17,818
300万円未満(n=459)	13,092(n=141)	6,734(n=83)	10,132(n=91)	14,339(n=127)	14,606(n=17)
300～599万円(n=283)	19,958(n=95)	12,571(n=49)	9,185(n=56)	16,105(n=81)	0(n=2)
600万円以上(n=317)	24,748(n=119)	10,236(n=49)	9,963(n=54)	21,178(n=89)	24,667(n=6)

※各体験活動に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した活動に、それぞれ年間どれくらいの費用がかかりましたか。一つ分野につき複数選択した場合は、合計してお答えください。」と自然体験、社会体験、文化的体験それぞれについて質問した結果。運営主体は最も参加頻度が多いものを回答しているのに対し、年間費用は参加した全ての活動の合計を回答しているため、あくまで参考数値。

※平均は厚生労働省「国民生活基礎調査2021」の世帯年収割合でウェイトバックして算出。

※「N/A」としている箇所は、世帯年収300～599万円の家庭で社会体験（その他主催）に参加した子どもがいる家庭がなく、算出ができなかった。

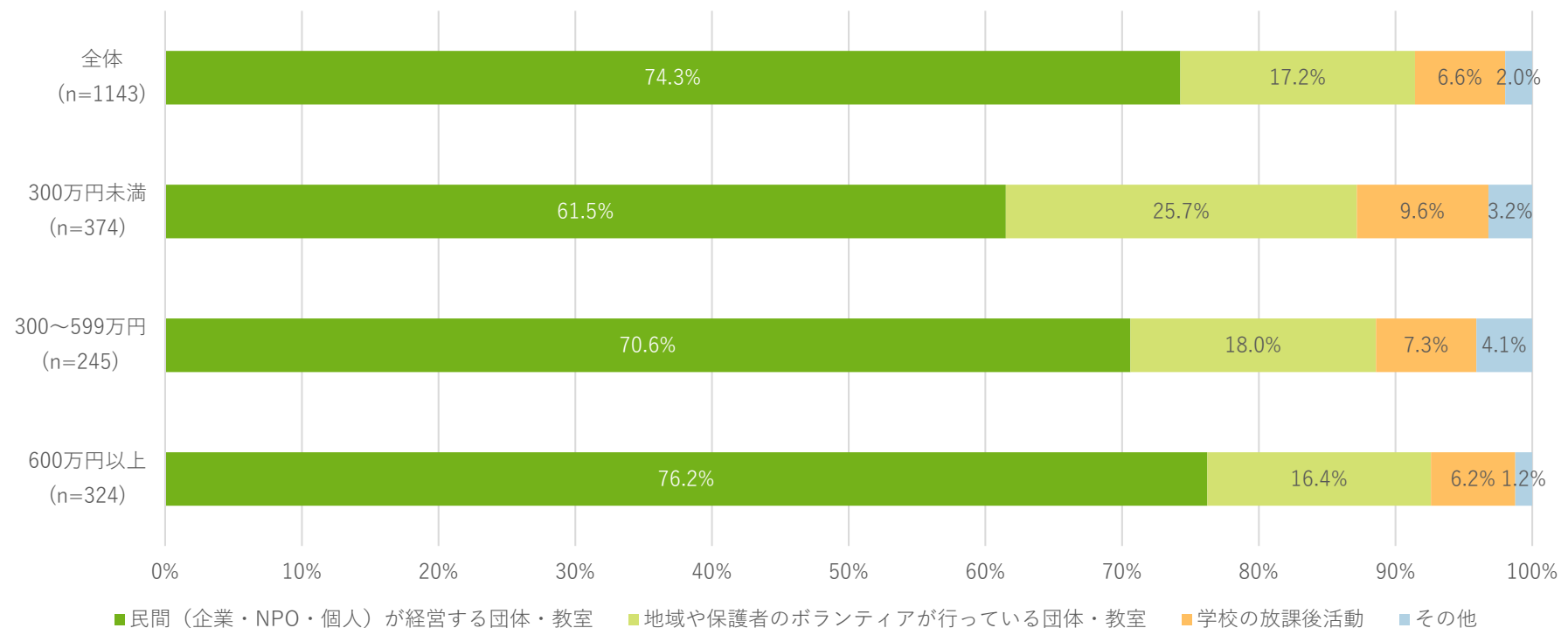
3-4. 多様な体験の担い手

(3) 各運営主体への参加状況（家庭背景別）

① 世帯年収（スポーツ・運動）

- ✓ 世帯年収300万円未満で「スポーツ・運動」に参加している家庭は、世帯年収600万円以上の家庭と比べて、「民間（企業・NPO・個人）が経営する団体・教室」に参加している割合が低く、「地域や保護者のボランティアが行っている団体・教室」に参加している割合が高い。

「スポーツ・運動」の運営主体（世帯年収別）



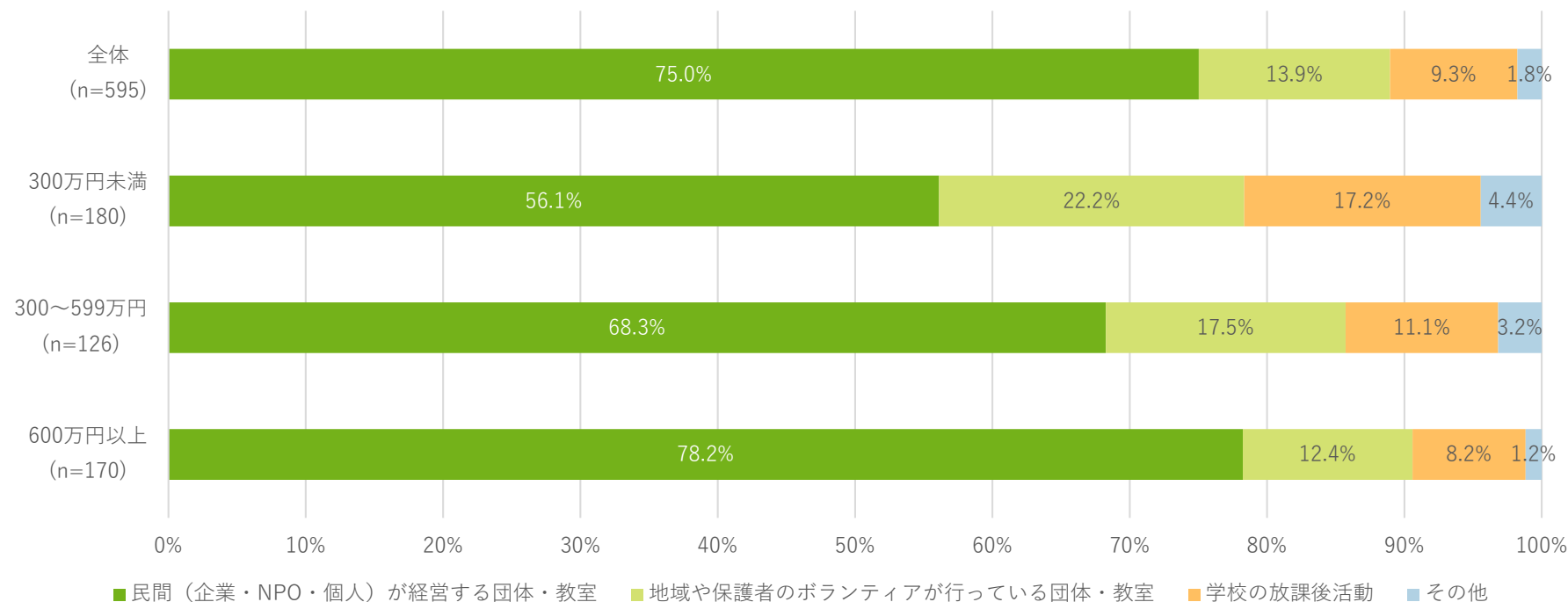
※「スポーツ・運動」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した体験活動について、お子様は、どのような団体や教室に所属して、活動を行っていますか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

※「全体」は厚生労働省「国民生活基礎調査2021」を元に、世帯年収割合でウェイトバックを実施した数値。このため、各世帯年収区分のサンプル数（n）を足しても「全体」とは一致しない。

① 世帯年収（文化芸術活動）

- ✓ 世帯年収300万円未満で「文化芸術活動」に参加している家庭では、世帯年収600万円以上の家庭と比較して、「民間（企業・NPO・個人）が経営する団体・教室」に参加している割合が低く、「地域や保護者のボランティアが行っている団体・教室」および「学校の放課後活動」に参加している割合が高い。

「文化芸術活動」の運営主体（世帯年収別）

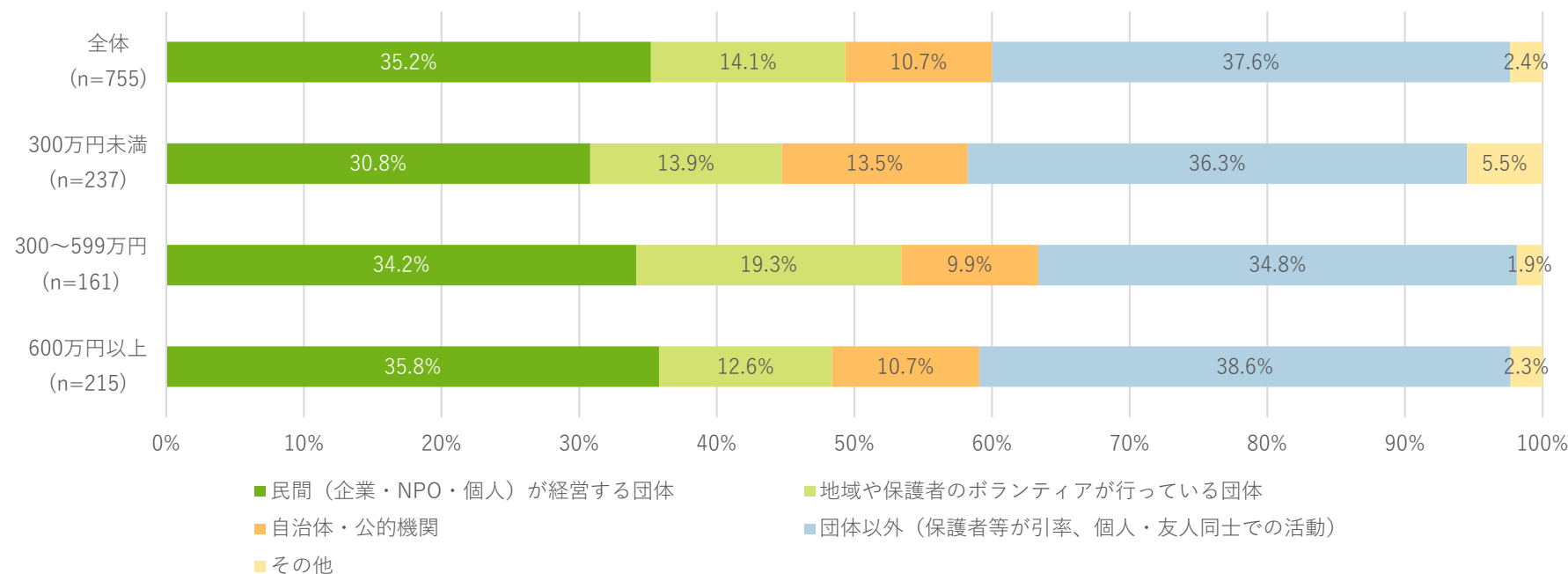


※「文化芸術活動」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した体験活動について、お子様は、どのような団体や教室に所属して、活動を行っていますか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。
※「全体」は厚生労働省「国民生活基礎調査2021」を元に、世帯年収割合でウェイトバックを実施した数値。このため、各世帯年収区分のサンプル数（n）を足しても「全体」とは一致しない。

① 世帯年収（自然体験）

- ✓ 「自然体験」の運営主体は、「団体以外（保護者等が引率、個人・友人同士での活動）」（37.6%）が最多となっている。
- ✓ 世帯年収300万円未満で「自然体験」に参加している家庭では、世帯年収600万円以上の家庭と比較して、「民間（企業・NPO・個人）が経営する団体」に参加している割合が低い。

「自然体験」の運営主体（世帯年収別）



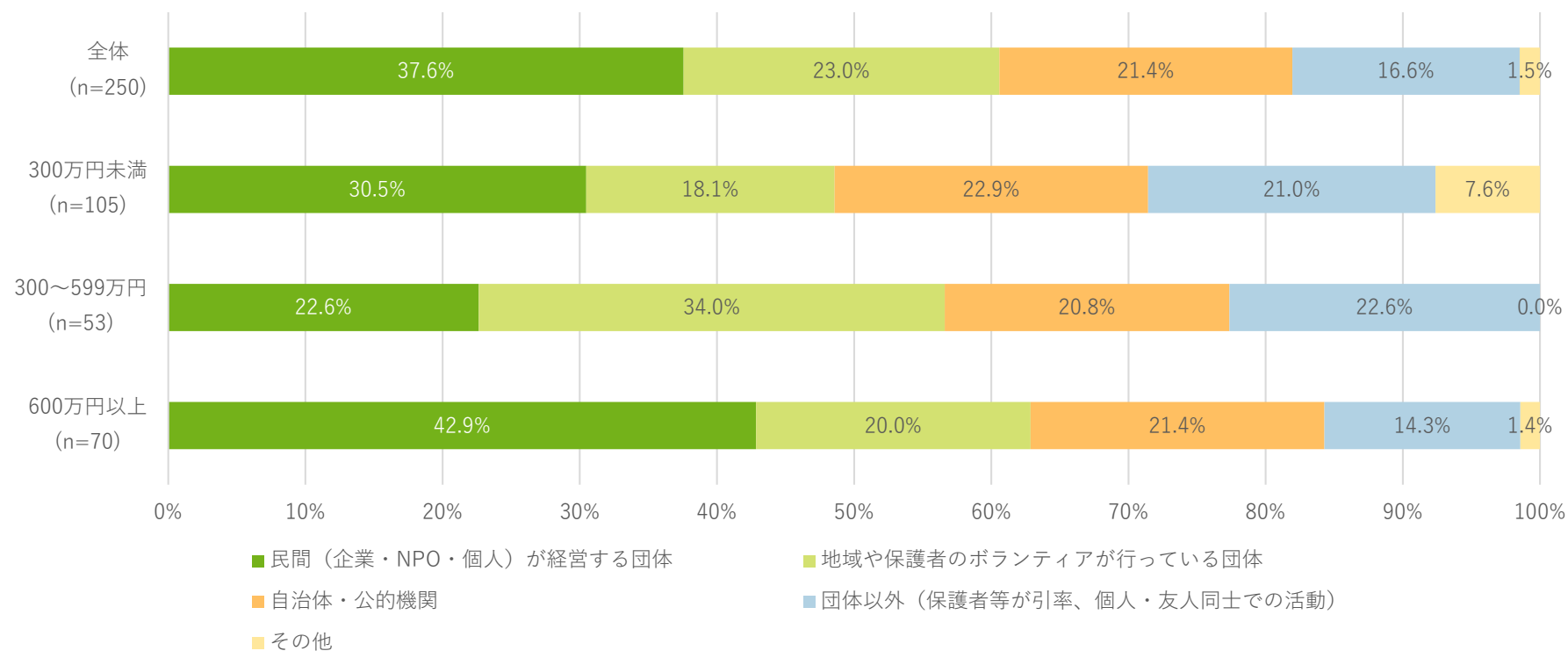
※「自然体験」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した活動は、それぞれどのような団体が主催する活動ですか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

※「全体」は厚生労働省「国民生活基礎調査2021」を元に、世帯年収割合でウェイトバックを実施した数値。このため、各世帯年収区分のサンプル数（n）を足しても「全体」とは一致しない。

① 世帯年収（社会体験）

- ✓ 社会体験については、社会全体として参加している子どもが少ないこともあり、世帯年収別で際立った傾向が見られなかった。

「社会体験」の運営主体（世帯年収別）



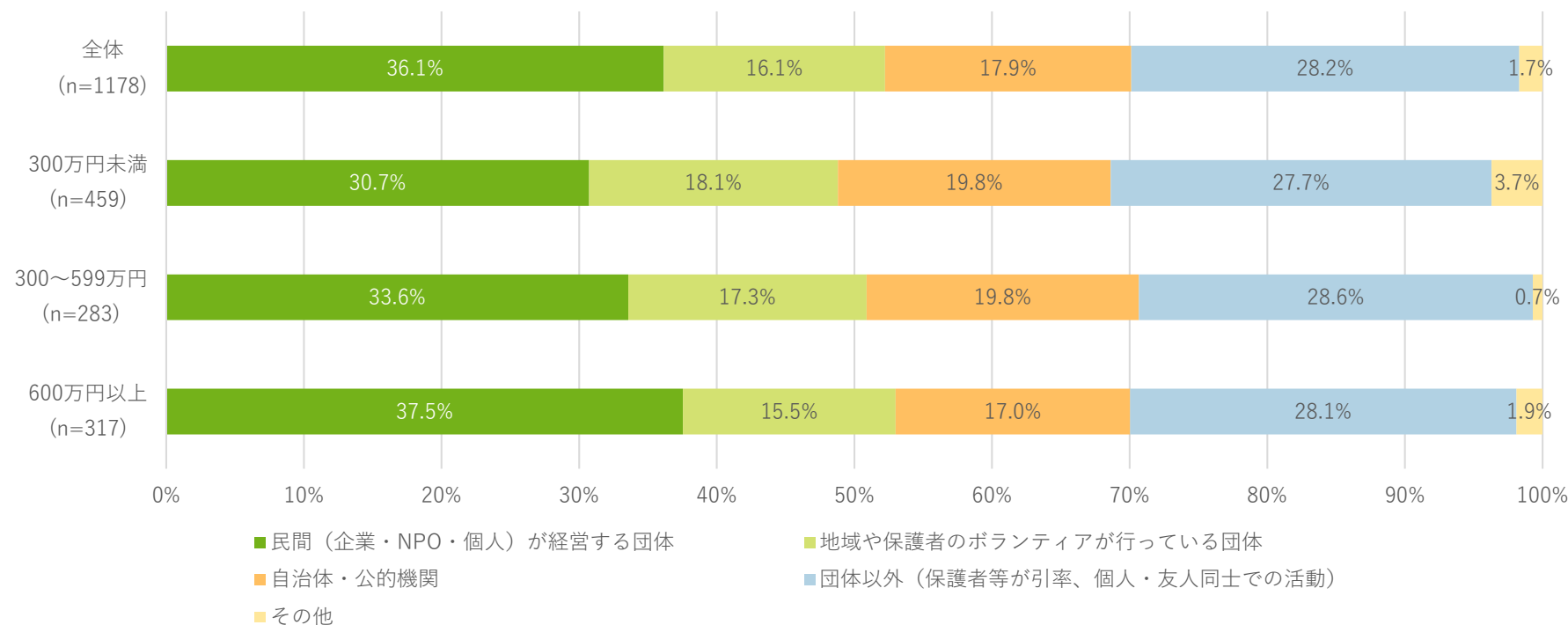
※「社会体験」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した活動は、それぞれどのような団体が主催する活動ですか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

※「全体」は厚生労働省「国民生活基礎調査2021」を元に、世帯年収割合でウェイトバックを実施した数値。このため、各世帯年収区分のサンプル数（n）を足しても「全体」とは一致しない。

① 世帯年収（文化的体験）

- ✓ 世帯年収300万円未満で「文化的体験」に参加している家庭では、世帯年収600万円以上の家庭と比較して、「民間（企業・NPO・個人）が経営する団体」に参加している割合が6.8ポイント低い。

「文化的体験」の運営主体（世帯年収別）



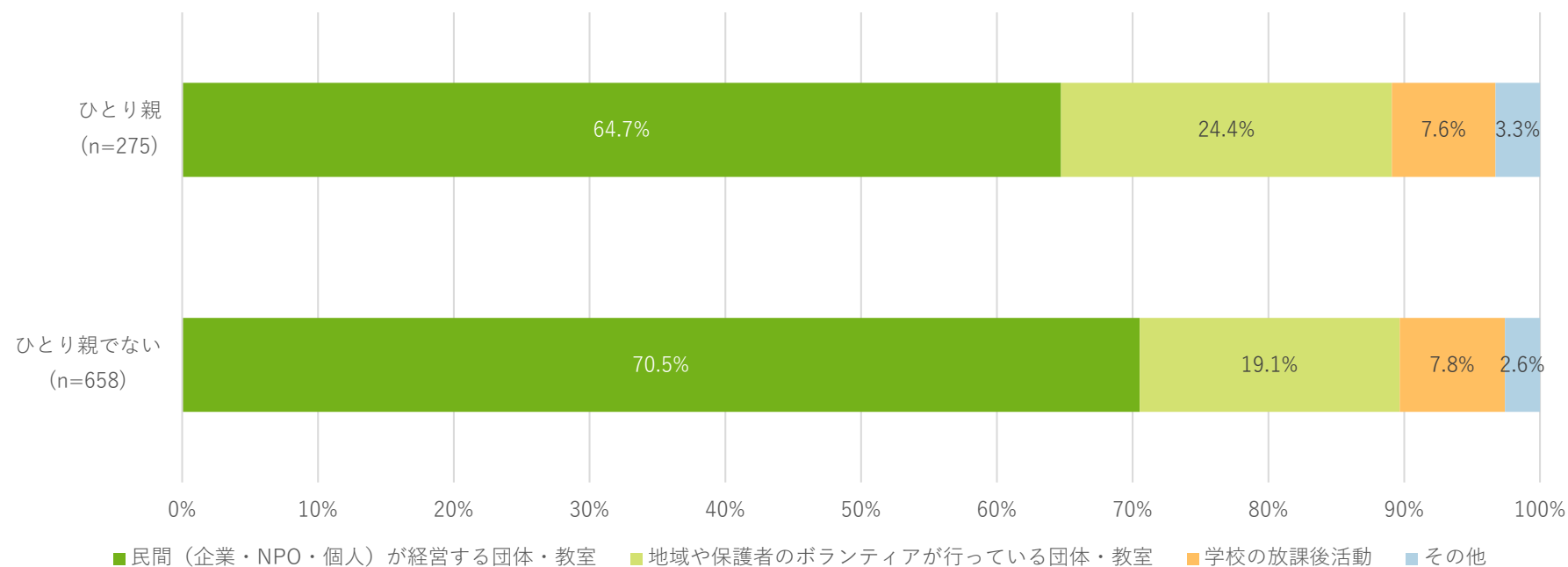
※「文化的体験」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した活動は、それぞれどのような団体が主催する活動ですか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

※「全体」は厚生労働省「国民生活基礎調査2021」を元に、世帯年収割合でウェイトバックを実施した数値。このため、各世帯年収区分のサンプル数（n）を足しても「全体」とは一致しない。

② ひとり親家庭（スポーツ・運動）

- ✓ ひとり親家庭は、ひとり親でない家庭と比べて、「民間（企業・NPO・個人）が経営する団体・教室」に参加している子どもの割合が低く、「地域や保護者のボランティアが行っている団体・教室」に参加している子どもの割合が高い。

「スポーツ・運動」の運営主体（ひとり親家庭）



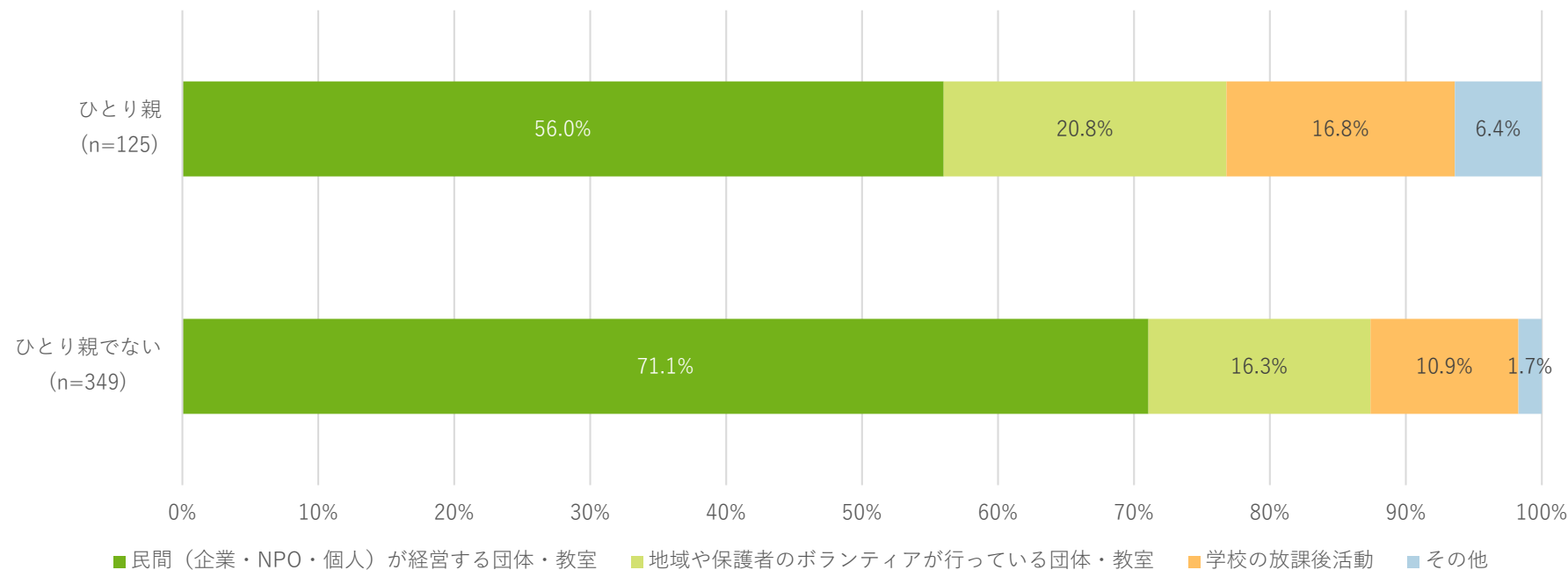
※「スポーツ・運動」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した体験活動について、お子様は、どのような団体や教室に所属して、活動を行っていますか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

※祖父母が養育している等、子どもの母親と父親がいずれもないと回答した21名については、集計から省いている。

② ひとり親家庭（文化芸術活動）

- ✓ ひとり親家庭は、ひとり親でない家庭と比べて、「民間（企業・NPO・個人）が経営する団体・教室」に参加している子どもの割合が低く、「地域や保護者のボランティアが行っている団体・教室」および「学校の放課後活動」に参加している子どもの割合が高い。

「文化芸術活動」の運営主体（ひとり親家庭）



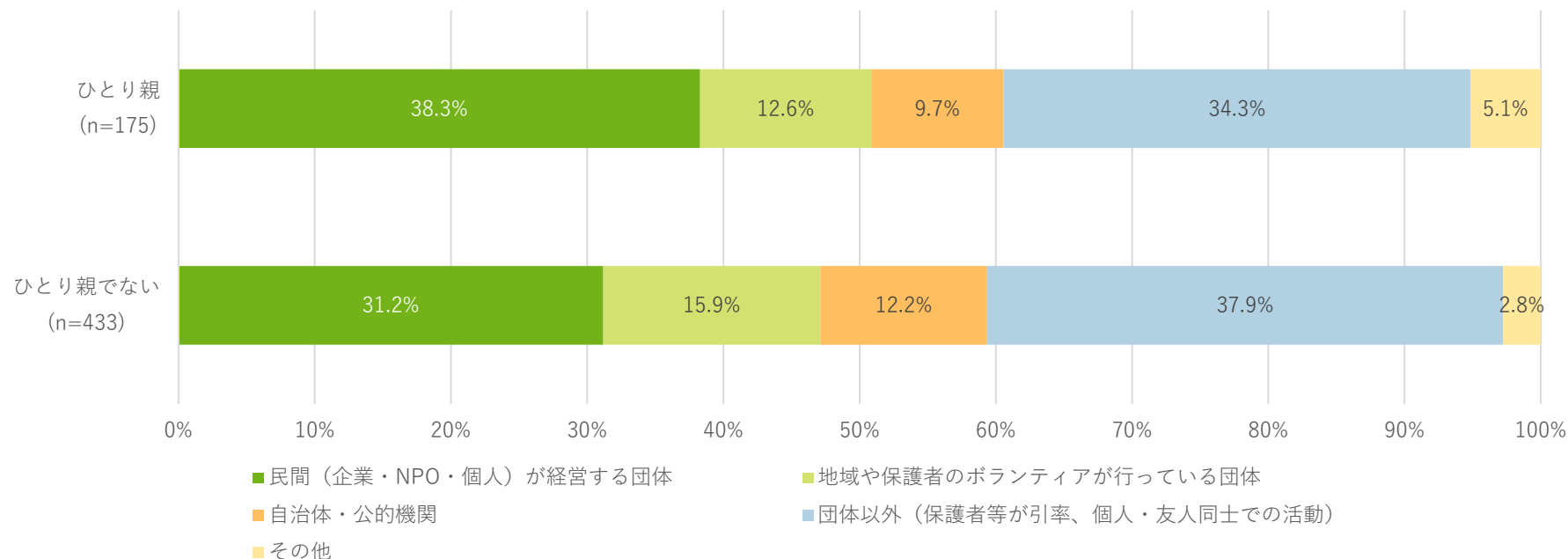
※「文化芸術活動」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した体験活動について、お子様は、どのような団体や教室に所属して、活動を行っていますか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

※祖父母が養育している等、子どもの母親と父親がいずれもないと回答した21名については、集計から省いている。

② ひとり親家庭（自然体験）

- ✓ 前述の定期的な体験活動と異なり、ひとり親家庭で「自然体験」に参加している家庭は、ひとり親でない家庭と比較して、「民間（企業・NPO・個人）が経営する団体」に参加している子どもの割合が高く、「地域や保護者のボランティアが行っている団体」「自治体・公的機関」「団体以外（保護者等が引率、個人・友人同士での活動）」に参加している子どもの割合がやや低かった。

「自然体験」の運営主体（ひとり親家庭）

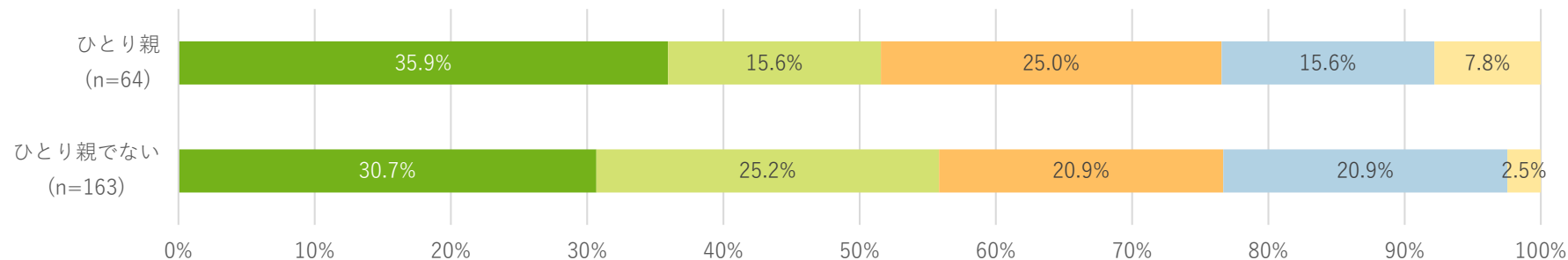


※「自然体験」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した活動は、それぞれどのような団体が主催する活動ですか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

※祖父母が養育している等、子どもの母親と父親がいずれもないと回答した21名については、集計から省いている。

② ひとり親家庭（社会体験、文化的体験）

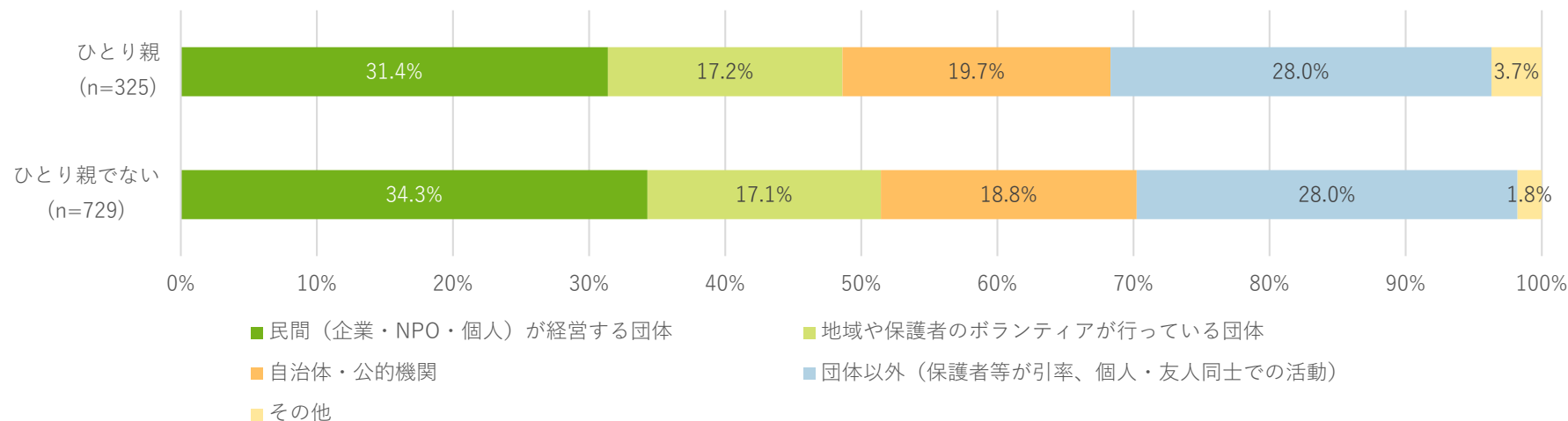
「社会体験」の運営主体（ひとり親家庭）



※「社会体験」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した活動は、それぞれどのような団体が主催する活動ですか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

※祖父母が養育している等、子どもの母親と父親がいずれもいないと回答した21名については、集計から省いている。

「文化的体験」の運営主体（ひとり親家庭）



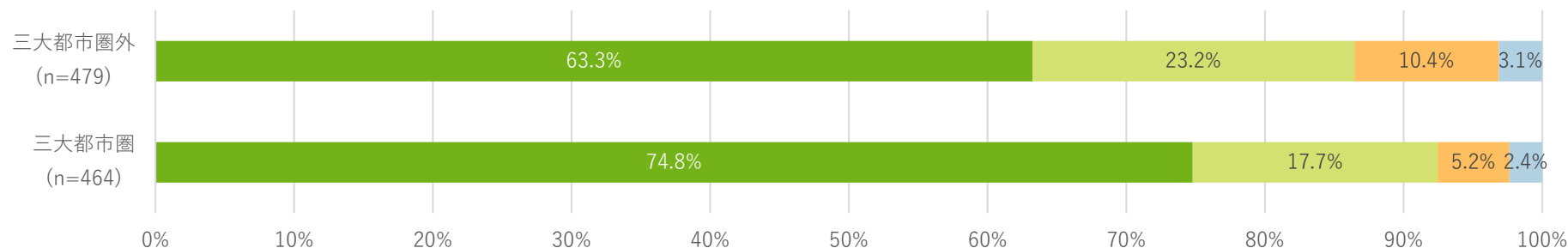
※「文化的体験」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した活動は、それぞれどのような団体が主催する活動ですか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

※祖父母が養育している等、子どもの母親と父親がいずれもいないと回答した21名については、集計から省いている。

③ 居住地域（スポーツ・運動、文化芸術活動）

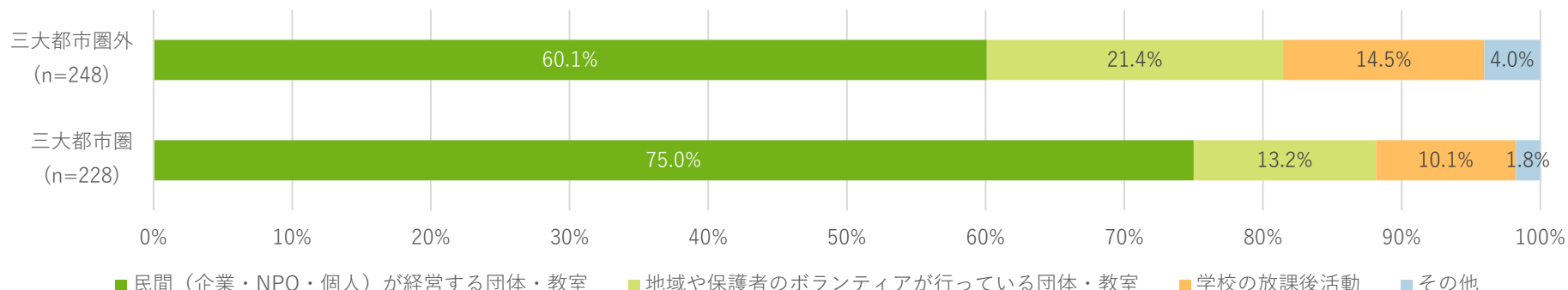
- ✓ 三大都市圏外に居住する家庭の方が、「民間（企業・NPO・個人）が経営する団体・教室」に参加している子どもの割合が低く、「地域や保護者のボランティアが行っている団体・教室」および「学校の放課後活動」に参加している子どもの割合が高い。

「スポーツ・運動」の運営主体（居住地域別）



※「スポーツ・運動」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した体験活動について、お子様は、どのような団体や教室に所属して、活動を行っていますか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

「文化芸術活動」の運営主体（居住地域別）

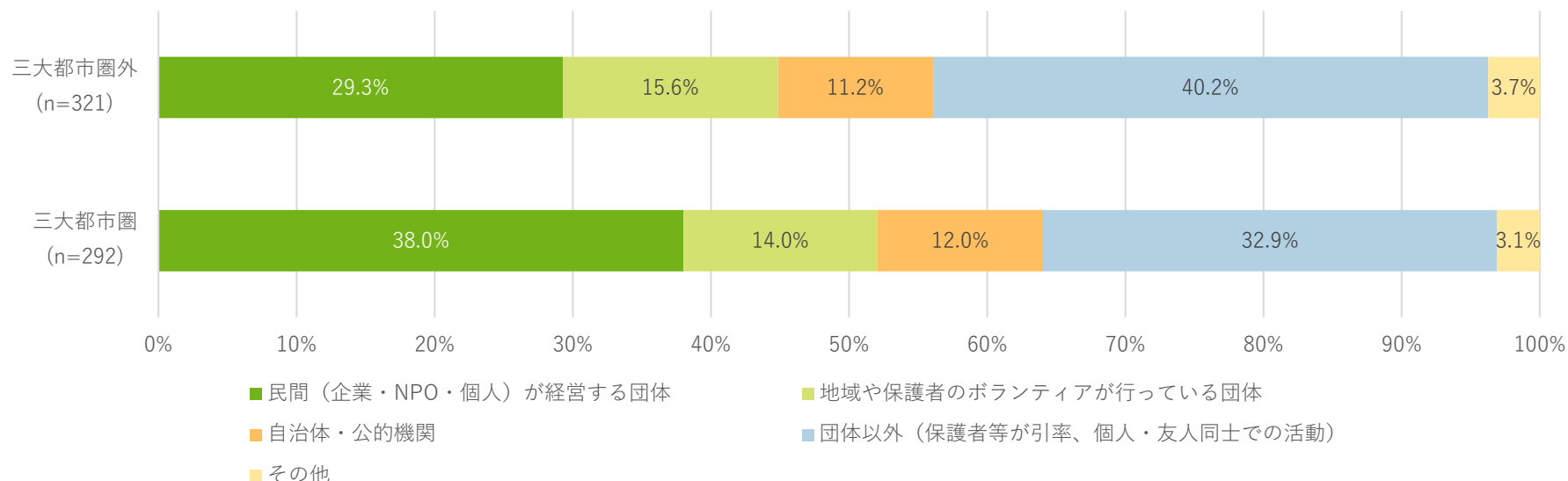


※「文化芸術活動」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した体験活動について、お子様は、どのような団体や教室に所属して、活動を行っていますか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

③ 居住地域（自然体験）

- ✓ 三大都市圏外に居住し、「自然体験」に参加した家庭は、三大都市圏に居住する家庭と比較して、「民間（企業・NPO・個人）が経営する団体」に参加している割合が低く、「団体以外（保護者等が引率、個人・友人同士での活動）」に参加している割合が最多となった。

「自然体験」の運営主体（居住地域別）

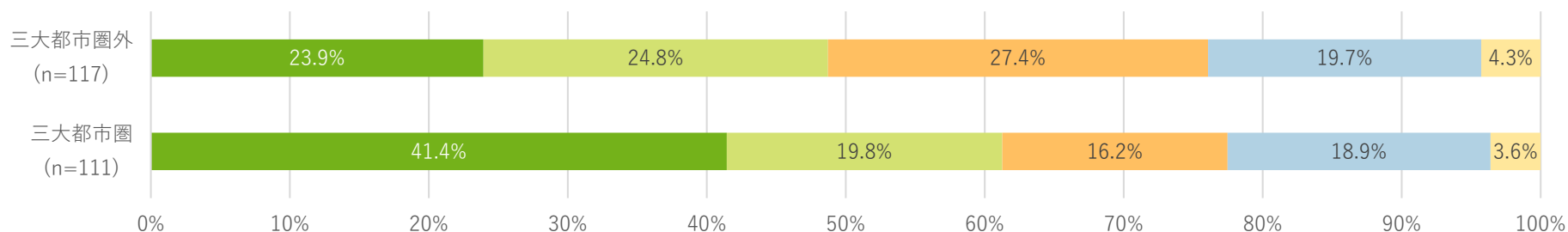


※「自然体験」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した活動は、それぞれどのような団体が主催する活動ですか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

③ 居住地域（社会体験、文化的体験）

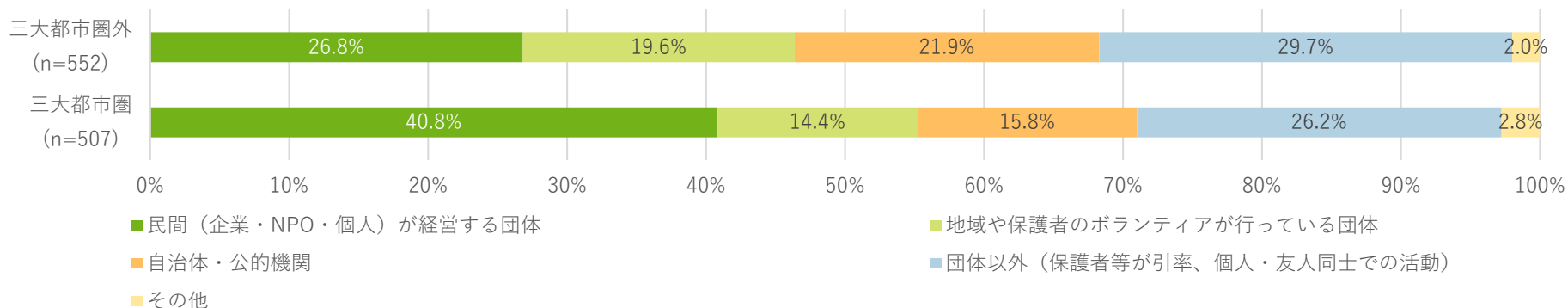
- ✓ 三大都市圏外に居住し、「社会体験」「文化的体験」に参加した家庭は、三大都市圏に居住する家庭と比較して、「民間（企業・NPO・個人）が経営する団体」に参加している子どもの割合が15ポイント前後低く、「地域や保護者のボランティアが行っている団体」および「自治体・公的機関」に参加している子どもの割合が高い。

「社会体験」の運営主体（居住地域別）



※「社会体験」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した活動は、それぞれどのような団体が主催する活動ですか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

「文化的体験」の運営主体（居住地域別）

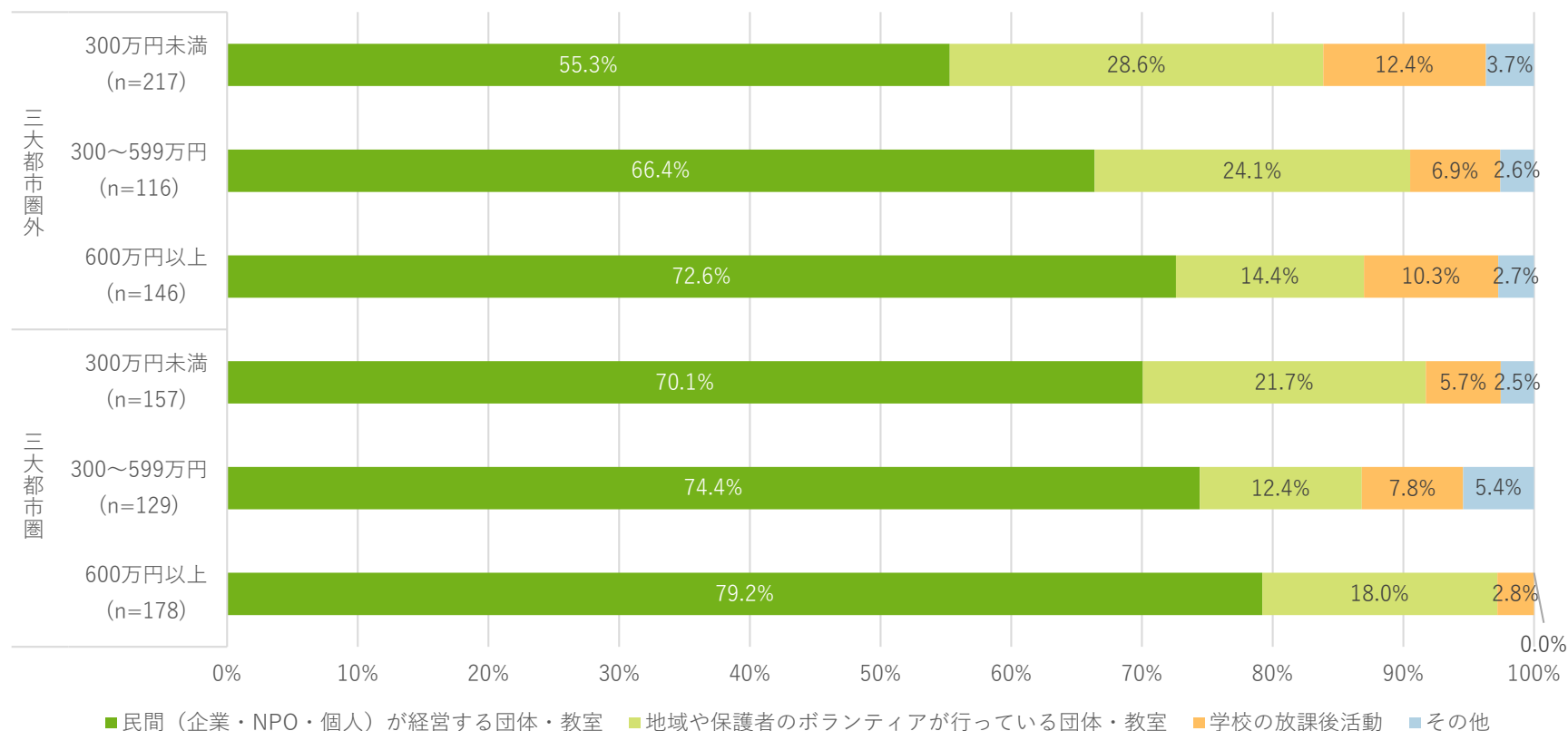


※「文化的体験」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した活動は、それぞれどのような団体が主催する活動ですか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

④ 居住地域と世帯年収（スポーツ・運動）

- ✓ 居住地域にかかわらず、「地域や保護者のボランティアが行っている団体・教室」に参加している子どもの割合は、世帯年収300万円未満の家庭において高い。

「スポーツ・運動」の運営主体（居住地域・世帯年収別）

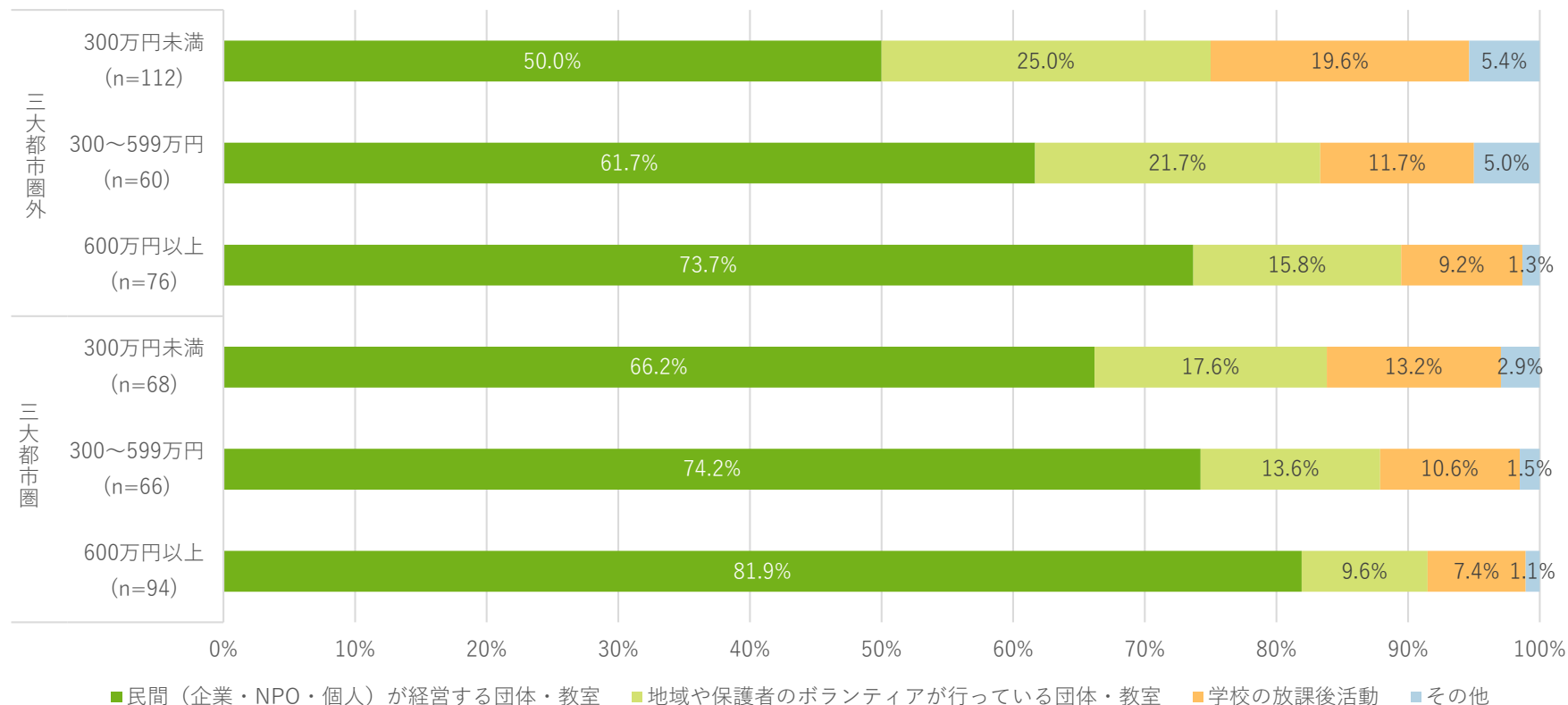


※「スポーツ・運動」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した体験活動について、お子様は、どのような団体や教室に所属して、活動を行っていますか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

④ 居住地域と世帯年収（文化芸術活動）

- ✓ 居住地域にかかわらず、「地域や保護者のボランティアが行っている団体・教室」に参加している子どもの割合は、世帯年収300万円未満の家庭において高い。

「文化芸術活動」の運営主体（居住地域・世帯年収別）

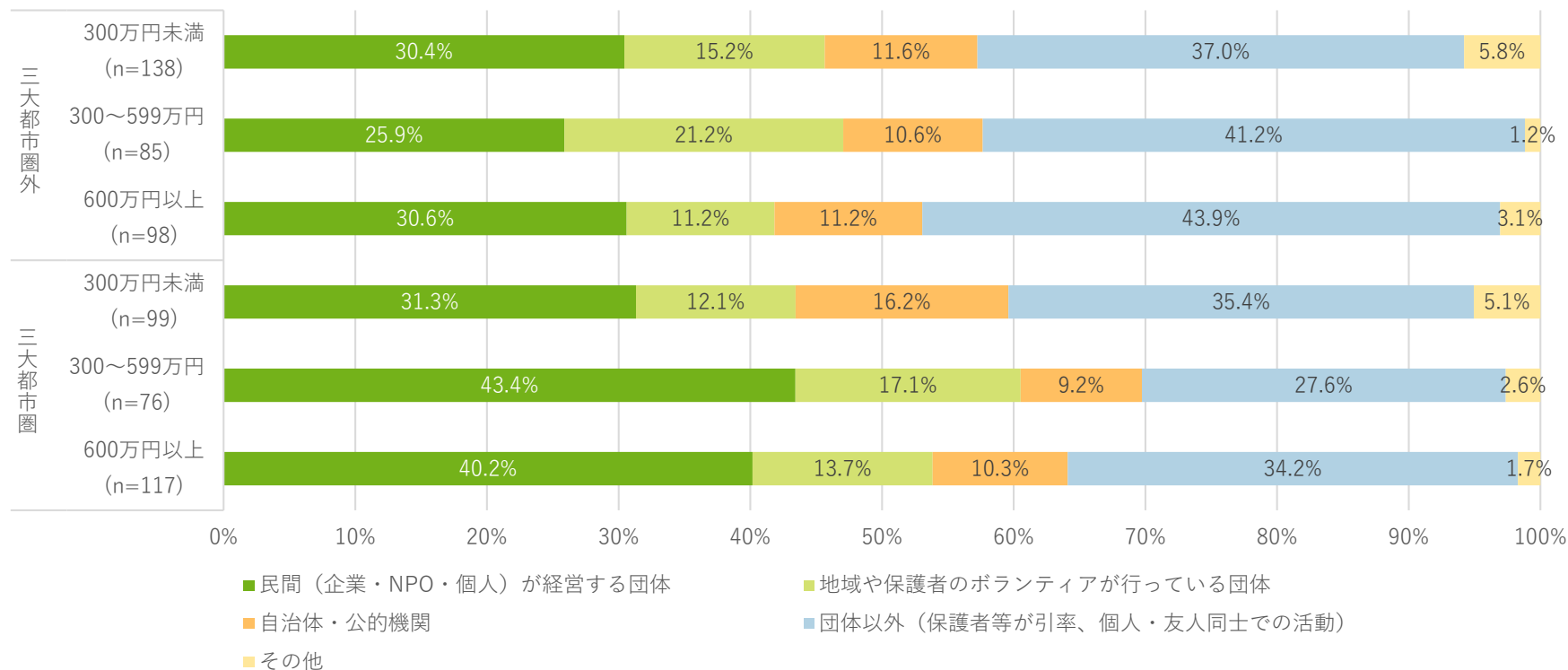


※「文化芸術活動」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した体験活動について、お子様は、どのような団体や教室に所属して、活動を行っていますか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

④ 居住地域と世帯年収（自然体験）

- ✓ 前述した定期的な体験活動と異なり、世帯年収300万円未満で「自然体験」に参加している家庭は、世帯年収600万円以上の家庭と比較して、「地域や保護者のボランティアが行っている団体」に参加している子どもの割合は、一概に高くない。

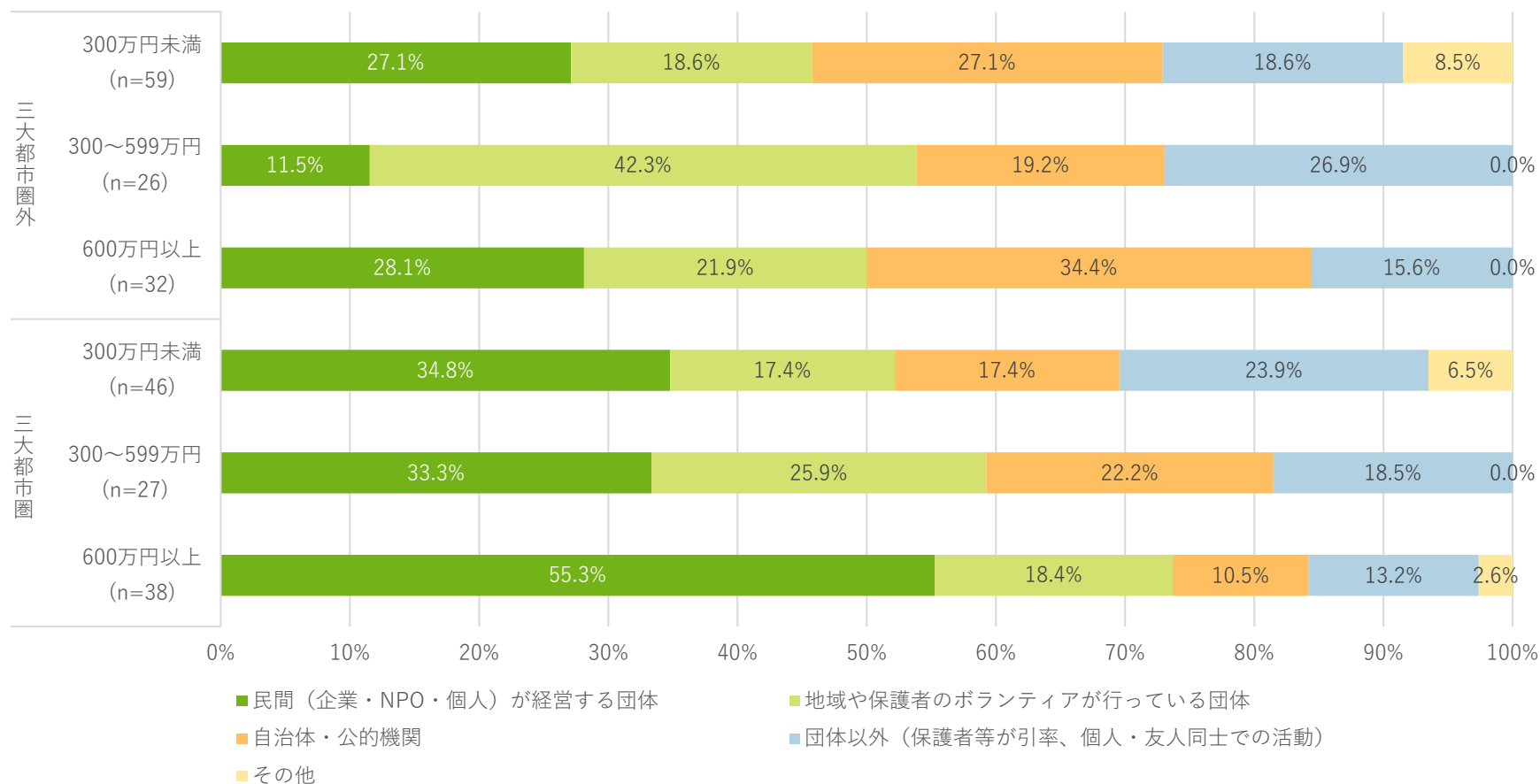
「自然体験」の運営主体（居住地域・世帯年収別）



※「自然体験」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した活動は、それぞれどのような団体が主催する活動ですか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

④ 居住地域と世帯年収（社会体験）

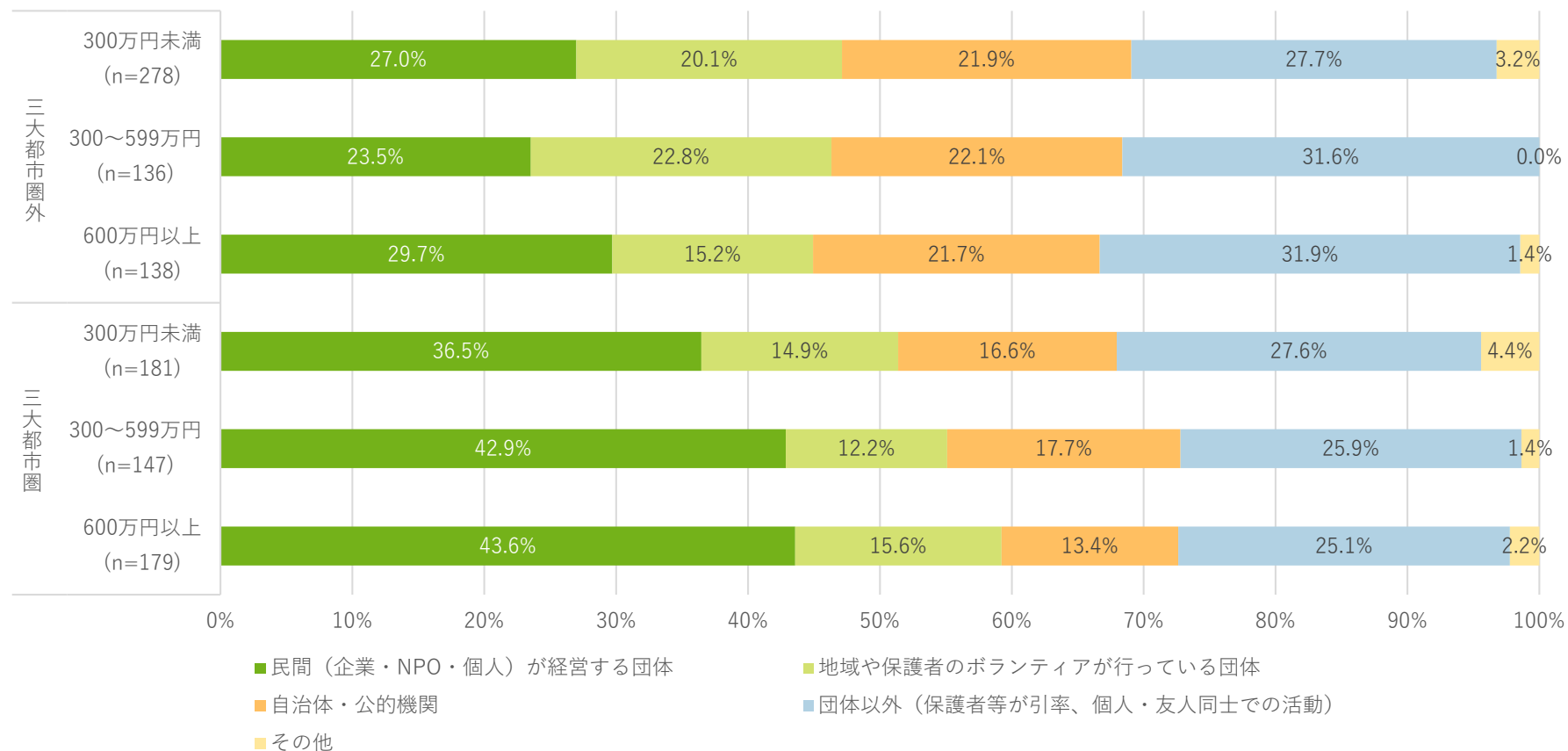
「社会体験」の運営主体（居住地域・世帯年収別）



※「社会体験」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した活動は、それぞれどのような団体が主催する活動ですか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

④ 居住地域と世帯年収（文化的体験）

「文化的体験」の運営主体（居住地域・世帯年収別）



※「文化的体験」に参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した活動は、それぞれどのような団体が主催する活動ですか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果。

3-5. 保護者から寄せられた声

子どもがやりたい体験をさせてあげられなかった経験（自由記述欄）

(1) 経済的に厳しい家庭の声

やりたいと言われても、どれも、経済的に無理なので、子供自身が、無理だよなって、何も言わなくなりました。だんだんわかる年齢になり、子供なりに我慢しているようで、申し訳なく思っています。

愛媛県／小学4年生保護者(40代女性)

母子家庭のため、周りの友達と同じように色々な習い事をさせてあげることができず悔しい。スイミング、ダンス、英会話、ピアノ、したいことをたくさんさせてあげたかった。

新潟県／小学2年生保護者(20代女性)

イベントへの参加や旅行など、家庭の経済的な理由から、無理な事が今までにも今も、多々あります。

愛媛県／小学3年生保護者(40代女性)

シングルマザーなので何をするにもお金が無くて経験させてあげれない…。本当は色々経験させたい。

兵庫県／小学1年生保護者(40代女性)

ピアノをやりたがっていたが、経済的な部分で出来なかった。旅行や日帰りでの水族館等へのお出かけもコロナが心配で行けなかった。

山梨県／小学4年生保護者(40代女性)

ピアノ教室、絵画教室に行かせたい。でも、ランニングコストがかかるので、行かせてあげられない。

東京都／小学4年生保護者(40代女性)

野球チームに入らせてあげたいがひとり親の為経済的に余裕がなく道具やユニフォームが用意してあげられなかった

神奈川県／小学4年生保護者(50代女性)

離婚した。幼稚園の頃から習っていたピアノをやめざるをえなくなった。やりたがっていたギターも金銭的に厳しい。

愛知県／小学6年生保護者(40代女性)

魚釣りをやりたがっていますが、私に知識・経験がないため、また金銭的余裕もないためさせてあげられていません。

熊本県／小学1年生保護者(40代女性)

サッカーをしたがりましたが私が経済的にも体力的にも無理でさせてあげられませんでした

宮崎県／小学4年生保護者(30代女性)

スポーツのクラブに通わせてあげたかった。いろいろな自然体験をさせてあげたかった。けど金銭的に全く余裕がなく生活するだけで精一杯です。

静岡県／小学6年生保護者(40代女性)

子供の将来の夢は保育士だったのですが、ピアノを習わせることができなかった。また兄弟はスイミングに通っていたのでかなり泳げるのだが、転居と転職のため経済的悪化となり小学生の子供はスイミングに通わせることはできなかった。

山口県／小学4年生保護者(40代女性)

※いずれも、世帯年収300万円未満の家庭の声。

(1) 経済的に厳しい家庭の声

お金がなくて旅費がかかる事が全くできない

新潟県／小学3年生保護者(40代女性)

プログラミング教室に行きたいと言ったが、月謝が高額だったのでウヤムヤにして諦めさせた。心苦しかったです。

愛知県／小学4年生保護者(40代女性)

自然の雪との戯れを体験させてあげたかったが、時間とお金の余裕が無かった。

兵庫県／小学1年生保護者(40代女性)

夏に海のキャンプに参加したいと言っていたけど、経済的にも私の体力的にも 厳しかった。

大阪府／小学4年生保護者(40代女性)

学校などで色々な体験のチラシをもらってくるのですが、やはり金額がかかるものが大半なので、参加はさせてあげられないです。

岐阜県／小学5年生保護者(40代女性)

いろんな体験させてあげたいけど母子家庭は費用面で辛い。

青森県／小学6年生保護者(30代女性)

友達が行っているから、という理由でスイミングに行きたいと言っていたが、入会金や月謝が高額で行かせてあげられなかった。

熊本県／小学1年生保護者(30代女性)

スポーツ系は保護者の当番が必要だがそんな時間は仕事なので当番も送り迎えも出来ない。ひとり親なので仕事をしなければお金が入らない。ひとり親家庭は金銭的にも時間的にも全く何もさせられない。

鳥取県／小学4年生保護者(40代女性)

海やプールに行ったり、釣り、キャンプ、スキー等経験させてあげられなかった。家庭状況、経済面等が理由で。

兵庫県／小学5年生保護者(30代女性)

ダンスをずっと習いたいと言っていたが、経済的に厳しかった

大阪府／小学4年生保護者(30代女性)

ダンス、ピアノなどいろいろやりたがっていたけど、月謝が高く経済的理由でやらせてあげられなかった。

広島県／小学6年生保護者(30代女性)

ピアノを習いたいと言っていたが、月謝が高くて払えそうもなく、諦めた

北海道／小学6年生保護者(30代女性)

※いずれも、世帯年収300万円未満の家庭の声。

(2) 物価高騰とコロナの影響

スポーツの習い事は収入減のために退会 自然体験や文化的体験はコロナで収入減や外出できないでいる

埼玉県／小学5年生保護者(40代女性)

海水浴や旅行に行きたがっていたが、コロナ感染で仕事を休む日があったり、休暇もとりにづらく、経済的にも余裕がなかった。

大阪府／小学4年生保護者(40代女性)

旅行に連れて行きたいが、父親がコロナ離職で金銭的に厳しい

千葉県／小学6年生保護者(60代男性)

生活に余裕が無い。物価上昇に追いつけない。送迎が出来ない。

山形県／小学5年生保護者(40代男性)

スキー教室や、サマーキャンプは金銭的余裕がなく行けなくなった。地域の科学館などのイベントも減った。

東京都／小学4年生保護者(40代女性)

ピアノは練習用のピアノ等を狭くて置けないのでやらせてあげられなかった。美術館に行きたいと言っていた時があったが、コロナ真っ只中で連れて行ってあげられなかった。

東京都／小学5年生保護者(30代女性)

スイミングスクールや旅行に行きたいと言っていたが、コロナ禍とその後の値上げで行けていない

東京都／小学1年生保護者(30代男性)*

キャンプ。やりたい時期にコロナで本人のやりたい期間を過ぎてしまった。

神奈川県／小学3年生保護者(30代女性)

コロナで安価な地域のイベントが無くなってしまった。

埼玉県／小学2年生保護者(40代女性)*

夏休みのキャンプ体験をさせてあげたかったが、付き添いが出来ずに断念した。スイミングスクールを続けさせたかったが、月謝が値上がりして辞めざるおえなくなった。

東京都／小学4年生保護者(40代女性)*

※「*」は世帯年収300万円～599万円の家庭の声。それ以外は世帯年収300万円未満の家庭の声。

(3) その他の声

疾病や障がい、就労環境等に関する声、体験の担い手に対するニーズ等についても多く声が寄せられた。

※今回のアンケート調査では、保護者全員分の就労形態のデータを取得していないため、就労形態については分析の対象外としている。

父親が障害者なので、付き添い送迎や金銭的にも無理なことが、学校以外での体験学問は無理がある。

山形県／小学5年生保護者(40代男性)

今の時代、ほとんどの行事に保護者同伴だから… 母子家庭なので母が仕事を休むわけには…です

大阪府／小学6年生保護者(40代女性)

倶楽部活動(は)、経済的、時間的(に)、(無理)なのと 自分が病氣療養中のため、そちらが優先してしまうため

山形県／小学6年生保護者(50代男性)

スポ少でサッカーをやりたいが、私がフルタイムで仕事をしているので当番などができないと思い断念した。

福島県／小学5年生保護者(30代女性)

水泳やダンス、自然体験、文化的体験をしたいということがあがるが、経済的、家族の病氣によってすることができない

佐賀県／小学1年生保護者(30代女性)

スイミングスクールの様に送迎があると、もっと子供にいろんな体験をさせてあげられると思う。現状では、ひとり親や働かざるを得ない家庭にとっては子供の成長を促すための習い事をさせてあげることも難しい。

徳島県／小学5年生保護者(40代女性)

キッズダンスを習いたいと言われたが、障がいのある子を指導したことがないからと断られた。

北海道／小学2年生保護者(30代女性)*

プログラミングや工作などの体験会を、親が土日休みではないので、参加させてあげられなかった。

山梨県／小学2年生保護者(40代女性)*

うちの子は若干の発達障害がありますが、親が同行しない体験などは参加させて良いのかどうか判断ができないので参加させたことがありません。そのような部分をサポートしてくれる人員や制度などがある、またそれが情報として手に入りやすくしてくれるようなサポートが欲しい。

東京都／小学2年生保護者(40代女性)

市のホームページや広報誌にどんな活動をどこでやっているかを載せてほしい。個人でやっているものはほとんど情報が出てこず、近所付き合いやママ友がいない人からすると手段がなくて困ってしまう。

栃木県／小学4年生保護者(30代女性)*

※「*」は世帯年収300万円～599万円の家庭の声。それ以外は世帯年収300万円未満の家庭の声。

コラム

多変量解析の結果

提供：喜多下悠貴氏（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

- ✓ 三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社の喜多下悠貴氏により、子どもの体験活動への年間支出額を被説明変数として重回帰分析を実施した。なお、社会体験は参加者数が少ないため、分析対象から除外している。また、「文化芸術活動」、「自然体験」、「文化的体験」については、決定係数が高くない点に留意されたい。
- ✓ 結果概要は以下の通り。
 - 「世帯年収」は、いずれの分野の年間支出額に対しても正の有意な効果があり、標準偏回帰係数も説明変数内で最も高い。
 - 「三大都市圏への居住」は「スポーツ・運動」への年間支出額に対して正の有意な効果があった。
 - 「子ども数（多子世帯であること）」は「単発で行う体験活動」への年間支出額に対して負の有意な効果があった。
 - 「保護者に大卒者がいないこと」が「スポーツ・運動」と「単発で行う文化的体験」への年間支出額に対して負の有意な効果があった。
 - 「保護者が小学生の頃に定期的な体験活動に参加していないこと」が「定期的な体験活動」への年間支出額に対して負の有意な効果があり、「保護者が小学生の頃に単発で行う体験活動に参加していないこと」が「単発で行う文化的体験」への年間支出額に対して負の有意な効果があった。

子どもの体験活動への年間支出額の規定要因に関する重回帰分析

被説明変数		体験活動への出費（定期）						体験活動への出費（単発）					
		スポーツ・運動			文化芸術活動			自然体験			文化的体験		
説明変数		偏回帰係数	標準 偏回帰係数	P値	偏回帰係数	標準 偏回帰係数	P値	偏回帰係数	標準 偏回帰係数	P値	偏回帰係数	標準 偏回帰係数	P値
世帯状況	世帯年収	33.024	0.163	**	18.157	0.100	**	13.841	0.134	**	6.465	0.099	**
	居住地域（三大都市圏ダミー）	11965.893	0.090	**	-2674.598	-0.022		2789.904	0.041		786.018	0.018	
	子ども数（多子世帯ダミー）	-2922.418	-0.020		-2528.373	-0.020		-3389.720	-0.046	*	-3038.512	-0.066	**
	ひとり親世帯ダミー	5602.732	0.039		-3470.989	-0.027		2031.764	0.028		948.703	0.021	
子ども	中学年ダミー	12858.199	0.091	**	-2253.253	-0.018		2464.994	0.034		1065.446	0.023	
	高学年ダミー	-2055.115	-0.015		206.087	0.002		997.122	0.015		-400.624	-0.009	
保護者	保護者学歴大卒者なしダミー	-10165.963	-0.076	**	-1974.509	-0.016		-1071.471	-0.016		-2571.000	-0.060	*
	保護者経験なしダミー（定期）	-14048.999	-0.100	**	-7944.325	-0.063	*	-3533.479	-0.049		-2006.135	-0.044	
	保護者経験なしダミー（不定期）	-1272.306	-0.010		-2753.273	-0.023		-1291.073	-0.019		-3589.118	-0.084	**
	定期学習費	0.049	0.078	**	0.023	0.042		0.016	0.051	*	0.010	0.051	*
定数項		16285.178		**	14945.369		**	981.770			9057.835		**
決定係数 (R2)		0.096			0.028			0.036			0.047		

**有意水準1% *有意水準5%

- ✓ 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の喜多下悠貴氏により、①子どもがやってみたいと思う学校外の体験をさせてあげられなかった経験があること、②①に対する理由として保護者の余裕不足（経済的、時間的、精神的・体力的）を選択していること、③①に対する理由として保護者の経済的余裕不足を選択していることの3点を被説明変数として重回帰分析を実施した。なお、社会体験は参加者数が少ないため、分析対象から除外した。
- ✓ 子どもがやってみたいと思う学校外の体験をさせてあげられなかった経験があることに対しては、「保護者が小学生の頃に体験活動に参加していないこと」が負の有意な効果（上記経験が起きる確率を下げる効果）があることが分かった。この点については詳細な背景が分からず慎重に議論するべきだが、P56（保護者の経験×子どもの経験）の結果を踏まえると、保護者に体験活動の経験がないことで、子どもの希望が保護者の経験の範囲内に収まっている状況が発生している可能性がある。
- ✓ 子どもがやってみたいと思う学校外の体験をさせてあげられなかった理由については、「世帯年収」が「保護者の余裕不足（経済的、時間的、精神的・体力的）」および「保護者の経済的余裕不足」の選択に対して、負の影響を与えていること、および「三大都市圏に居住していること」「子ども数」が「保護者の余裕不足（経済的、時間的、精神的・体力的）」および「保護者の経済的余裕不足」の選択に対して、正の影響を与えていることが分かった。

子どもに学校外の体験をさせてあげられなかった経験とその理由に関する重回帰分析

被説明変数		体験活動をさせてあげられなかった経験								
		①経験あり			②うち、保護者の余裕不足が理由			③うち、保護者の経済的余裕不足が理由		
説明変数		偏回帰係数	オッズ比	P値	偏回帰係数	オッズ比	P値	偏回帰係数	オッズ比	P値
世帯状況	世帯年収	-0.002	1.0002		-0.0006	0.9994 **		-0.0022	0.9978 **	
	居住地（三大都市圏ダミー）	0.410	1.1990		0.2411	1.2727 *		0.4102	1.5071 **	
	子ども数（多子世帯ダミー）	0.257	0.9799		0.2910	1.3378 **		0.2568	1.2928 *	
	ひとり親世帯ダミー	0.108	1.0582		0.1597	1.1732		0.1084	1.1145	
子ども	中学年ダミー	-0.092	1.0287		-0.1263	0.8813		-0.0925	0.9117	
	高学年ダミー	-0.271	0.7957		-0.3408	0.7112 **		-0.2708	0.7628	
保護者	保護者学歴大卒者なしダミー	0.081	0.9155		-0.0998	0.9050		0.0807	1.0840	
	保護者経験なしダミー（定期）	-0.842	0.4146 **		-0.7595	0.4679 **		-0.8424	0.4307 **	
	保護者経験なしダミー（不定期）	-0.591	0.4418 **		-0.7239	0.4849 **		-0.5913	0.5536 **	
	定期学習費	0.000	1.0000		0.0000	1.0000		0.0000	1.0000	
	定数項	-0.174	2.0940	**	0.099	1.1041		-0.174	0.8404	
	Nagelkerke	0.156			0.114			0.144		

**有意水準1% *有意水準5%

4. まとめ

① 低所得家庭の子の3人に1人が、学校外の体験活動が「何もない」

- ✓ 本調査では、低所得家庭の子どもの約3人に1人が、1年を通じて、スポーツや文化芸術活動、キャンプや旅行などの学校外の体験活動を「何もしていない」ことが分かった。「学校外の体験がない子どもの割合」は、低所得家庭ほど多く、世帯年収の多寡で2.6倍の差が生じていた。さらに、低所得家庭において、子どもがやってみたい体験をさせてあげられなかった最大の理由は「経済的事情」であった。

② 「体験の貧困」の問題

- ✓ 調査結果から、子どもたちが自らの力で変えることのできない環境的要因によって、やりたい体験をあきらめざるを得ない状況が浮かび上がった。特に、子どもがやりたくてもスポーツや文化芸術活動、キャンプや旅行などの体験を「何もできない」状態は、「体験の貧困」と呼んで差し支えないだろう。
- ✓ 子どもたちは、様々な体験を通じて、自らの強みや個性を発見し、伸ばしたり、意欲や自信、学ぶ力を育んだり、多様な人と繋がる機会を得る。これらは、子どもたちが豊かな生活を送るうえで、不可欠な機会であると考えられる。「体験の貧困」は、子ども本人の意志に反して、これらの機会を欠いた状態である。
- ✓ これは、第一に「子どもの権利」という観点から問題である。日本が批准している「子どもの権利条約」では、子どもが経済状況等により差別されない権利、育つ権利、遊びやレクリエーション、文化活動への参加の権利を認めている。2023年4月から施行された「こども基本法」は、同条約の精神に則り、基本理念を定めている。子どもがやりたくても体験活動に参加できない状態は、子どもの権利を侵害している状態である※。
- ✓ 次に、「体験の貧困」は、子どもの文化資本や社会関係資本の蓄積を妨げる可能性がある。それにより、子どもの将来の進路・職業選択や所得にも影響を及ぼし、格差や不平等の世代間連鎖を生むという点も大きな問題である。これは、将来の社会の担い手を失うことでもあり、社会経済的な損失も大きい。

※子どもの意思に反して、やりたくない習い事などを大人に押し付けられることも、子どもの権利侵害の一つであると考えている。今回は、「子どもがやりたい」という意思を示しているにもかかわらず、それが環境的要因でできない状態に焦点を当てて論じている。

③ 家庭背景別の体験支出の格差

- ✓ 子どもの年間体験支出を見ると、家庭背景や居住地域など、子ども自身が変わることのできない「生まれ」によって格差が生じていた。家庭の経済状況だけでなく、世帯構成（ひとり親世帯か否か、多子世帯か否か）、保護者学歴（保護者に大卒者がいるか否か）、居住地域（三大都市圏※に居住しているか否か）などの背景別に分析をしたところ、いずれも体験支出の差が生じていた。

※三大都市圏は、関東（千葉県、東京都、埼玉県、神奈川県）、中部（愛知県）、関西（京都府、大阪府、兵庫県）とした。

- ✓ 三菱UFJリサーチ&コンサルティングの喜多下悠貴氏による多変量解析（重回帰分析）によると、分析対象としたスポーツ・運動、文化芸術活動、自然体験、文化的体験のいずれの分野においても、体験支出と関連のある家庭背景として「世帯年収」の影響は有意で最も大きかった。その他、影響の大きさや分野は様々だが、保護者学歴、居住地域、保護者の体験の有無等が子どもの体験支出に影響していた。
- ✓ ただし、無料又は安価で参加できる体験活動も存在するため、支出の量が直接的に機会の量を示すとは限らないことには留意されたい。

④ 体験を阻害する理由

- ✓ 子どもがやってみたいと思う体験をさせてあげられなかった理由には、経済的事情や送迎などに係る保護者の時間的余裕など、様々な事情が挙げられた。体験格差解消の対策を考える際、阻害要因が複合的であることを十分に留意しながら、打ち手を検討する必要がある。

i 経済的な事情

- 低所得家庭では、経済的事情でさせてあげられない家庭が半数以上と、一番多かった。また、家庭背景や地域別に分析すると、いずれも経済的な事情と回答する割合は、次ページにあげる「時間的余裕」に次いで多く、4割～5割程度に上った。

ii 保護者の時間的余裕（送迎など）

- 「保護者の時間的余裕（送迎など）」をあげた割合も、経済的事情と並んで多かった。特にひとり親世帯、多子世帯、三大都市圏外に居住する世帯、保護者に大卒者がいない世帯では、いずれも「時間的余裕」が最も多かった。特にひとり親世帯や多子世帯では、マンパワーの問題で、送迎や付き添いなどの負担が大きいと考えられる。また、今回の調査対象が小学生であり、送迎の必要性が高いことも留意する必要がある。

iii 地理的条件（選択肢の格差）

- 「家の近くに参加できる活動がない」との理由が、経済的事情や保護者の時間的余裕に次いで多かった。家庭背景や地域別にみると、いずれも3割程度にのぼった。地域によっては体験の選択肢が異なり、地理的条件が阻害要因の一つになっている可能性が考えられる。

iv 保護者の体力的・精神的余裕

- 「保護者の体力や精神的余裕がない」と回答する割合が次いで多かった。特に、低所得家庭や多子世帯では2割以上が体力的・精神的余裕と回答した。前述のひとり親世帯や多子世帯が抱えるマンパワーの問題も関連すると考えられる。また、低所得世帯では経済面以外にも、生活面の困りごとを複合的に抱えているケース（食の問題、心身の疾患、障害、介護・介助など）が多い。これらの生活面の課題によって、子どもの体験の優先順位を下げざるを得ないことが考えられる。

v 情報の格差

- 「どのような活動があるかわからない」と回答した割合が、世帯構成や地域に関わらず1割以上であった。特に地域で活動するクラブや習い事は小規模な事業者やサークルなども多いため、保護者同士のネットワークや地域との繋がりが豊富であるほど、情報を得やすいものと考えられる。

vi 家庭や地域の文化資本

- 「保護者が必要性を感じない」と回答した割合が3%程度あった。保護者が子どもの体験にどこまでの価値や必要性を感じ、時間やお金をかけるかは、保護者の価値観や、家庭・地域の文化資本の影響を受けやすい。特に小学生の場合は、保護者や周囲の影響は大きいため、家庭環境の違いで、子どもの体験機会が異なる可能性が考えられる。

※保護者の声では、家族の障がいや疾病により体験活動への参加が難しいという声も複数寄せられた。これらの詳細な状況の調査については今後の課題としたいが、今回の調査範囲以外にも様々な理由があると考えられる。

① スポーツ・運動の格差

- ✓ 定期的な「スポーツ・運動」に参加している子どもの割合は、世帯年収の多寡で20ポイント以上の差が生じており、各分野の中でも最も差が大きかった。スポーツ・運動の中でも、「水泳」の差が最も大きく、世帯年収の多寡で2倍以上の差が生じていた。水泳教室は大型の施設が必要となるため、民間事業者（企業等）がスクールを運営するケースが多く、ボランティアな活動と比較して月謝が高額になりやすい可能性が背景として考えられる。

② 音楽活動の格差

- ✓ 定期的な「文化芸術活動」に参加している子どもの割合は、世帯年収の多寡で約15ポイントの差が生じていた。特に定期的な音楽活動への参加には、世帯年収によって2倍以上の差が開いていた。音楽に関しては、楽器などの用具が必要となるため、支出が避けられない活動であることも背景として考えられる。

③ 自然体験の格差

- ✓ 「自然体験」は、世帯年収の多寡で16ポイントの差が生じていた。世帯年収別・居住地域別に分析すると、地域に関係なく、世帯年収が高いほど子どもの自然体験に参加している子どもの割合が高かった。自然体験にかかる支出をみると、三大都市圏の世帯収入600万円以上の家庭が突出して多かった。

④ 旅行の格差

- ✓ 旅行や地域行事、動物園や水族館、スポーツ観戦や芸術鑑賞に行くなどの「文化的体験」の機会の有無も、世帯年収によって15ポイント程度の差が生じていた。特に、「旅行、観光」は、世帯年収の多寡で20ポイントほどの差が生じており、最も大きかった。特に旅費交通費などの支出が避けられないことや保護者の時間的余裕も必要な活動であることが背景として考えられる。

① 保護者の体験と子どもの体験の関係

- ✓ 同じ世帯年収300万円未満の家庭の中でも、保護者が小学生の頃に体験活動をしていたか否かで、子どもの体験機会の多寡に差が生じていた。保護者が小学生の頃に体験活動をしていない場合、その子どもが直近1年間で体験が「何もない」割合（=体験の貧困）が58.1%と、半数以上に上った。これに対し、保護者が小学生の頃に体験活動をしていた場合、子どもの体験が「何もない」割合は17.4%と、大きな差がみられた。
- ✓ 喜多下氏による多変量解析においても、保護者の体験は、子どもの体験支出に影響を及ぼしていることが示唆された。

② 低所得家庭の保護者ほど、小学生の頃の体験が少ない

- ✓ 現在の経済状況が厳しい家庭の保護者ほど、小学生の頃に学校外の体験活動に参加していない割合が高かった。また、大卒でない保護者は、小学生の頃に学校外の体験活動に参加していない割合が高かった。

③ 保護者の子ども時代の体験と将来の年収等の関係に関する仮説

- ✓ 今回の調査では因果関係まで十分に解明することはできないが、a. 保護者の子ども時代の体験機会、b. 大人になってからの年収や学歴等、c. 自身の子ども時代の体験機会は、それぞれが関係している可能性が示唆された。
- ✓ a~cの関係性についての仮説として、第一に、子ども時代に多様な体験をしている場合、非認知能力が向上し、それが学歴や年収、社会的地位等に結びついている可能性がある（前述aがbに影響している可能性）。第二に、保護者自身が子ども時代にスポーツや文化芸術、自然等に触れる楽しさを身を持って感じていなかったり、自分にとって重要な経験であったと認識したりしていない場合は、子どもの体験を必要なもの、重要なものと認識せず、その結果として、自身の子どもに多様な体験をさせようと思わないという可能性も考えられる（前述aが、保護者の意識や価値観に影響し、結果としてcに影響している可能性）。P114のviで触れた通り、経済的な事情に加え、このような保護者の意識や価値観が、子どもの体験機会の多寡に影響している可能性が考えられる。
- ✓ これらを踏まえると、「貧困の世代間連鎖」の解消において、低所得家庭の子どもたちに対して学習や生活の支援だけでなく、体験機会の提供についても、光を当てていく必要があると考えられる。

① 物価高騰による子どもの体験格差の拡大

- ✓ 本調査では、物価高騰の影響についても調査した。その結果、物価高騰により、特に経済的に厳しい家庭や、ひとり親の家庭において、子どもの体験機会が減少している状況が明らかになった。減少見込みも含めると、実に低所得家庭の半数以上、ひとり親の家庭の約半数に影響を及ぼしていることがわかった。
- ✓ この結果から、既に存在している子どもの体験格差は、今後さらに拡大する可能性が示唆された。

② 有事における「学習」と「体験」の優先順位

- ✓ 調査では、物価高騰の影響による学習機会の減少についても尋ねているが、体験機会と同様、物価高騰の影響は学習機会の減少にも影響していることが分かった。しかし、その減少割合には違いがあり、体験機会の方が、学習機会よりも減少していた。低所得家庭ほど、体験機会の減少割合が学習機会と比較して大きかった。
- ✓ この結果からは、有事でやむを得ず支出を削らなければならない場合、学習への支出よりも体験への支出が先に削られやすいという可能性が示唆される。

③ 子育て世帯全体への影響

- ✓ 今回の調査では、世帯年収600万円以上の家庭においても、1割以上の家庭で体験機会が減っていた。また、今後の見込みも合わせると、3割以上にのぼることから、物価高騰は、経済的に厳しい家庭だけでなく、子育て世帯全体の体験機会に影響を及ぼしていると考えられる。

① 多様な体験活動の担い手の存在

- ✓ 体験の運営主体については、「自然体験」以外の分野では「民間（企業・NPO・個人）が経営する団体・教室」による活動（以下、民間事業者による体験活動）に参加している子どもの割合が最も高かった。
- ✓ 一方で、地域や保護者によるボランティアや学校の放課後活動、自治体など、多様な主体が地域の体験活動の担い手となっていることもわかった。体験格差の解消の施策を検討するうえで、これらの多様な地域の体験活動の担い手との連携が必要であると考えられる。

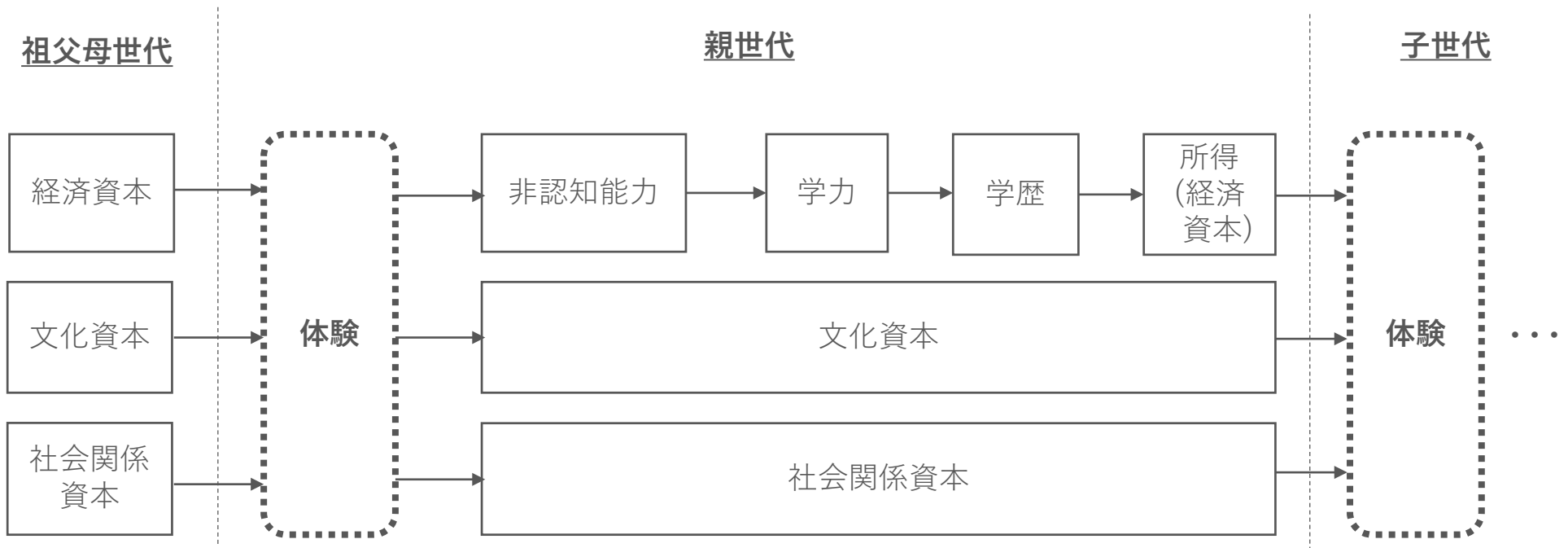
② 地域によって異なる体験活動の担い手

- ✓ 居住地域別で、子どもが参加している体験活動の運営主体を見ると、三大都市圏外では、三大都市圏と比較して「地域や保護者のボランティアが行っている団体・教室」の体験活動（以下、ボランティアによる体験活動）に参加している子どもの割合が高いなど、傾向の違いも見られた。
- ✓ これらの地域による違いに着目したうえで、その地域特性に応じた施策を議論する必要がある。

③ ボランティア運営の体験活動にも一定の経済的負担は発生

- ✓ 子どもがボランティアによる体験活動に参加している家庭での年間支出額は、民間事業者による体験活動に参加している家庭の年間支出額より低かった。それもあってか、世帯年収300万円未満の家庭やひとり親の家庭においては、ボランティアによる体験活動に参加している子どもの割合が比較的高かった。
- ✓ ただし、いずれの運営主体による体験活動でも一定の費用負担は発生している。ボランティア運営のために月謝や参加費がない場合でも、用具代や交通費（遠征費）などの負担が発生するためだと考えられる。また、同じ運営主体による体験活動でも、高所得家庭ほど多くの支出を行っているケースも多く見られた。

今回の調査結果や先行研究などを踏まえた場合、
貧困の世代間連鎖の経路の一つに「体験格差」があるという仮説が考えられる。
「体験格差」の解消は、貧困の世代間連鎖を断ち切るうえで重要な施策となり得る。



※本モデル図は、仮説を簡易的に示したものである。各要素の関係性は複雑であり、この図に示していない要素も数多く存在すると考えられる。また、全ての因果関係が示されているわけではない。今後、研究を重ね、仮説検証していく必要がある。

従来の子どもの貧困対策では、生活・学習支援や進学支援に重点が置かれ、子どもの体験には、十分に光が当たってこなかった。国や自治体は、体験格差の解消を重要な施策として位置づけ、次のような対策を講じることを求めたい。

1. 子ども・家庭への体験活動費の支援（＝体験奨学金）

- ✓ 体験活動の参加には参加費や用具代、交通費などの経済的な負担があり、子どもが体験をあきらめる理由として保護者の「経済的な事情」が多いことが調査から分かった。また、地域の多様な体験活動の担い手を重要な「社会資源」として捉え、それらを活かす方法を考えると、子ども・家庭に対して、地域の体験活動に参加するための費用の支援を行うことが有効な施策となり得る。
- ✓ また、体験を阻害する理由には複合的な背景があることを考慮し、単に資金的な援助をするだけでなく、子どもや家庭への相談支援や送迎、地域資源（体験活動）の開拓や繋ぎなどのコーディネートもセットで制度化する必要がある。特に困窮家庭の体験を支えていくには、福祉との連携が不可欠である。

2. 体験の担い手（主に市民活動）を支えるための基盤整備

- ✓ 特に保護者や地域住民、NPOなどによるボランティアな運営による体験活動は、子どもたちが安価に参加することができ、体験格差解消に重要な役割を果たしていると言える。また、体験活動の担い手が少ないエリアについては、新たに活動を創出していくことも必要である。
- ✓ これらの市民による体験活動を支え、担い手を増やしていくためには、全国的に減少傾向にある「自然の家」や「青年の家」であったり、各地の公共施設（文化施設、スポーツ施設など）を維持することも重要だと考える。また、市民がより公共施設を利用しやすい制度や運営を設計していくことも必要である。

3. 継続的な調査研究（施策の効果検証・実態把握）

- ✓ 国や自治体が体験格差の解消に向けた施策を行う場合、研究者等と連携した効果検証を行うことで、既存のプログラムを活かすとともに、地域の実情に合った効果的なモデルを作る必要がある。また、感染症流行や物価高騰などの影響で社会が大きく変化する中、体験格差の実態把握も継続的に行う必要がある。

「みてね基金」からのご支援によって 調査の実施や報告書の作成を行いました。



「みてね基金」は、株式会社MIXIが提供する子どもの写真・動画共有アプリ「家族アルバム みてね」の社会貢献活動です。子どもやその家族を取り巻く社会課題の解決を目的として活動している非営利団体を支援しています。

HP：<https://fund.mitene.us/>

※調査内容や結果に関する一切の責任は、調査実施主体であるチャンス・フォー・チルドレンにあるものとします。

<お問合せ>

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン
東京都墨田区錦糸1丁目11-1ノイエヤマザキ5階
TEL：03-5809-7394 E-mail：info@cfc.or.jp
HP：<https://www.cfc.or.jp/>

※本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は必ず出所：公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンと明記してください。本資料の全文又は一部を転載・複製する場合は、著作権者の許諾が必要ですので、当法人までご連絡ください。

日付	改訂内容
2023年7月4日	初版発行
2023年11月24日	「3-4.多様な体験の担い手」のウェイトバックした数値を修正。